

# 茨城県北西地域の維管束植物

茨城維管束植物調査会

## 概 説

今回の調査は久慈山地・八溝山地を中心とする県北西部地域と県中央部海岸について実施し、これらを次の6地域に区分して3年間調査を行った(図1)。

### 1. 那珂川河口部より久慈川河口部までの海岸部

調査地域は茨城県の中央部の海岸になる那珂川河口部から北へ久慈川河口部までの海岸部とした。

東海村村松の虚空蔵尊には狭いながらスダジイやタブノキを含む照葉樹林が見られる。

海岸に広く分布しているのは植林されたクロマツ林である。高木層はクロマツのみで、低木層にはヒサカキ、オオバイボタ、ムラサキシキブ、イボタノキ、エノキ、ヤマウルシ、ナツハゼ、アキグミ、タブノキ、トベラ、ドクウツギなどが点在している。

ひたちなか市馬渡付近では、海岸から内陸部に進むとクロマツ林を過ぎてアカマツ林になる。草本層にはヤブコウジ、コナラ、ツタウルシ、アカマツ、キツタ、イヌツゲ、シュンラン、ミヤマウズラ、コマユミ、コウヤボウキ、ナツハゼなどが見られ、稀に草本層にオオウメガサソウ、ハマカキランが出現することがある。

砂浜部ではウンラン、オニシバ、ケカモノハシ、ハマアオスゲ、コウボウシバ、ハマゴウ、ビロードテンツキ、ハマヒルガオ、ハマエンドウがあり、稀にハマニガナ、ネコノシタ、シロヨモギ、ハマボウフウが出現するが、帰化植物のコマツヨイグサが群生している。波打ち際に近い部分にはオカヒジキが残っているが、阿字ヶ浦では帰化植物のオニハマダイコンが確認された。

今回の調査では注目すべき植物として、ハナハタザオ、オオウメガサソウ、ノジトラノオ、ジョウロウスゲ、カキツバタ、ミクリ、ハマカキラン、シラカンバ、イワレンゲ、イヌハギ、ハマボウフウ、マルバトウキ、マツムシソウ、シロヨモギ、コハマギク、イソギク、ヤナギタンポポ、ハマギク、ネコノシタ、ヒトツボクロ、オニシバリ、ミツデカエデ、アケボノソウ、ビロードテンツキ、スカシユリなどを確認した。

### 2. 鍋足山周辺地域

鍋足山は、標高529mの頂点と三角点がある標高551.7mの頂点および笹原から望む頂点の3つがある。

調査はこの3頂点を結ぶ尾根コース、常陸太田市大中、同市大石、同市笹原および大子町猪ノ鼻峠からの登山道を中心に行った。

山頂から尾根沿いの岩場にはフクロダガヤ、キバナカワラマツバ、イワヒバ、カタヒバ、シノブ、マメヅタラン、ムギラン、イブキジャコウソウ、シモツケ、ミヤマママコナ、イワギボウシ、キリンソウ、マルバマンネングサ、ヒオウギ、エゾノヒメクラマゴケ、イワオモダカなどの久慈山地を代表する植物が生育している。

山頂付近の落葉広葉樹林は高木層にアカマツ、コナラ、クリ、アカシデ、クマシデ、イヌシデ、ミヤマヤシャブシ、オニイタヤなど、亜高木層はマルバアオダモ、リョウブ、ダンコウバイ、ケヤキ、ウリカエデ、アオハダ、コシアブラ、コマユミ、コナラ、アカシデなど、低木層にはアブラツツジ、ネジキ、ダンコウバイ、ガマズミ、ミヤマガマズミ、オトコヨウゾメ、コアジサイ、ツクバネ、ヤマウグイスカグラなど、草本層にはエイザンスミレ、オヤリハグマ、オクモジハグマ、カシワバハグマ、チゴユリ、ツクバキンモンソウ、ミヤマナルコユリ、シモツケ、ヤマユリ、イワギボウシ、キリンソウなどが見られる。

今回の調査でエゾノヒメクラマゴケ、カタヒバ、イワヒバ、アオホラゴケ、イワオモダカ、フクロダガヤ、ヒウオギ、マメヅタラン、ムギラン、コケミズ、ヒメレンゲなどは生育を確認できたが、ミヤマスカシユリ、ウチョウラン、ヒナラン、セッコクなどは確認できなかった。

### 3. 久慈山地

久慈山地は奥久慈県立自然公園の一部で、北は福島県矢祭町の檜山付近、南は常陸太田市(旧金砂郷町)までのおよそ30kmにおよび、海底火山で形成された火山角礫岩により急峻な地形を作っている。

大部分は二次的なコナラ、シデ類などの雑木林やスギ、ヒノキ植林などである。自然植生は男体山山頂付近に冷温帯性の落葉広葉樹林、西金砂山に暖温帯性の常緑広葉樹林などがわずかに見られる程度である。

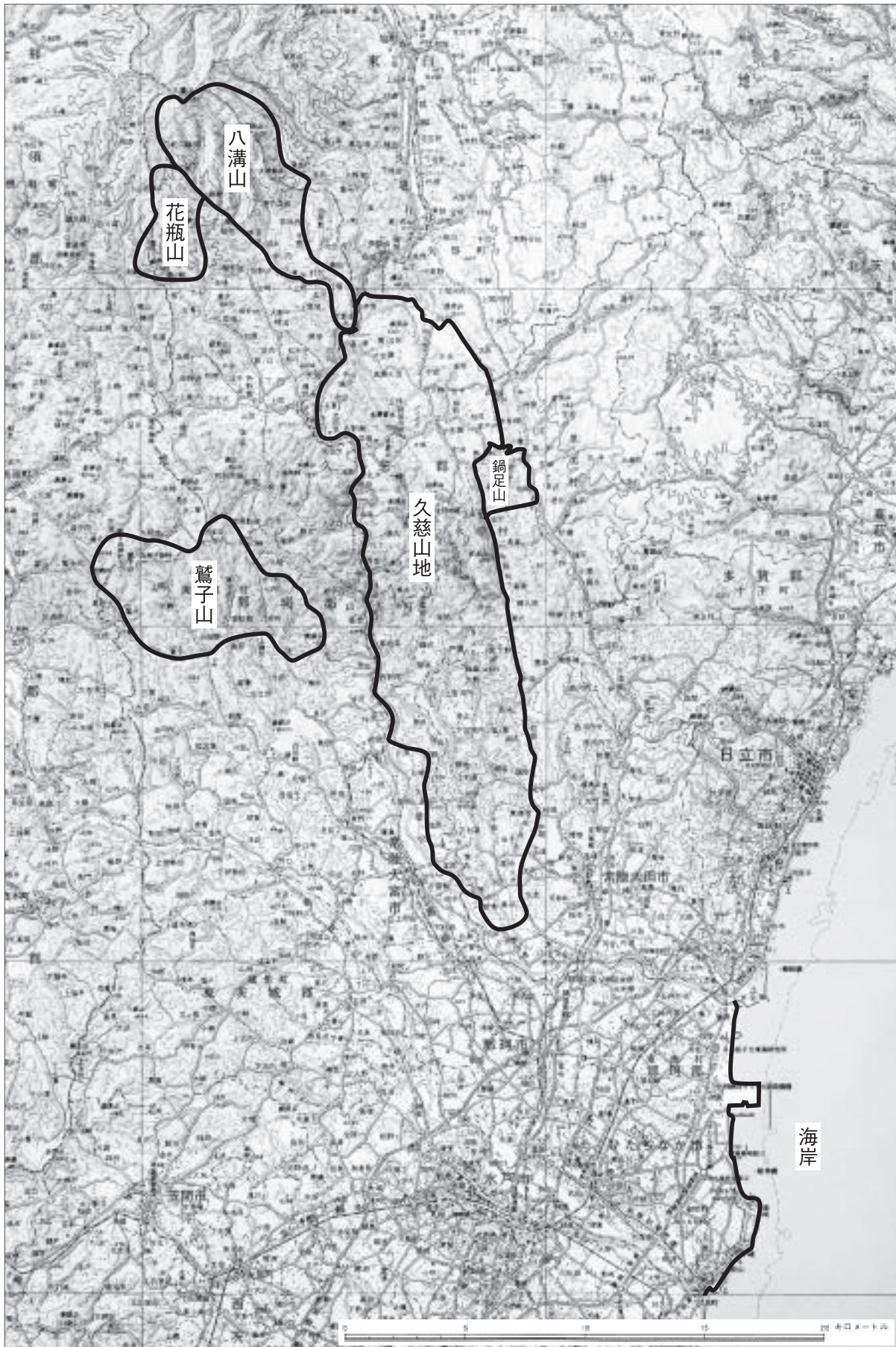


图1. 調査地 (国土地理院発行 1:200,000 地形図「白河」「水戸」を使用).



この地域には生瀬富士（400 m）、月居山（404 m）、白木山（616.3 m）、長福山（496 m）、男体山（653.9 m）、籠岩（501.4 m）、明山（457.4 m）、西金砂山（412 m）などの山が含まれる。

生瀬富士は袋田の滝の北側に位置し、尾根筋はアカマツが混じる落葉広葉樹が多く、山頂付近にはカシワ林がある。岩場にはイワヒバ、エゾノヒメクラマゴケ、ヒメハギ、フクロダガヤなどが生育する。

月居山はコナラやシデ類などの落葉広葉樹林が多く、山頂付近はオノオレカンバ、キジカクシなどが生育する。

白木山の溪谷沿いにはケヤキなどの落葉広葉樹が多く、林下にはエビラシダ、ミヤマナミキ、ハヤザキヒョウタンボクなどが生育し、尾根筋にナンキンナナカマドなどが生育する。

男体山は2002年の山火事で山頂付近のブナやミズナラなどの樹木が大きな被害をうけた。岩場にはイワヒバ、イブキジャコウソウ、キバナカワラマツバ、ヤハズハハコ、ミヤマスカシユリなどが生育する。

籠岩の山頂付近にはイワシモツケなどが生育する。尾根筋にはコナラなどに混じりアカマツ、ツガ、ヒメコマツ、ネズ、モミなどの常緑針葉樹がまばらに生育する。

西金砂山山頂の南西側付近は茨城県環境保全地域に指定されスダジイの優占した常緑広葉樹林になっている。山頂付近には冷温帯性のゴヨウツツジ、ブナの大木も数本生育する。

調査は上記の地域を中心として、ブナ林、ケヤキ林、モミ林、スダジイ林、スギ植林、コナラ林、アカマツ植林、休耕田、草地、溪谷林などで行った。

今回の調査では、注目すべき植物としてアベマキ、オオナンバンギセル、スプタ、ワチガイソウ、タヌキナルコ、オオバウマノスズクサ、コタニワタリ、コガネシダ、エビラシダ、サジラン、ホテイシダ、ヒメコマツ、ツガ、オオチチッパベンケイ、アオノイワレンゲ、ミヤマトベラ、トウキ、サクラソウ、ハヤザキヒョウタンボク、キンレイカ、ヤハズハハコ、アキノハハコグサ、アギナシ、ギョウジャニンニク、タマガワホトトギス、ミヤマスカシユリ、フクロダガヤ、セッコク、ツクバスケなどを確認した。

#### 4. 鷲子山、尺丈山、青麻山周辺地域

調査地域の山頂は神社が置かれ、信仰の対象になっているので、比較的人の手が加えられない状態で残っている。特に、鷲子山は大きな神社が祭られているた

め、神社林として古くから保存されている。

調査は鷲子山、尺丈山、青麻山の山麓から山頂にかけての山林を主な調査地域とした。

鷲子山（標高468 m）は、山頂に鷲子山山上神社が祭られている。周辺はスギ、ヒノキの人工林になっているが、山頂付近は神社林として保護されモミ、ブナ、イヌブナなどの冷温帯林とシラカシ、ウラジロガシなどの暖温帯林とが見られる。冷温帯林の林床には、稀産種の草本植物としてカタクリ、ウスバサイシン、レンゲショウマ、イワウチワなどが見られる。

尺丈山（標高511.5 m）の山頂付近は展望台が設けられている。周辺はスギ、ヒノキの人工林が大部分を占め、尾根沿いの一部にコナラなどの落葉広葉樹の二次林が残っている。

青麻山（標高394.9 m）の大部分はスギ・ヒノキの人工林で占められ、一部の尾根や山頂付近はコナラなどの二次林になっている。また、スギ林にはオオクジャクシダ、キヨスミヒメワラビなどの暖温帯性のシダ植物や、ミヤマクマワラビなどの冷温帯性のシダ植物が見られる。

スギ林は、この地域で最大の面積を占めている。鷲子山神社近くのスギ林では、胸高直径約50 cmのスギが高木層を形成している。亜高木層はウワミズザクラ、アワブキ、ミズキなどが見られる。尺丈山の標高300 m付近のスギ林では、胸高直径30～40 cmのスギが高木層を形成している。亜高木層はなく、低木層にはチャノキ、ウワミズザクラ、ハナイカダ、ヤマザクラ、コアカソ、ウリノキ、ヤブムラサキ、ツタウルシなどが見られる。青麻山の標高300 m付近のスギ林は、胸高直径40 cm～50 cmのスギが高木層を形成している。亜高木層はなく、低木層にはアオキ、ヤマウコギ、アラカシ、マタタビ、ヤマウルシ、ウリノキ、タマアジサイ、ミツマタ、ウワミズザクラ、ハナイカダ、ヒメコウゾ、ムラサキシキブ、サンショウ、ミツバアケビ、ツタウルシ、ヤマザクラ、ニワトコ、ネムノキ、ツタ、ニガキ、フジなどが見られる。

モミ林は鷲子山の尾根沿いにブナやヤマザクラなどと混生して見られる。高木層はモミの他にオニイタヤ、ヤマザクラ、ブナ、イヌブナ、ヒノキ、スギなど、亜高木層はオオバマンサク、シキミ、リョウブ、シラカシ、イヌシデなどが見られる。

今回の調査では注目すべき植物としてミズニラ、キジノオシダ、シノブ、コモチシダ、キヨスミヒメワラビ、ミヤマクマワラビ、オオクジャクシダ、タニヘゴ、フモトシダ、コバノヒノキシダ、コゴメヤナギ、ブナ、

エゾエノキ, ナガバヤブマオ, ヤマトキホコリ, レンゲショウマ, ルイヨウボタン, ウスバサイシン, コウモリカズラ, ナツツバキ, ジロボウエンゴサク, ムカゴネコノメ, オオウラジロノキ, ツルキンバイ, ミヤマフユイチゴ, ヒナウチワカエデ, イイギリ, コミヤマスマミレ, ヒメミソハギ, タニミツバ, イワウチワ, レンゲツツジ, ゴヨウツツジ, トウゴクミツバツツジ, ミヤマタゴボウ, サワリソウ, ミヤマナミキ, マルバノホロシ, ハグロソウ, フクシマシャジン, キキョウ, アキノハハコグサ, オヤリハグマ, センダイトウヒレン, サワギク, アマナ, ササクサ, イヌアワ, ミコシガヤ, マツバスゲ, ユウシュンラン, ムヨウラン, ジガバチソウ, カヤランなどを確認した。

### 5. 花瓶山地域

花瓶山は八溝山の南に位置し山頂は尾根づたいに八溝山につながっている。山頂の北東部に自然環境保全地域があり、ブナとカエデ類を中心とする林が残っている。

調査地は花瓶山を対象とし、東部は小田貝より山頂にかけて、南部は佐貫より山頂にかけて、西部は県境までとした。

自然環境保全地域に指定されている地域のブナ林は、大木が目立ち訪れるたびに老木が倒れるなど世代交代もうまくできているように見受けられる。高木層にブナ、ミズナラ、ミヤマヤシャブシ、ナツツバキ、モミ、イヌシデ、リョウブ、オオバマンサク、アサダ、ミズメ、アズキナシ、ハウチワカエデ、ヒトツバカエデ、コハウチワカエデ、アオハダ、ウリハダカエデ、ヤマザクラ、オオウラジロノキ、アカシデなど多くの種類が目立つ。

スギ林は、この地域で最も広い面積を占め、沢沿いに豊かなスギ林が広がっている。亜高木層はなく、低木層にヤマアジサイ、タマアジサイ、ヤマウルシ、オオバアサガラ、ヤマブキ、カラスザンショウ、リョウブ、コアジサイ、モミジイチゴ、コクサギなど、草本層にはオシダ、ツヤナシイノデ、イワガネゼンマイ、ホソバナライシダ、ナツノハナワラビ、クラマゴケ、マツカゼソウ、トチバニンジン、コバギボウシ、タチシオデ、ミミガタテンナンショウ、ニリンソウ、キクザキイチゲ、ヒゴクサなどが見られた。小田貝コースの林床にはレンゲショウマの群生を確認した。

沢沿いにはサワギク、マルバコンロンソウ、ミヤマキケマン、トンボソウ、ユリワサビ、シロバナエンレイソウ、コチャルメルソウ、カメバヒキオコシ、タマ

ブキ、シラネセンキュウなどが見られた。

今回の調査では注目すべき植物としてカヤラン、ノギラン、イワウチワ、レンゲショウマ、ワサビ、ヤワタソウ、コミネカエデ、オオウラジロノキ、ナガミノツルキケマン、オヤリハグマ、オオガンクビソウ、ササクサ、ミヤマシダ、チャボイノデ、シノブカグマ、イワネコノメ、ナンキンナナカマド、ミヤマムグラなどを確認した。

### 6. 八溝山周辺地域

八溝山は、茨城県の北部にあり、栃木県および福島県との3県の境界に位置し、標高1,022 mの山で、茨城県では最高峰である。八溝山地は北から八溝山塊・鷲子山塊・鶏足山塊および筑波山塊に区分され、八溝山は八溝山塊に含まれる。

今回の調査は八溝山頂域を中心に、茨城県久慈郡大子町上野宮域を中心に蛇穴から山頂へのルート、日輪寺から山頂ルート、腐沢、蛇穴新田の奥の沢、かぶれ石沢、大久保沢、中郷、唐竹久保・大神宮から高笹山頂途中、下野宮広石根、花瓶山北部地域などについて行った。一部、福島県矢祭町茗荷沢、入山沢ルート、山頂裏の林道なども行った。

ブナ林は山頂を中心に残されており、茨城県域では日輪寺から山頂への山道沿いに大きなブナを含む林がある。高木層にはブナ、ミズナラ、コシアブラ、イヌブナ、ホオノキなどがあり、ブナとミズナラが目立つ。亜高木層にはコシアブラ、オオモミジ、リョウブ、ヤマボウシ、ヒトツバカエデ、クマシデ、ウリハダカエデ、アオハダなど、低木層にはコアジサイやリョウブが目立ち、他にヤマツツジ、コゴメウツギ、オオミヤマガマズミ、オオカメノキ、ハウチワカエデ、ゴヨウツツジ、ベニバナツクバネウツギ、アカシデなど、草本層にはビッチュウミヤコザサの他、春にはカタクリ、ツルキンバイが目立つ。

沢沿いにはサワグルミ、ケヤキやオニイタヤを高木層とする林が残っており、亜高木層にオニイタヤ、エゴノキ、オオバアサガラ、フサザクラ、チドリノキなど、低木層にはアブラチャン、ハナイカダ、ミツバウツギ、タマアジサイ、アワブキ、ヤマアジサイなど、草本層は早春にはヨゴレネコノメ、コチャルメルソウ、ニリンソウ、ミヤマハコベ、アズマガヤ、ラショウモンカズラ、コンロンソウ、フタバアオイ、夏はイッポンワラビ、イワシロイノデ、ジウモンジシダなどのシダ植物が目立つ。

スギ植林地は各地に見られ、林床は比較的明るく、



湿度も高いので草本層がよく発達しており、特にシダ植物には良い生育地になっている。このようなスギ林の草本層は種類が多く、リョウメンシダ、イワシロイノデ、ムカゴイラクサ、キヨタキシダ、ジュウモンジシダ、イヌワラビ、イワガラミ、オクマワラビ、オシダ、ヤマイヌワラビ、クサアジサイ、ホソバナライシダなどがよく出現する。稀にオニヒカゲワラビ、ホソバイヌワラビ、ウスヒメワラビ、チャボイノデなどが見られる。

今回の調査で注目すべき植物として、ヤシャビシャク、オクタマシダ、ウスヒメワラビ、オニヒカゲワラビ、ミヤマノキシノブ、ダケカンバ、レンゲショウマ、ヤマブキソウ、ヤグルマソウ、イワウチワ、サラサドウダン、オヤリハグマ、センダイトウヒレン、コケイランなどは確認できた。一方、八溝山に生育の記録のあるスギラン、ムカゴネコノメ、コウリンカ、オシヤグジデング、ハリモミ、ツガ、クロベ、ギンバイソウ、ナンキンナナカマド、ヤミゾスミレ、アズマシャクナゲ、フクシマシャジン、クルマバハグマ、イワキハグ

マ、アオフタバランなどは確認出来なかった。

以上、今回の調査地を6地域に分けて調査を行ったが、詳細については各章を参照されたい。

#### 調査研究

安嶋 隆 (茨城県立日立第二高等学校教諭)

岩波順子 (大洗町立南中学校教諭)

内山治男 (大成女子高等学校教諭)

成島 明 (茨城県立土浦第三高等学校教諭)

滑川敏行 (元北茨城市立精華小学校長)

丸山友一 (茨城町立駒場小学校長)

茂垣はるえ (茨城県立那珂高等学校教諭)

安 昌美 (元茨城県高等学校教育研究会生物部長)

渡辺義弘 (北茨城市中郷町石岡 404)

鈴木昌友 (茨城大学名誉教授 理学博士)

#### 執 筆

鈴木昌友

## 海岸地域の維管束植物

### はじめに

那珂川河口部より北へ久慈川河口部までの海岸部は、古くは東海村の原子力関連施設の工事、最近では常陸那珂港関連の大きな開発工事が行われるなど、地形を含めて変化の大きい地域である。また戦後水戸射爆場として米軍が使用し、その後日本に返還され、一部は国営ひたち海浜公園として利用されている松林にオオウメガサソウが知られている。植物の調査では村松海岸（河田・林，1953）は、南の大洗海岸と共に、水戸に近く、他の海岸よりは早くから行われていた。東海村豊岡からひたちなか市阿字ヶ浦の海岸部の砂浜部は狭くなってきた。磯崎から平磯への海岸は岩礁海岸で、砂浜は狭い、殿山の海岸部は道路、港関連で地形や土地利用も変化が大きい所である。現状を記録するように務めた。

### 調査方法

#### 1. 調査地の選定

調査地域としては茨城県の中央部の海岸になる那珂川河口部から北へ久慈川河口部までの海岸部とした。行政上は東海村とひたちなか市に含まれる。実際に海岸部の調査は東海村では豊岡、村松、照沼で、ひたちなか市では長砂、馬渡、阿字ヶ浦、磯崎、平磯、殿山で行った。

#### 2. 調査期間

平成 15 年度から 17 年度の 3 年間である。

##### (1) 平成 15 (2003) 年度

- 6月 7日 ひたちなか市平磯
- 26日 ひたちなか市馬渡
- 7月 5日 ひたちなか市阿字ヶ浦・磯崎
- 9月 28日 ひたちなか市馬渡

##### (2) 平成 16 (2004) 年度

- 4月 28日 ひたちなか市馬渡
- 5月 3日 ひたちなか市馬渡
- 24日 ひたちなか市磯崎
- 6月 11日 那珂郡東海村豊岡
- 28日 ひたちなか市阿字ヶ浦
- 9月 14日 ひたちなか市馬渡
- 10月 2日 那珂郡東海村豊岡
- 7日 ひたちなか市 磯崎・馬渡

##### (3) 平成 17 (2005) 年度

- 5月 25日 那珂郡東海村村松新川河口付近
- 6月 29日 ひたちなか市馬渡
- 11月 7日 ひたちなか市磯崎

### 3. 調査項目

維管束植物（シダ植物，種子植物）を対象として、植物相と植生の概要の調査を行った。調査項目は次のとおりである。

- (1) 調査地に生育する全植物の確認と記録
- (2) 調査地の植生の概要
- (3) 生育する植物の採集と標本の作成（原則として花・実が付いている個体を採集，1種の植物につき2～4点作成）。採集・確認目録は付表1に示した。なお、付表1に示した種数は次の通りである。
  - ・確認種 494 種
- (4) 写真の撮影（採集した主な植物とその生育状況がわかる写真）。

### 結 果

#### 1. 植生の概況

##### (1) クロマツ林

東海村村松の虚空蔵尊には狭いながらスダジイやタブノキを含む照葉樹林が見られるが、海岸に広く分布しているのは植林されたクロマツ林である。高木層はクロマツのみで、低木層にはヒサカキ、オオバイボタ、ムラサキシキブ、イボタノキ、エノキ、ヤマウルシ、ナツハゼ、アキグミ、タブノキ、トベラ、ドクウツギが点在し、草本層にはトボシガラ、ヤブラン、ハマエンドウ、ナキリスゲ、ウメガサソウ、ノイバラ、ネコハギ、ススキ、セイトカアワダチソウ、ヒメヤブラン、ミツバツチグリがある。稀にハマカキラン、センダイスゲ、ヒメイズイなどがある。

つる植物としてツタウルシ、エビヅル、キツタ、ミ



図 1. クロマツ林。



ツバアケビ、ツタなどが見られる。

## (2) アカマツ林

ひたちなか市馬渡付近では、海岸から内陸部に進むとクロマツ林を過ぎてアカマツ林になる。高木層にはアカマツが優占し、コナラが混じる所もある。亜高木層にはアカマツ、コナラが、低木層にはネジキ、ナツハゼ、ガマズミ、ヤマウルシ、イヌツゲ、ヤマウグイスカグラ、ヤマツツジ、イボタノキ、エゴノキ、アズマネザサなどがあり、草本層にはヤブコウジ、コナラ、ツタウルシ、アカマツ、キヅタ、イヌツゲ、シュンラン、ミヤマウズラ、コマユミ、コウヤボウキ、ナツハゼなどが見られる。稀に草本層にオオウメガサソウ、ハマカキランが出現することがある。

## (3) 海浜植物群落

古くは砂浜部には砂丘が連なり、クロマツ林近くのハイネズの群落にはヒメヤブラン、ノイバラ、ツルウメドキなどがあり、スカシユリが群生していることが多かった。また、ネコノシタやシロヨモギが群生していた。林縁にはハナハタザオが顔を出し、ハマカキランも点在していた。現在砂浜部ではウンラン、オニシバ、ケカモノハシ、ハマアオスゲ、コウボウシバ、ハマゴウ、ピロードテンツキ、ハマヒルガオ、ハマエンドウがあり、稀にハマニガナ、ネコノシタ、シロヨモギ、ハマボウフウが出現するが、帰化植物のコマツヨイグサが群生し、海浜植物を圧迫している。また、チガヤが群生すると海浜植物は少なくなる。

波打ち際に近い部分にはオカヒジキがあり、阿字ヶ浦では帰化植物のオニハマダイコンが群生していた。岩礁海岸の平磯海岸（図2）では、道路際の斜面にはハマニンニク、ハマヒルガオ、ツルナ、スナビキソウ、ハマボス、マルバトウキ、ハマゼリ、ハマツメクサなどが見られる。



図2. 平磯海岸。

阿字ヶ浦の崖地ではハマギク、ラセイタソウ、オニヤブソテツ、ハマゼリ、ハマツメクサなどが見られる。

## 2. 注目すべき植物

・絶滅危惧植物（国レベルの絶滅危惧植物）

### (1) ハナハタザオ（アブラナ科）（図3）

絶滅危惧 I A 類。本州（東北地方南部～中部地方）の草地に生える越年草。茨城県ではひたちなか市（旧勝田市）、日立市（旧十王町）の海岸に記録があるが、現在生育が確認できるのはひたちなか市の海岸のみである。個体数は比較的多い。茨城県絶滅危惧種。



図3. ハナハタザオ。

### (2) オオウメガサソウ（イチヤクソウ科）（図4）

準絶滅危惧種。北海道、本州（茨城県以北）に分布する常緑の小低木。本州では青森県と本県の海岸にのみ分布している。調査域では東海村、ひたちなか市のクロマツやアカマツの林下に群生地がある。ひたちなか市の生育地が南限地になる。松枯れが進行しており、生育地の環境は悪化しているようである。茨城県絶滅危惧種。



図4. オオウメガサソウ。

### (3) ノジトラノオ（サクラソウ科）

絶滅危惧 I B 類。本州（関東地方以西）、九州北部

## 植 物

の草地に生える多年草。県内の生育地は少ないが、海岸に近い地域に多い。調査域ではひたちなか市馬渡の海岸部に小さいが群生地がある。茨城県危急種。

### (4) ジョウロウスゲ (カヤツリグサ科)

絶滅危惧 I B 類。北海道、本州 (関東地方以北) の水辺に生える多年草。県内の産地は少なく、湖や大きなため池などの水辺に見られる。近くでは東海村などでも記録されているが、海岸近くではひたちなか市馬渡の湿地で見られた。個体数は 1 株のみであった。茨城県指定なし。

### (5) カキツバタ (アヤメ科)

絶滅危惧 II 類。北海道、本州、四国、九州の水辺や湿地に生える多年草。茨城県では生育地は少ない。調査域ではひたちなか市馬渡の湿地にヨシに混じりわずかに生存している。茨城県危急種。

### (6) ミクリ (ミクリ科)

準絶滅危惧種。北海道、本州、四国、九州のため池、湖沼、河川、水路などに生える多年草。県内では各地で確認されている。調査域ではひたちなか市馬渡の湿地に見られる。個体数は地形の改変もあり以前より減少している。茨城県希少種。

### (7) ハマカキラン (ラン科) (図 5)

絶滅危惧 II 類。本州 (青森県～愛媛県) の海岸のクロマツ林下などに生える多年草。茨城県の海岸では北部から南部の海岸まで見られるが個体数は多くない。調査域でも東海村からひたちなか市の海岸松林下に見られる。茨城県危急種。



図 5. ハマカキラン。

・茨城県絶滅危惧植物 (国レベル該当種を除く)

### (8) シラカンバ (カバノキ科)

希少種。北海道、本州 (中部地方以北) の主として山地に生育する落葉高木。茨城県では北茨城市小川の奥地に生育する他、平地部にも点在している。平地部では群生することなく、単木であることが多い。調査地内ではひたちなか市の海岸部のアカマツ林内に単木で存在していることを確認した。東海村のクロマツ林内のシラカンバは今回確認出来なかった。

### (9) イワレンゲ (ベンケイソウ科)

絶滅危惧種。本州 (関東地方以西)、九州に分布する多年草。茨城県ではひたちなか市の岩上や人家の屋根に生えていることが知られている。今回は個体数は少ないが確認出来た。詳細な調査が必要と思われる。

### (10) ハマナス (バラ科)

危急種。北海道、本州 (太平洋側は茨城県以北) の海岸に生える落葉低木。茨城県南部の海岸を南限地としているが、鹿嶋市の生育地以外個体数は非常に少ない。調査域では古くひたちなか市の海岸部に知られていたが、最近では確認されていない。今回も確認出来なかった。

### (11) イヌハギ (マメ科)

危急種。本州、四国、九州、琉球の河原や海岸の砂地に生える落葉低木。県内では産地は少ない。ひたちなか市の海岸には比較的個体数が多い。

### (12) ハマボウフウ (セリ科)

危急種。北海道、本州、四国、九州、琉球の海岸砂地に生える多年草。県内の海岸砂地に比較的普通に見られたが、食用に採取、各種工事などで各地の海岸で個体数は減少している。調査域でも個体数は減少している。

### (13) マルバトウキ (セリ科)

危急種。北海道、本州 (北部) の海岸に生育する多年草。ひたちなか市の海岸が南限地になる。調査域では殿山町、磯崎町、阿字ヶ浦町の海岸に見られる。

### (14) エゾオオバコ (オオバコ科)

絶滅危惧種。北海道、本州、九州の主として日本海側に分布する多年草。海岸砂地などに生え、植物体全体に軟毛がある。太平洋側では本県のひたちなか市が



南限地となる。平磯、磯崎の海岸では最近確認できないでいる。

(15) マツムシソウ (マツムシソウ科)

絶滅危惧種。北海道、本州、四国、九州の主として山地の草原に生える2年草。県内では草地の遷移や減少により生育地や個体数が少なくなっている。調査域ではひたちなか市磯崎の海岸草地で1株を確認した。開花は見られなかった。

(16) シロヨモギ (キク科)

危急種。北海道、本州(新潟県・茨城県以北)の海岸砂地に生える多年草。県内では北部の海岸では比較的良好に見られるが、南部では銚田市、鹿嶋市の海岸に稀に見つかっている。古くは調査域ではよく見られたが、最近では極端に少なくなっている。

(17) コハマギク (キク科)

希少種。北海道(根室～太平洋側を渡島)、本州(青森県竜飛岬～太平洋側を茨城県まで)の海岸崖地に生える多年草。ひたちなか市磯崎海岸を南限地とする。県北部の生育地と比較すれば個体数は少ない。

(18) イソギク (キク科)

絶滅種。本州(千葉県犬吠埼～静岡県御前崎までの太平洋岸)に分布。茨城県の生育地は本来の生育地かどうか疑問である。調査域ではひたちなか市磯崎町の道路の海岸側に見られるものは栽培種からの逸出の可能性があり。栽培種のキクとも交雑し、ハナイソギクに該当するものが生育している。

(19) ヤナギタンポポ (キク科)

危急種。北海道、本州、四国の山地の湿地などに生える多年草。茨城県では調査域の海岸部の松林に稀に見られる。

(20) ハマギク (キク科) (図6)

希少種。本州(青森県八戸市～茨城県ひたちなか市)の海岸崖地などに生育する多年草。日本の固有種で、ひたちなか市殿山の海岸崖地を最南端の生育地としている。調査域ではひたちなか市阿字ヶ浦の崖地に目立つも、磯崎、平磯の海岸にも見られるが個体数は多くない。また、砂浜部には見られない。殿山の産地は工事で消滅した。



図6. ハマギク。

(21) ネコノシタ (キク科)

希少種。本州(関東地方および北陸地方以西)、四国、九州の海岸砂地に生える多年草。古くは福島県いわき市、最近では茨城県日立市河原子の海岸に知られていたが、両地域とも現在は生育が確認されていないので、本調査域が太平洋側の北限地になる。個体数は海岸の改変もあり、以前より大幅に減少した。

(22) ヒトツボクロ (ラン科)

危急種。本州、四国、九州の明るい林下に生える多年草。県内では各地から報告があるが、いずれも個体数は少ない。本地域ではひたちなか市馬渡のアカマツ林下で数個体が確認されている。

・分布上注目すべき植物(国・県レベルの絶滅危惧種を除く)

(23) オニシバリ (ジンチョウゲ科)

本州(福島県以南)、四国、九州中部の暖地に生育する落葉小低木。夏に落葉する。果実は赤く熟する。調査域ではひたちなか市馬渡の松林下にはよく見られるが、個体数は多くない。

(24) ミツデカエデ (カエデ科)

北海道(南部)、本州、四国、九州(中部)の山地に生える落葉広葉樹で、県内でも北部の山地に見られる。調査域では東海村に記録が無く、ひたちなか市馬渡の沢沿い斜面に胸高直径30cm弱の個体が1本確認された。山地生樹木の平地部の生育地として注目される。

(25) アケボノソウ (リンドウ科)

北海道、本州、四国、九州の山野の湿地に生える越年草。茨城県では山地部に多く、平地部には少ない。

## 植 物

本地域ではひたちなか市馬渡の小さな沢沿いに生育している。山地生植物の平地部の生育地として注目される。

### (26) ピロードテンツキ (カヤツリグサ科)

本州 (関東地方以西), 四国, 九州, 琉球に分布する海浜植物で, 砂浜に生育する。現在は, 久慈川河口以北の海岸では見られず, 東海村の海岸を北限地している。ひたちなか市馬渡の砂浜部にもよく見られる。

### (27) スカシユリ (ユリ科) (図7)

本州 (紀伊半島, 新潟県以北) の海岸崖地や砂浜にも生える多年草。本地域では砂浜部や崖地に見られるが, 以前より個体数は減少している。



図7. スカシユリ。

### おわりに

近年大きく海岸の様子が変化した地域であるが, 残された部分の調査でもまだこの地域を北限や南限に近い生育地としている植物があることが分かった。自然度が大きく変化している海岸の植物相の調査の重要性はまだまだ高いと思われる。

### 参考文献

茨城県環境保全課. 1997. 茨城における絶滅のおそれ

のある野生 (植物編). 253 pp., 茨城県環境保全課. 岩槻邦男 (編). 1992. 日本の野生植物シダ. 311 pp., 平凡社.

河田 杰・林 弥栄. 1953. 鹿島灘沿岸地方における2国国有林の植物調査報告書. 林業試験場研究報告, (63): 9-74.

大井次三郎 (著)・北川政夫 (改訂). 1992. 新日本植物誌顕花篇. 1716 pp., 至文堂.

長田武正. 1989. 日本イネ科植物図鑑. 759 pp., 平凡社. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1981. 日本の野生植物草本Ⅲ. 259 pp., 平凡社.

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物草本Ⅱ. 318 pp., 平凡社.

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物草本Ⅰ. 305 pp., 平凡社.

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1989. 日本の野生植物木本Ⅱ. 305 pp., 平凡社.

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1989. 日本の野生植物木本Ⅰ. 321 pp., 平凡社.

鈴木昌友. 1970. 茨城の植物. 490 pp., 茨城新聞社.

鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.

東海村の自然調査会編. 1994. 東海村の自然. 337 pp., 東海村教育委員会.

### 調査研究

鈴木昌友 (茨城大学名誉教授 理学博士)

安 昌美 (元茨城県高等学校教育研究会生物部長)

### 執 筆

安 昌美 (元茨城県高等学校教育研究会生物部長)



## 鍋足山周辺地域の維管束植物

### はじめに

茨城県北部の久慈山地にある鍋足山（図1）は、常陸太田市里美および水府と大子町の境界近くにあり、3頂点が鍋を逆さにした様子に似ていることから呼ばれている。3頂点は、通称鍋足山と呼ばれている標高529 mの頂点と三角点がある標高551.7 mの頂点および笹原から望む頂点である。鍋足山一帯は、県内で他に見られない火山角礫岩がむき出しになって、岸壁や岩峰が見られ、秋の紅葉は見事である。

植物学的にもフクロダガヤ、ミヤマスカシユリ、ウチョウランなど、この地域でしか見られない特徴的な植物が生育している。しかし、鍋足山のまとまった調査報告は少ない。

この3頂点を結ぶ尾根コースと常陸太田市大中、同市大石、同市笹原および大子町猪ノ鼻峠からの登山道周辺に重点を置いた。なお、常陸太田市水府からのコースは利用できず文献での確認にとどめた。



図1. 鍋足三角点から鍋足山山頂を望む。

「茨城の植物」（鈴木，1970）における鍋足山の記録ではカタヒバ、イワヒバ、フユノハナワラビ、アオホラゴケ、コウヤコケシノブ、ハコネシダ、シノブ、シシガシラ、イワオモダカ、ミヤマスカシユリ、イワギボウシ、ヒオウギ、フクロダガヤ、ウチョウラン、ヒトツボクロ、ムギラン、マメヅタラン、スハマソウ、ツメレンゲ、ヒメレンゲ、ミツバベンケイソウ、ヨゴレネコノメ、ネコノメソウ、クサアジサイ、ノリウツギ、アイズシモツケ、ツクバダミ、イワウチワ、イブキジャコウソウ、オヤリハグマ、ヤハズハハコなどの生育が確認されている。

「茨城の生物第2集」（茨城県高等学校教育研究会生

物部，1981）「奥久慈の植物」の中で、安および大谷は、常陸太田市大中および同市水府湯草からの沢コースと尾根コース、山頂から猪ノ鼻峠に至る尾根コースを中心に調査している。

この中で鍋足山の植物として、シダ植物62種、裸子植物7種、被子植物440種（単子葉類127種、離弁花類272種・合弁花類168種）の合計509種が記録されている。

「茨城県植物誌」（鈴木ほか，1981）の鍋足山の項において、注目すべき植物としてアオホラゴケ、カタヒバ、エゾノヒメクラマゴケ、ケスゲ、フクロダガヤ、ミヤマスカシユリ、ヒナラン、ウチョウラン、ムギラン、マメヅタラン、コケミズ、アイズシモツケ、コウグイスカグラ、イブキジャコウソウ、オオガンクビソウなどの記録がある。

「里美の自然」（里美村教育委員会，1993）には、鍋足山頂上付近の岩場にエゾノヒメクラマゴケ、フクロダガヤ、ミヤマスカシユリ、イブキジャコウソウなどの生育が記録されている。

### 調査方法

#### 1. 調査地の選定

主な調査地域は、大中役場（旧里美村）から尾根沿いに鍋足山に至るコース、大石から沢沿いに登るコース、小中笹原から滝沿いを登るコース、鍋足山山頂から三角点山頂への尾根沿いコース、猪ノ鼻峠から三角点山頂への尾根沿いコースを中心とした。

#### 2. 調査期間

##### （1）平成15（2003）年度

平成15年度は、文献調査を中心に予備調査として、鍋足山および笹岩山を中心に行った。予備調査は5月から8月にかけて4回行った。

5月25日 大子町北富田上山～笹岩山

6月29日 旧水府村武生山～亀ヶ淵

7月2日 大子町猪ノ鼻峠～三角点～鍋足山

8月3日 旧水府村湯草～鍋足山下部

##### （2）平成16（2004）年度

平成16年度は3月から11月にかけて鍋足山調査を6回、関連調査として大子町北富田（5/28）、大子町袋田（4/11）を行った。

3月30日 旧里美村役場～鍋足山周辺

5月2日 大子町猪ノ鼻峠～三角点

30日 大子町猪ノ鼻峠～三角点～鍋足山

## 植 物

- 6月5日 太子町猪ノ鼻峠～三角点  
7月2日 旧里美村大石～鍋足山山頂  
11月23日 太子町猪ノ鼻峠～三角点～鍋足山

### (3) 平成17(2005)年度

平成17年度は4月から10月にかけて鍋足山調査を8回、関連調査として籠岩山(11/3)、月居山・月待滝(10/30)を行った。

- 4月3日 太子町猪ノ鼻峠～三角点  
30日 旧里美村笹原～三角点～猪ノ鼻峠  
5月21日 旧里美村役場～鍋足山～三角点  
6月18日 旧里美村大石～鍋足山～三角点～猪ノ鼻峠  
7月18日 太子町猪ノ鼻峠～旧里美村小中  
8月28日 旧里美村笹原～鍋足山  
9月10日 太子町猪ノ鼻峠～三角点～鍋足山  
10月30日 太子町猪ノ鼻峠周辺

### 3. 調査項目

維管束植物(シダ植物, 種子植物)を対象として, 植物相と植生の調査を行った。調査項目は次のとおりである。

- (1) 調査地に生育する全植物の確認と記録
- (2) 調査地の植生の概要
- (3) 生育する植物の採集と標本の作成

採集・確認目録は付表1に示した。なお、付表1に示した種類は次のとおりである。

・確認種 708 種

- (4) 写真の撮影

## 結 果

### 1. 植生の概況

鍋足山は奥久慈を代表する火山角礫岩で形成され, 植物分布上注目されている地域の一つであるが, 男体山や袋田, 八溝山ほど調査されていない。

鍋足山とその周辺の自然植生は尾根沿いや崖地で見られる。沢沿いや山腹はスギ, ヒノキの植林が多い。常緑広葉樹林は見られず, 山腹や沢沿いにヤブツバキ, シラカシ, シロダモなどが点在している。落葉広葉樹林は尾根に近い山腹で小規模な林が見られ, 高木層にコナラ, クリ, アカシデ, クマシデ, イヌシデ, ミヤマヤシャブシ, ケヤキ, オニイタヤ, イロハモミジ, ハリギリなどが見られ, 亜高木層にマルバアオダモ, リョウブ, ダンコウバイ, ウラジロノキ, ケヤキ, コハウチワカエデ, ウリカエデ, アオハダ, コシアブラ,

ウワミズザクラ, ツリバナ, コマユミ, トウゴクミツバツツジ, ゴヨウツツジなどが見られる。低木層にはアブラツツジ, トウゴクミツバツツジ, ゴヨウツツジ, ネジキ, ダンコウバイ, ガマズミ, ミヤマガマズミ, オトコヨウゾメ, ムラサキシキブ, コアジサイ, ツクバネ, ヤマウグイスカグラ, スズダケなどが見られる。草本層にはエイザンスミレ, マキノスミレ, オヤリハグマ, ヤブレガサ, オクモミジハグマ, カシワバハグマ, チゴユリ, ツクバキンモンソウ, ヒゲネワチガイソウ, ミヤマナルコユリなどが見られる。

山頂から尾根沿いの火山角礫岩が露出している岩場の植生は, 高木層はアカマツ, イロハモミジ, 亜高木層にアカマツ, コナラ, アカシデが見られ, 低木層にツクバネウツギ, ダンコウバイ, キハギ, マルバアオダモ, ツクバネなどが見られる(図2)。草本層にはフクロダガヤ, キバナカワラマツバ, イワヒバ, カタヒバ, シノブ, マメヅタラン, ムギラン, イブキジャコウソウ, シモツケ, ミヤマママコナ, ヤマユリ, イワギボウシ, キリンソウ, マルバマンネングサなどが見られる。断崖にへばりつくようにイワヒバ, マメヅタラン, ムギラン, ヒオウギ, ヒメレンゲ, イワギボウシ, イワデンダ, エゾノヒメクラマゴケ, イワオモダカなどが見られる。

今回の調査で, 同じような環境である北富田上山から籠岩山頂にかけての植生と非常によく似ていることが分かった。



図2. 火山角礫岩が露出している尾根。

### (1) 大中・大石から鍋足山頂への尾根沿い

最も一般的な登山道で, 山頂近くまでスギ, ヒノキの植林がされている。春にはチゴユリ, アケボノスミレ, マムシグサ, ミミガタテンナンショウ, アオダモ, ヤマブキ, ヤマツツジ, タチツボスミレ, ツルカノコソウ, クサイチゴ, ミヤマシキミ, ウチダシミヤマシ



キミ、ダンコウバイ、ハナイカダ、ツクバキンモンソウ、ショウジョウバカマ、ヒトリシズカなどが花を付けている。夏にはウスノキ、アカショウマ、ノササゲ、サルナシ、ヒメヤブラン、クサアジサイ、トチバニンジン、フタリシズカ、オオバノトンボソウ、オオバショウマ、イチヤクソウ、ハナイカダ、クモキリソウ、バйкаツツジ、アブラツツジ、ナツハゼなどが咲く。秋にはフクオウソウ、コウヤボウキ、ナガバノコウヤボウキ、カシワバハグマ、オヤリハグマ、ケムラサキニガナ、シラヤマギク、リュウノウギク、アワコガネギクなどが咲く。

山頂直下には落葉広葉樹林があり、高木層にコナラ、クリ、アカシデ、クマシデ、イヌシデ、ミヤマヤシャブシ、オニイタヤ、イロハモミジ、ハリギリ、アカマツなどがあり、亜高木層は少なくマルバアオダモ、リョウブ、ダンコウバイ、ケヤキ、ウリカエデ、アオハダ、コシアブラ、コマユミ、コナラ、アカシデなどが見られる。低木層にはアブラツツジ、ネジキ、ダンコウバイ、ガマズミ、ミヤマガマズミ、オトコヨウゾメ、ヤブムラサキ、コアジサイ、ツクバネ、ヤマウグイスカグラなどが見られる。草本層にはエイザンスミレ、オヤリハグマ、オクモミジハグマ、カシワバハグマ、チゴユリ、ツクバキンモンソウ、ミヤマナルコユリ、シモツケ、ヤマユリ、イワギボウシ、キリンソウなどが見られる。

## (2) 笹原からの谷沿い

小中の笹原登山道標識から入るが、急斜面・断崖に阻まれ装備をしないと前進できない。急斜面や絶壁を流れる滝が多く、北の入滝、中ん滝、幻の千本槍滝、銚子の口滝、団子岩滝、ハッチメ滝などがある。滝の岸壁にはイワヒバ、カタヒバ、イワタバコ、ウワバミソウ、コウヤコケシノブ、ウチワゴケ、アオホラゴケ、カンスゲなどが見られる。

登山口から滝付近にかけてバイケイソウ、アオスゲ、ミツバ、ヤブコウジ、マムシグサ、ヤブレガサ、イヌガンソク、ヤマハタザオ、ウワバミソウ、トキワハゼ、タチゲヒメヘビイチゴ、オオバコ、オオバノイノモトソウ、キバナアキギリ、ムカゴイラクサ、ドクダミ、テイカカズラ、イワガラミ、ツタウルシ、ウツギ、ウリノキ、ハナイカダ、コゴメウツギ、タマアジサイ、ジュウモンジシダ、オシダ、ヤブデマリ、オニタビラコ、ヨゴレネコノメ、クジャクシダ、オオバショウマ、クサアジサイ、サラシナショウマ、チダケサシ、ツルカノコソウ、モミジガサ、ベニシダ、ヤマウコギ、ウ

スバサイシン、ルイヨウボタン、タマブキ、ウマノアシガタ、ミズヒキ、マツカゼソウ、ヤブタバコ、クサコアカソ、ヌスビトハギ、イヌトウバナ、アキノキリンソウ、コバギボウシ、ハエドクソウ、ホウチャクソウ、ケムラサキニガナ、ウバユリ、コチヂミザサ、イノデ、フシグロセンノウ、ミヤマガマズミ、ヒメキンミズヒキ、トチバニンジン、ゼンマイ、アセビなどが見られる。

鍋足山山頂直下の谷にはスギ、ヒノキの植林がされているが、高木層としてアカマツ、ヤマザクラ、コナラ、ハリギリが見られ、亜高木層にリョウブ、イヌシデなどが見られる。低木層はミヤマシキミ、ツクバネウツギ、アオキ、ヒサカキ、コシアブラ、ハナイカダ、サンショウなどがあり、草本層はチゴユリ、テイカカズラ、ヤブラン、ジュウモンジシダ、クサアジサイ、ヤブコウジ、カシワバハグマ、オシダ、コアカソ、ヨツバムグラ、モミジガサ、フタリシズカなどが見られる。

## (3) 猪ノ鼻峠から三角点への尾根沿い

猪ノ鼻峠から中腹まではスギ、ヒノキの植林内を歩くが、険しい斜面に落葉広葉樹林が見られる。

ここで見られる主な植物は高木層にはアカマツ、イヌシデ、コナラ、アカシデ、クマシデ、ヤマザクラ、アオハダ、ホオノキなどである。亜高木層にはコシアブラ、リョウブ、シラカシ、ウリハダカエデ、ホオノキ、ケカマツカなどがある。低木層にはヒイラギナンテン、コアジサイ、タマアジサイ、ハナイカダ、ヤマウルシ、ダンコウバイ、ヤマツツジ、ウリカエデ、フジ、モミジイチゴ、ニガイチゴ、ウスノキ、ヒサカキ、オオカメノキなどが見られる。草本層はゼンマイ、ヤマジノホトトギス、ツタウルシ、ヤブコウジ、イタドリ、アカショウマ、タチドコロ、カシワバハグマ、ミツバアケビ、アケビ、サンカクヅル、キバナアキギリ、タガネソウ、トリアシショウマ、コバギボウシ、チゴユリ、オヤリハグマ、サルトリイバラ、マツサ、ツクバキンモンソウ、ヤマシロギク、アケボノスミレ、タチツボスミレ、フクオウソウ、ヤマユリ、ツルリンドウ、トウギボウシ、ヒトリシズカ、ニガナ、ミヤマナルコユリ、コチヂミザサ、キッコウハグマ、オクモミジハグマ、ヤブレガサ、マキノスミレ、アギスミレなどである。

中腹を過ぎると火山角礫岩の露出が目立ち始める。高木層は少なくなりアカマツ、コナラ、ハリギリ、ミヤマヤシャブシ、アカシデ、オニイタヤ、イロハモミジなどである。亜高木層にはアカシデ、マルバアオダ

モ、アカガシ、イタヤカエデなどが見られる。低木層にはコゴメウツギ、トウゴクミツバツツジ、ゴヨウツツジ、ツクバネ、ウラジロノキ、ネジキ、アイズシモツケ、イブキジャコウソウ、マルバアオダモ、キハギ、ヌルデ、エビガライチゴ、ニシキギ、ヤマウグイスカグラなどがある。草本層にはオカトラノオ、ヨモギ、イブキボウフウ、ヘクソカズラ、アキカラマツ、リュウノウギク、キリンソウ、イワヒバ、エゾノヒメクラマゴケ、ヤマホタルブクロ、ヒメカンスゲ、ダイモンジソウ、イワタバコなどが見られる。

#### (4) 三角点から鍋足山頂への火山角礫岩上

三角点からは三方が開けていて展望がきく。鍋足山山頂や第二峰も眺められる。尾根沿いの植生も概観できる(図3)。

ここからは火山角礫岩上を歩くことになる。両岸絶壁が多い。ここから先高木層はアカマツ、アオハダ、イロハモミジくらいで、亜高木層のケカマツカ、マルバアオダモ、コナラ、イヌシデ、イタヤカエデ、アカメガシワ、ハリギリなどが多くなる。低木層にはコナラ、アカシデ、トウゴクミツバツツジ、ゴヨウツツジ、ツクバネ、ウラジロノキ、ネジキ、ナツハゼ、アイズシモツケ、マルバアオダモ、タカノツメ、キハギ、ヌルデ、コマユミ、サンショウ、コバノガマズミ、ミヤマガマズミ、カヤ、アセビ、ノイバラ、ヒメウツギ、ツクバネウツギなどが急峻な岩地にへばりついている。草本層にはイブキジャコウソウ、ナルコユリ、ヒメハギ、ヒメカンスゲ、テイカカズラ、イワギボウシ、イブキボウフウ、ミヤマママコナ、コシオガマ、アキカラマツ、リュウノウギク、キリンソウ、イワヒバ、カタバミ、ナルコユリ、マメツタラン、ムギラン、イワデンダなどが見られる。特にイブキジャコウソウは多く花時はもちろん他の季節でも芳香が立ち込めている。



図3. 鍋足山頂から三角点方面を望む。

る。

#### (5) 鍋足山から水府側(湯草)

湯草住民の話では、植林地増加に伴い鍋足山に入る人はなくなったと言う。日陰になりミヤマスカシユリも消えたとの話。以前はイワヒバ、ミヤマスカシユリ、ウチョウランなど多数生育していたが、県外の専門家によって採取されてしまったとのこと。昔の登山道を少し入ったが、藪で困難。引き返す。

鍋足山登山道の湯草分岐付近では、高木層はコナラ、イヌシデなどであり、亜高木層はネムノキ、ウワミズザクラ、シラカシなどである。低木層はウリノキ、ヤブムラサキ、ハナイカダなどであり、草本層はヤマシロギク、マムシグサ、イノデ、ジュウモンジシダ、アマチャヅル、フタリシズカ、タマブキ、ベニシダ、クサイチゴ、ニガナ、ツルカノコソウ、ミツバ、ドクダミ、ウド、クサアジサイ、トリアシショウマ、シシガシラ、コウヤボウキなどである。

#### (6) 三角点から大子側(猪ノ鼻林道沿い)

猪ノ鼻林道は県道から150m程で車止めがあるので、一般の人は入らない。鍋足山側は植林が多いが自然は保たれている。行き止まりに営林署の小屋がある。その周辺では高木層はスギ、ヒノキの植林地。亜高木層はリョウブ、ネムノキ、アカメガシワ、サワグルミなどである。低木層はコアジサイ、ヒメコウゾ、ニガイチゴ、ヤマハギ、フジ、リョウブ、サルナシ、ノリウツギ、モミジイチゴ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、ウリノキ、タラノキ、ガマズミ、ウツギ、イボタノキ、キハギなどが見られる。草本層はオカトラノオ、ツルカノコソウ、ウマノアシガタ、イヌガンソク、ゼンマイ、ワラビ、オニドコロ、ヤマジノホトトギス、タカトウダイ、コバギボウシ、オヤリハグマ、ナルコユリ、カナムグラ、アズマネザサ、メドハギ、ススキ、トリアシショウマ、オオバコ、ハルジオン、アカネ、フキ、コチヂミザサ、シロツメクサ、タガネソウ、ヤマユリ、サルトリイバラ、タケニグサ、ニガナ、クサコアカソ、セイトカアワダチソウ、ヨモギ、スイカズラ、キリンソウ、マルバマンネングサ、オヤマボクチ、アサマヒゴタイ、セントウソウ、マムシグサ、ツユクサ、ヌスビトハギ、キンミズヒキ、オニタビラコなどが見られる。

林道終点から三角点への登山道はスギ林の中を進み猪ノ鼻からの登山道と合流する。林道終点から合流分岐付近にはスギの植林が多い。亜高木層はコナラ、ケ

ヤキ, アカマツなどである。低木層はマルバアオダモ, ダンコウバイ, シモツケ, タマアジサイ, ツクバネ, ウスノキ, ヤマブキ, トウゴクミツバツツジ, ヤマウルシ, コゴメウツギなどである。草本層はリュウノウギク, アワコガネギク, キリンソウ, マルバマンネングサ, ノブキ, マルバノイチヤクソウ, アケビ, ミツバアケビ, アケボノスミレ, イブキジャコウソウ, アキカラマツ, カワラナデシコ, ミツバ, ノアザミなどが見られる。

#### (7) 鍋足山3峰の谷筋

鍋足山頂と第二峰の間, 三角点と第二峰の間は急峻な火山角礫岩壁に囲まれた谷となっている。ここではコナラ, オニグルミ, ハリギリ, ミヤマヤシャブシ, アカシデ, クマシデ, クリ, ケヤキ, オニイタヤ, モミなどの高木層とマルバアオダモ, アオハダ, タカノツメ, イヌシデ, リョウブ, ウリカエデ, コハウチワカエデ, イタヤカエデ, カヤなどの亜高木層に覆われて薄暗いが, 倒木も多く更新されている。低木層にはタマアジサイ, ツクバネ, ネジキ, ヤマブキ, アブラツツジ, トウゴクミツバツツジなどが見られ, 草本層にはイワタバコ, イワギボウシ, オオバショウマ, タマブキ, クサアジサイ, シノブ, オクモミジハグマ, ヤブレガサ, イワウチワ, ノキシノブ, ウマノミツバなどが見られる。

## 2. 注目すべき植物

分布上および茨城県レッドリスト等, 文献における注目すべき植物について, 今回の調査結果は以下のとおりである。

#### (1) エゾノヒメクラマゴケ (イワヒバ科)

茨城県: 希少種 (図4)

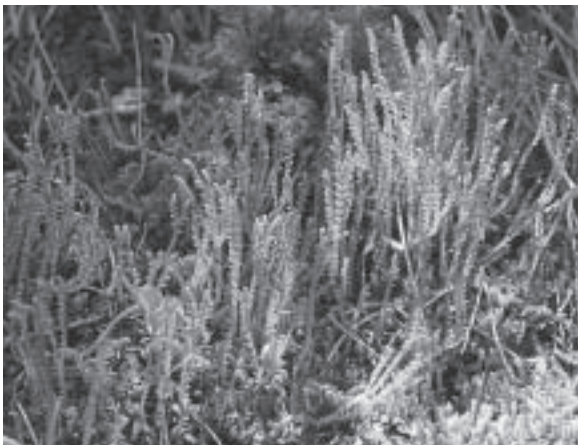


図4. エゾノヒメクラマゴケ.

北海道・本州 (静岡県・長野県以北) の亜高山帯に分布。草原や岩上に生育する。直立した側枝が冬には枯れ, 匍匐枝が赤味を帯びるのはタチクラマゴケに似るが, 腹葉の形や大きさにはっきりした差がある。県内では久慈山地の火山角礫岩上に稀に確認されている。今回, 鍋足山でも岩上で確認した。

#### (2) イワヒバ (イワヒバ科) 茨城県: 危急種

北海道～琉球に分布。山地岩上に生育し, 乾燥にも強い。江戸時代から観葉植物として栽培され親しまれている。県内では久慈山地の他, 高鈴山, 御前山, 北茨城市, 筑波山でやや稀に確認されている。今回, 鍋足山では角礫岩上で普通に見られるが, 大きなものは持ち去られて少ない。

#### (3) カタヒバ (イワヒバ科) 茨城県: 希少種

本州 (宮城県以南) ～琉球に分布。山林中の岩上や樹幹に着生する。県内では北茨城市, 高萩市, 日立市, 奥久慈, 御前山, 七会村, 雨卷山, 吾国山, 加波山などでやや稀に確認されている。今回, 鍋足山では, 岩上や樹上に着生を確認。イワヒバと共に着生しているものが多く, 持ち去られ減少している。

#### (4) アオホラゴケ (コケシノブ科) 茨城県: 希少種

本州～琉球・小笠原に分布するが, 東北・関東・北陸ではやや稀である。湿った岩上やコケの付いた樹幹等に生育する。県内では大北溪谷, 奥久慈, 常北町でやや稀に確認されている。今回, 鍋足山でも少数確認した。

#### (5) イワオモダカ (ウラボシ科) 茨城県: 危急種

北海道～九州に分布。深山林中の岩上や樹幹に着生する。県内では奥久慈, 御前山, 日立市でやや稀に確認されている。今回, 鍋足山ではごく少数確認した。古来栽培品として珍重されているためであろう。

#### (6) フクロダガヤ (イネ科) 茨城県: 危急種

(図5)

本州 (関東北部) に稀に分布。高さ 15～25 cm 繊細である。県内では奥久慈の火山角礫岩上の日当たり良い所に生育している。奥久慈以外では確認されていない。本種は, 1909年 (明治42年) に袋田で発見され命名された。今回, 鍋足山でも尾根沿いの日当たり良い乾燥した岩上で確認したが, 以前より個体数は激減している。





図5. フクロダガヤ.

(7) ケスゲ (カヤツリグサ科)

本州 (関東以西) ~九州に分布. シロイトスゲに似るが全体に開出する軟毛があり, 長い匍枝を付ける. 県内では久慈山地と雨巻山, 玉造町で確認されている. 今回, 鍋足山ではやや普通に見られたが, 北限に近いものと思われる.

(8) キジカクシ (ユリ科) 茨城県: 希少種

北海道~九州に分布. 山中の草地に生育する. 県内では里美, 高鈴山, 袋田, 大子町, 鍋足山でやや稀に確認されている. 今回, 鍋足山では確認出来なかった.

(9) ノギラン (ユリ科) 茨城県: 希少種

北海道~九州に分布. 山地草原に生育する. 県内では花園山, 高萩市, 豎割山, 高鈴山, 大子町, 笠間市, 日立市, 下館市でやや稀に確認されている. 今回, 鍋足山では尾根沿いで少数確認した.

(10) ミヤマスカシユリ (ユリ科)

茨城県: 絶滅危惧種

本州 (岩手県・宮城県・茨城県・埼玉県) に分布する. 「日本植物誌」では, 石灰岩地に生えるとする. スカシユリと比べ, 茎が細く斜上又は傾下し, 下方に乳頭状突起がある. 県内では久慈山地で稀に確認されている. 今回, 鍋足山では確認出来なかった. しかし, 付近の庭園や鉢で栽培されている.

(11) ヒオウギ (アヤメ科) 茨城県: 危急種

本州西部~九州に分布する. 日当たり良い岩上に生

育していて, 茎は高さ1~1.5 m, 下方に葉を左右2列にやや密に付ける. 県内では高鈴山, 久慈山地, 鶏足山でやや稀に確認されている. 今回, 鍋足山では岩上に少数確認した.

(12) ウチョウラン (ラン科) 茨城県: 絶滅危惧種

本州 (関東以西) ~九州に分布する. 山地の岸壁上に生える. 県内では奥久慈, 金砂郷, 岩瀬町, 筑波山でやや稀に確認されている. 今回, 鍋足山では直接見ることが出来なかった. 鍋足山では絶滅も近い.

(13) セッコク (ラン科) 茨城県: 絶滅危惧種

本州~九州に分布する. 山地の常緑樹や岩石上に生育する. 県内では久慈山地, 御前山, 七会, 佐白山, 筑波山で稀に確認されている. 今回, 鍋足山では確認出来なかった.

(14) ツレサギソウ (ラン科) 茨城県: 希少種

北海道~九州に分布する. 茎は高さ40~60 cmで, 太く5~8葉を付ける. 県内では高萩市, 久慈山地でやや稀に確認されている. 今回, 鍋足山では確認出来なかった.

(15) ヒナラン (ラン科) 茨城県: 絶滅危惧種

本州 (西部) ~九州に分布する. 根は一部紡錘形に肥厚し, 茎は高さ5~15 cm, 細く下部に一葉を付ける. 花は紅紫色. 県内では十王町, 久慈山地, 御前山, 鶏足山, 東海村, 水戸市でやや稀に確認されている. 今回, 鍋足山では確認出来なかった.

(16) マメヅタラン・マメラン (ラン科)

茨城県: 危急種 (図6)



図6. マメヅタラン.

本州（中南部）～九州に分布する。山地の樹幹上に生える着生常緑草本。シダ植物ウラボシ科のマメヅタに似るが、本種は葉の長さ7～13 mm、幅5～10 mmと約半分の大きさである。県内では久慈山地、御前山、七会で稀に確認されている。今回、鍋足山では火山角礫岩上や絶壁にへばりつくように生育していた。

(17) ムギラン（ラン科） 茨城県：危急種

本州（中・西部）～九州に分布する。根茎は細く、まばらに偽球を付ける着生常緑草本。県内では久慈山地、御前山、筑波山で稀に確認されている。今回、鍋足山では火山角礫岩の岸壁隙間に生育していた。

(18) コケミズ（イラクサ科）

本州（東北南部）～九州に分布する。全体無毛で茎は下部で分枝し、高さ7～15 cmの一年生草本。県内では奥久慈で稀に確認されている。今回、鍋足山では小さな流れのそばで確認できた。

(19) スハマソウ（キンポウゲ科） 茨城県：危急種

（図7）

本州に分布する。ミスミソウとの違いは葉の裂片が鈍頭であること。県内では奥久慈、ひたちなか市で稀に確認されている。今回、鍋足山では多数の個体を確認し花はすべて白色であることが分かった。しかし、登山道が生育地の真ん中を通っているため踏まれたり採集されたりの危険が大きい。



図7. スハマソウ。

(20) レンゲショウマ（キンポウゲ科） 茨城県：希少種

本州（中部地方）に分布する。深山林中に生え、花が淡紫色で直径3 cm程とやや大きい。県内では花園山、君田、三笠室山、八溝山、花瓶山、大子町、鍋足山、鷲子山で稀に確認されている。今回、鍋足山では開花個体は確認出来なかった。

(21) ヒメレンゲ（ベンケイソウ科） 茨城県：危急種

本州～九州に分布する。花茎は繊細で高さ4～10 cmで花茎の葉は互生。よく似ているマルバマンネングサの花茎は高さ8～20 cm高く花茎の葉が対生している。県内では奥久慈の火山角礫岩地帯に限られている。今回、鍋足山でも火山角礫岩上で開花を確認した。

(22) アイズシモツケ（バラ科）

北海道、本州（信濃中東部以北）に分布する。葉は卵形で中央部以上に鋸歯があり、枝に明らかな稜角がある。県内では奥久慈でやや稀に確認されている。今回、籠岩山頂で多数確認できたが、鍋足山では確認出来なかった。

(23) イワウチワ（イワウメ科） 茨城県：危急種

本州（近畿以東）に分布する。山地林内に生育するが県北では岩場に多い。県内では久慈山地など山地にやや普通に確認されている。今回、鍋足山では火山角礫岩の谷間で生育しているのを確認した。

(24) イブキジャコウソウ（シソ科） 茨城県：危急種

（図8）

北海道、本州、九州に分布する。芳香のある小低木、県内では奥久慈の火山角礫岩上でやや稀に確認されている。今回、鍋足山では火山角礫岩の尾根沿いの日当たりが良い所に多数生育し、紅紫色の花を密に付けていた。



図8. イブキジャコウソウ。

(25) コウグイスカグラ（スイカズラ科）

本州（中部地方）に分布する。葉の上面に伏毛下面は粉白色を帯びる。花は双生し小苞は明らかで子房とほぼ同長である。この点がハヤザキヒョウタンボクと違う。県内では奥久慈の火山角礫岩地帯だけに稀に確

認されている。今回、鍋足山では確認出来なかった。

(26) キキョウ (キキョウ科) 茨城県：危急種

北海道～九州に分布する。山中草地に生育するが、草地の減少と崩壊等により減少傾向が止まらない。県内では1980年代まではやや普通に確認されていた。今回、鍋足山では開花株は確認出来なかった。

(27) フクシマシャジン (キキョウ科) 茨城県：希少種

本州に分布する。萼裂片が線形のツリガネニンジンと違い、本種の萼裂片は皮針形である。県内では北茨城市、君田、里美、八溝山、男体山、鍋足山で稀に確認されている。ごく少数である。今回、鍋足山では確認出来なかった。

(28) アサマヒゴタイ (キク科) 茨城県：希少種

本州（関東および信濃北東部）に分布する。別名ツクバヒゴタイと言い、筑波山がタイプロカリティである。山地樹林下や草原に生育し茎に狭い翼がある。県内では筑波山で稀であったが、その後県北山地でも確認されている。今回、鍋足山では少数確認できた。

(29) センダイトウヒレン (キク科) 茨城県：希少種

本州（関東北部以北）に分布する。総包がやや大きく、くも毛をかぶる。県内では県北山地で普通に確認されている。今回、鍋足山では確認出来なかった。

(30) オオガンクビソウ (キク科)

本州（中部以北）に分布する。頭花が幅25～35mm大きい。県内では花園山、君田、真弓山、八溝山、花瓶山、大子町、鍋足山で稀に確認されている。今回、鍋足山では確認出来なかった。



図9. オヤリハグマ。

(31) オヤリハグマ (キク科) 茨城県：希少種 (図9)

本州（奥羽および関東北部）に分布する。県内では県北山地で普通に確認されている。高鈴山は南限地である。狭い範囲に分布し、オヤリバグマ×クルマバハグマ→イワキハグマやオヤリハグマ×カシワバハグマ→センダイハグマなどの種間雑種も見られる。今回、鍋足山では本種を樹林下で多数確認できた。

3. 主な未確認種

文献での記載はあるが、今回の調査で確認されなかった種。

シダ植物：マンネンスギ (ヒカゲノカズラ科)、ナガボノナツノハナワラビ (ハナワラビ科)、ヤマドリゼンマイ (ゼンマイ科)、イワシロイノデ (オシダ科)、イワハリガネワラビ (オシダ科)、トウゴクシダ (オシダ科)、ミヤマクマワラビ (オシダ科)。

単子葉植物：アオチカラシバ (イネ科)、アズマガヤ (イネ科)、イブキヌカボ (イネ科)、コウヤザサ (イネ科)、タツノヒゲ (イネ科)、ハネガヤ (イネ科)、ヒロハノハネガヤ (イネ科)、ヤマヌカボ (イネ科)、オニスゲ (カヤツリグサ科)、カワラスゲ (カヤツリグサ科)、ケハガクレスゲ (カヤツリグサ科)、コジュズゲ (カヤツリグサ科)、センダイスゲ (カヤツリグサ科)、ヒデリコ (カヤツリグサ科)、ヒナスゲ (カヤツリグサ科)、ヒンジガヤツリ (カヤツリグサ科)、ヤワラスゲ (カヤツリグサ科)、イボクサ (ツユクサ科)、ヒロハノコウガイゼキショウ (イグサ科)、カタクリ (ユリ科)、キジカクシ (ユリ科)、ミヤマスカシユリ (ユリ科)、キンラン (ラン科)、コアツモリソウ (ラン科)、セッコク (ラン科)、ツレサギソウ (ラン科)、ヒトツボクロ (ラン科)、ヒナラン (ラン科)、ミヤマウズラ (ラン科)。

離弁花類：ヤマナラシ (ヤナギ科)、カシワ (ブナ科)、オヒョウ (ブナ科)、オオヤマハコベ (ナデシコ科)、ケフシグロ (ナデシコ科)、アズマイチゲ (キンポウゲ科)、ヤマシヤクヤク (キンポウゲ科)、レンゲショウマ (キンポウゲ科)、イカリソウ (メギ科)、ツクバグミ (グミ科)、コブシ (モクレン科)、ジロボウエンゴサク (ケシ科)、ツメレンゲ (ベンケイソウ科)、ピロードウツギ (ユキノシタ科)、ヤマブキソウ (ケシ科)、オヘビイチゴ (バラ科)、シロバナシモツケ (バラ科)、マルバナシモツケ (バラ科)、ヤマナシ (バラ科)、ウスバヤブマメ (マメ科)、ケヤブハギ (マメ科)、ツルマメ (マメ科)、カジカエデ (カエデ科)、ハウチワカエデ (カエデ科)、ヒトツバカエデ (カエデ科)、ヒ



ナウチワカエデ (カエデ科), ヤマブドウ (ブドウ科), ナツツバキ (ツバキ科), タニミツバ (セリ科), ハナビゼリ (セリ科), ヤブニンジン (セリ科).

合弁花類: レンゲツツジ(ツツジ科), ハナイバナ(ムラサキ科), オドリコソウ(シソ科), ニガクサ(シソ科), ヒメジソ (シソ科), ヤマジソ (シソ科), シロバナミヤマママコナ (ゴマノハグサ科), ヒキヨモギ (ゴマノハグサ科), オカウツボ (ハマウツボ科), ナガバハエドクソウ (ハエドクソウ科), ミヤマウグイスカグラ (スイカズラ科), レンプクソウ (レンプクソウ科), フクシマシャジン (キキョウ科), コヤブタバコ (キク科), ノッポロガンクビソウ (キク科), ヤハズハハコ (キク科), メタカラコウ (キク科).

#### 引用文献

茨城県高等学校教育研究会生物部. 1981. 茨城の生物 第2集. 313 pp., 茨城県高等学校教育研究会生物部.  
「里美の自然」調査・編集委員会. 1993. 里美の自然. 278 pp., 里美村教育委員会.  
鈴木昌友. 1970. 茨城の植物. 490 pp., 茨城新聞社.  
鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.

#### 参考文献

橋本 保. 1972. 日本のスミレ. 227 pp., 誠文堂新光社.  
いがりまさし・高橋秀男. 1996. 山溪ハンディ図鑑 6 日本のスミレ. 247 pp., 山と溪谷社.  
岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物シダ. 311 pp., 平凡社.  
茂木 透・勝山輝男・太田和夫・崎尾 均. 2000. 山

溪ハンディ図鑑 2 樹に咲く花離弁花①. 719 pp., 山と溪谷社.

茂木 透・勝山輝男・太田和夫・城川四郎. 2000. 山溪ハンディ図鑑 4 樹に咲く花離弁花②. 719 pp., 山と溪谷社.

茂木 透・勝山輝男・太田和夫・崎尾 均. 2001. 山溪ハンディ図鑑 5 樹に咲く花合弁花・単子葉・裸子植物. 719 pp., 山と溪谷社.

大井次三郎. 1975. 改訂増補新版日本植物誌顕花編. 1582 pp., 至文堂.

奥田重俊. 1997. 生育環境別日本野生植物館. 631 pp., 小学館.

奥山春季. 1982. 新訂増補原色日本野外植物図譜 1 春から初夏. 548 pp., 誠文堂新光社.

奥山春季. 1983. 新訂増補原色日本野外植物図譜 2 夏・高山植物. 621 pp., 誠文堂新光社.

奥山春季. 1984. 新訂増補原色日本野外植物図譜 3 秋から冬. 562 pp., 誠文堂新光社.

齊藤 慧. 2001. スゲ類の世界－福島県に自生するスゲ類. 162 pp., 歴史春秋.

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・冨成忠夫. 1989. フィールド版日本の野生植物. 168 pp., 平凡社.

#### 調査研究

鈴木昌友 (茨城大学名誉教授 理学博士)  
滑川敏行 (元北茨城市立精華小学校長)  
渡辺義弘 (北茨城市中郷町石岡 404)

#### 執筆

滑川敏行 (元北茨城市立精華小学校長)

## 久慈山地の維管束植物 － 生瀬富士から西金砂山付近－

### はじめに

久慈山地は奥久慈県立自然公園の一部で、阿武隈山地と八溝山地の間にある。北は福島県矢祭町の檜山付近、南は常陸太田市（旧金砂郷町）までのおよそ 30 km におよび、海底火山で形成された火山角礫岩により急峻な地形を作っている。

この地域は冷温帯性、暖温帯性の植物が生育し、岩上に生育する植物は県内の他地域に見られない植物が多く生育している。植生の大部分は二次的なコナラ、シデ類などの雑木林や人為的植生のスギ、ヒノキ林などである。自然植生は男体山山頂付近に冷温帯性の落葉広葉樹林、西金砂山に暖温帯性の常緑広葉樹林などがわずかに見られる。

この地域のおもな山は生瀬富士(400 m)、月居山(404 m)、白木山(616.3 m)、長福山(496 m)、男体山(653.9 m)、籠岩(501.4 m)、明山(457.4 m)、西金砂山(412 m)などである。また溪谷で大きいのは竜神峡である。

生瀬富士は天子町の袋田と高柴の境にあり、袋田の滝の北側に位置する。尾根筋はアカマツが混じる落葉広葉樹が多く、山頂付近にはカシワ林がある。岩場にはイワヒバ、エゾノヒメクラマゴケ、ヒメハギ、フクロガヤなどが生育する。

月居山は天子町袋田と小生瀬の境にありコナラやシデ類などの落葉広葉樹が多い。山頂付近はオノオレカンバ、キジカクシなどが生育する。

白木山は天子町小生瀬と常陸太田市上高倉（旧水府村）の境にある。小生瀬側の溪谷沿いにはケヤキなどの落葉広葉樹が多く、林下にはエビラシダ、ミヤマナミキ、ハヤザキヒョウタンボクなどが生育し、尾根筋にはナンキンナナカマドなどが生育する。上高倉側は放牧場になっている。

男体山は天子町頃藤と常陸太田市上高倉（旧水府村）の境にある。2002年の山火事で山頂付近は大きな被害をうけ、ブナやミズナラなどの樹木に以前の勢いが感じられない。岩場にはイワヒバ、イブキジャコウソウ、キバナカワラマツバ、ヤハズハハコ、ミヤマスカシユリなどが生育する。

籠岩は天子町北富田にあり常陸大宮市諸沢（旧山方町）の上山から尾根筋に何回か急な登りと下りを繰り返した所にある。山頂付近にはイワシモツケなどが生育する。山から伸びる尾根筋にはコナラなどに混じり、

アカマツ、ツガ、ヒメコマツ、ネズ、モミなどの常緑針葉樹がまばらに生育する。

明山は常陸大宮市諸沢（旧山方町）にある。山頂からは籠岩、男体山、白木山など竜神川を取り囲む山々を望むことが出来る。山頂付近の尾根筋にはヒメコマツなどが生育する。

西金砂山は常陸太田市上宮河内（旧金砂郷町）にあり西金砂神社がある。山頂の南西側付近は茨城県環境保全地域に指定されスダジイの優占した常緑広葉樹林になっている。山頂付近には冷温帯性のゴヨウツツジ、ブナの大木も数本生育する。

本調査域はこれまでに多くの研究者により報告がある。植物相は主に茨城大学生物研究会（1965, 1971）、茨城県植物誌刊行会（1981）、小室 健（1984）、茨城植物研究会（1986）などにより調査されてきた。

### 調査方法

#### 1. 調査地の選定

調査区域は、北は福島県境の天子町外大野、東は山田川、西は久慈川、南は常陸太田市（旧金砂郷町）である。

#### 2. 調査期間

##### (1) 平成 15 (2003) 年度

- |       |                  |
|-------|------------------|
| 4月12日 | 久慈郡天子町北田気        |
| 27日   | 久慈郡天子町袋田         |
| 5月24日 | 常陸太田市天下野（旧水府村）   |
| 29日   | 久慈郡天子町袋田         |
| 6月8日  | 常陸太田市天下野（旧水府村）   |
| 14日   | 久慈郡天子町高柴         |
| 21日   | 常陸太田市上宮河内（旧金砂郷町） |
| 29日   | 常陸大宮市諸沢（旧山方町）    |
| 7月6日  | 常陸大宮市盛金（旧山方町）    |
| 12日   | 常陸太田市上高倉（旧水府村）   |
| 18日   | 常陸太田市上宮河内（旧金砂郷町） |
| 21日   | 常陸太田市千寿（旧金砂郷町）   |
| 22日   | 常陸太田市上宮河内（旧金砂郷町） |
| 25日   | 常陸太田市天下野（旧水府村）   |
| 27日   | 久慈郡天子町頃藤         |
| 30日   | 久慈郡天子町袋田         |
| 8月12日 | 常陸大宮市諸沢（旧山方町）    |
| 16日   | 常陸太田市下高倉（旧水府村）   |
| 20日   | 常陸太田市下高倉（旧水府村）   |
| 25日   | 常陸太田市中染（旧水府村）    |
| 30日   | 常陸太田市天下野（旧水府村）   |

- 9月 6日 常陸太田市下高倉 (旧水府村)  
 12日 久慈郡太子町袋田  
 28日 常陸太田市上高倉 (旧水府村)
- 10月 4日 久慈郡太子町北富田  
 8日 久慈郡太子町池田  
 18日 久慈郡太子町高柴  
 19日 久慈郡太子町西金  
 26日 常陸太田市下高倉 (旧水府村)
- 11月 3日 久慈郡太子町西金  
 8日 久慈郡太子町小生瀬  
 27日 常陸太田市上宮河内 (旧金砂郷町)
- (2) 平成 16 (2004) 年度
- 2月 12日 久慈郡太子町西金  
 3月 6日 常陸太田市下高倉 (旧水府村)  
 26日 常陸太田市上利員 (旧金砂郷町)  
 28日 久慈郡太子町小生瀬  
 31日 久慈郡太子町小生瀬
- 4月 3日 常陸太田市赤土 (旧金砂郷町)  
 10日 久慈郡太子町小生瀬  
 11日 久慈郡太子町小生瀬  
 17日 久慈郡太子町小生瀬  
 25日 久慈郡太子町小生瀬
- 5月 3日 常陸太田市上高倉 (旧水府村)  
 8日 常陸太田市天下野 (旧水府村)  
 15日 常陸大宮市諸沢 (旧山方町)  
 22日 常陸太田市上高倉 (旧水府村)  
 29日 久慈郡太子町頃藤  
 30日 久慈郡太子町頃藤
- 6月 12日 常陸太田市上宮河内 (旧金砂郷町)  
 13日 常陸太田市上宮河内 (旧金砂郷町)  
 20日 久慈郡太子町高柴  
 26日 常陸大宮市諸沢 (旧山方町)  
 27日 常陸大宮市諸沢 (旧山方町)
- 7月 3日 常陸大宮市諸沢 (旧山方町)  
 4日 常陸太田市上高倉 (旧水府村)  
 11日 常陸太田市上高倉 (旧水府村)  
 17日 常陸大宮市諸沢 (旧山方町)  
 30日 常陸太田市上高倉 (旧水府村)
- 8月 16日 久慈郡太子町頃藤  
 19日 大宮市諸沢 (旧山方町)  
 28日 久慈郡太子町小生瀬
- 9月 23日 常陸太田市下高倉 (旧水府村)
- 10月 2日 久慈郡太子町大生瀬  
 11日 常陸太田市天下野 (旧水府村)
- 18日 久慈郡太子町大生瀬
- 11月 3日 常陸太田市下利員 (旧金砂郷町)  
 13日 常陸太田市下高倉 (旧水府村)  
 23日 常陸太田市天下野 (旧水府村)
- (3) 平成 17 (2005) 年度
- 3月 13日 久慈郡太子町小生瀬  
 4月 16日 久慈郡太子町北富田  
 17日 久慈郡太子町袋田  
 29日 久慈郡太子町頃藤
- 5月 5日 久慈郡太子町大生瀬  
 8日 久慈郡太子町高柴  
 22日 久慈郡太子町袋田  
 29日 久慈郡太子町上野宮
- 6月 5日 久慈郡太子町西金  
 9日 久慈郡太子町大生瀬  
 19日 久慈郡太子町上野宮
- 7月 3日 久慈郡太子町池田  
 9日 久慈郡太子町北田気  
 23日 久慈郡太子町小生瀬
- 8月 7日 久慈郡太子町小生瀬  
 17日 常陸太田市箕 (旧金砂郷町)  
 19日 常陸太田市天下野 (旧水府村)
- 9月 3日 常陸太田市天下野 (旧水府村)  
 11日 常陸太田市上武生 (旧水府村)

### 3. 調査項目

維管束植物(シダ植物, 種子植物)を対象として, 植物相と植生の調査を行った. 調査項目は次の通りである.

- (1) 調査地に生育する全植物の確認と記録.
- (2) 調査地の植生の概要.
- (3) 生育する植物の採集と標本の作製(原則として花・実がついている個体を採集, 1種の植物について2~4点作成).

採集, 確認した植物の目録は付表1に示した. なお付表1に示した種数は次の通りである.

・確認種 1127種

- (4) 写真の撮影

### 結果

#### 1. 植生の概況

- (1) ブナーミズナラ林

本調査域における典型的なブナーミズナラ林は, わずかな面積ではあるが男体山のみに見られるが, 2002



## 植 物

年に火災の被害をうけた。山頂付近のブナ-ミズナラ林（標高 620 m）では以下のような構成種である。

高木層はブナ、ミズナラ。低木層はスズダケ（優占）、シラキ、ヤマツツジ、ムラサキシキブなど。草本層はシモツケ、リョウブ、キヌタソウ、ホタルブクロ、ヒナスゲなどである。また周囲にはヨウシュヤマゴボウ、タケニグサ、アカメガシワ、カラスザンショウなどの伐採跡地によく出現する植物が目立ち火災の影響と思われた。

### (2) イヌブナ林

イヌブナ林は、やや湿り気のある斜面などに点在し、男体山付近（標高 600 m）では以下のような構成種である。

高木層はイヌブナ、フサザクラ、カラスザンショウ、オオバアサガラなど。亜高木層はサワシバ、フサザクラ、ウワミズザクラ、イヌザクラ、シラキ、オニイタヤ、チドリノキなど種類が多い。低木層はタマアジサイ、サンショウ、ツリバナ、ハナイカダ、ヤブデマリなど。草本層はジュウモンジシダ、ミヤマクマワラビ、イワシロイノデ、キヨタキシダ、ハクモウイノデ、ホソバシケシダ、オウレンシダ、ウワバミソウ、ミズ、ムカゴイラクサ、タニソバ、サワハコベ、ウスバサイシン、クサアジサイ、イワガラミ、ヒメウツギ、ヤマブキ、ツルキンバイ、チドリノキ、コミヤマスマリ、シラネセンキュウ、ウマノミツバ、テイカカズラ、ヤマウゲイスカグラ、ニワトコ、オオモミジガサ、オクモミジハグマ、コチヂミザサ、カンスゲ、ミヤマカンスゲ、シロイトスゲなど、種類が多い。

### (3) ケヤキ林

ケヤキ林は、岩が所々に露出する急峻な地形に多く見られる。ケヤキを植林することはあるがこの地域は自然林と思われる。男体山付近（標高 520 m）では以下のような構成種である。

高木層にケヤキ。亜高木層にクマシデ、サワシバ、オニイタヤ、イロハモミジなど。低木層にスズダケ（優占）、ムラサキシキブなど。草本層にケヤキ、ミズヒキ、サラシナショウマ、イワガラミ、ツルキンバイ、コゴメウツギ、ノササゲ、フジ、ミズキ、アセビ、ムラサキシキブ、ニワトコ、ノブキ、コチヂミザサ、シロイトスゲなどである。

### (4) モミ林

モミは所々に生育するが優占している林は少ない。

西金砂山のモミ林（標高 260 m）は以下のような構成種である。

高木層はモミ（優占）、ウラジロガシ、スダジイなど。亜高木層はカヤ、アカシデ、イヌブナ、サカキ、イロハモミジ、ウリカエデなど。低木層はモミ、ウラジロガシ、スダジイ、シラカシ、シキミ、ヒサカキ、サカキ、ヤブツバキ、フジ、コハウチワカエデ、アワブキ、アオキ、ハナイカダ、ネジキ、マルバアオダモ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキなど。草本層はベニシダ、ヤマイタチシダ、マメヅタ、カヤ、コナラ、ウラジロガシ、スダジイ、マツブサ、シキミ、ムベ、サカキ、モミジイチゴ、ユズリハ、ミヤマシキミ、ヤマウルシ、ツルグミ、ハリギリ、イチヤクソウ、ヤマツツジ、ヤブコウジ、ツルリンドウ、テイカカズラ、コバノガマズミ、ヤマウゲイスカグラ、ガマズミ、キッコウハグマ、ジャノヒゲ、チゴユリ、オオバジャノヒゲ、ヤマジノホトトギス、コチヂミザサ、コカンスゲ、カンスゲ、クモキリソウなど、種類が多い。

### (5) スダジイ林

暖温帯の代表的なスダジイ林は本調査域において西金砂山のみである。スダジイ林（標高 300 m）の林内は薄暗く以下のような構成種である。

高木層にスダジイ（優占）、アカシデ、ウラジロガシ、ツクバネガシ、カゴノキなど。亜高木層はサカキ、カヤ、ヤブツバキなど。低木層はスダジイ、リンボク、ユズリハ、アオキ、テイカカズラ、ヤブムラサキなど。草本層はベニシダ、ハカタシダ、イヌガヤ、ウラジロガシ、シラカシ、イタビカズラ、シキミ、ムベ、サカキ、フユイチゴ、ミヤマトベラ、ユズリハ、ミヤマシキミ、ツルグミ、ヤブコウジ、テイカカズラ、キジョラン、キッコウハグマ、ジャノヒゲ、コカンスゲ、クモキリソウ、ムヨウランなどである。

### (6) コナラ林

コナラ林は二次林の代表的な落葉広葉樹林で広く分布している。常陸太田市武生林道付近（旧水府村）におけるコナラ林（標高 350 m）では以下のような構成種である。

高木層にコナラ（優占）、クマシデ、ケヤキ、カラスザンショウ、オオモミジ、ミツデカエデなど。低木層にウワミズザクラ、ヤマナシ、オオモミジ、ハナイカダ、アオキ、キツタなど。草本層にイヌガヤ、カヤ、スハマソウ、フタリシズカ、ナガバジャノヒゲ、ヤブラン、シロイトスゲなどである。また籠岩付近のツガ

の混じる尾根筋のコナラ林（標高 450m）は以下のよ  
うな構成種である。

高木層にコナラが優占しツガ、アカマツ、ケヤキ、  
イタヤカエデなど。亜高木層にクマシデ、イヌシデ、  
アカシデ、ウラジロノキ、ウリカエデなど。低木層に  
モミ、ツクバネ、ムラサキシキブ、アズキナシ、ダン  
コウバイ、ヤマウルシ、キハギ、シモツケ、ヤブツバ  
キ、ヌルデ、コウグイスカグラ、ニシキギ、ツリバナ、  
ヤマウグイスカグラ、スズダケなど。草本層にシノブ、  
イワヒバ、ノイバラ、オカトラノオ、リュウノウギク、  
コウヤボウキ、ヒオウギ、チョウセンガリヤス、コカ  
ンスゲ、ホソバヒカゲスゲなどである。

#### (7) スギ植林

植林で多いのがスギ林である。スギは谷沿いなどの  
斜面に植林することが多い。籠岩付近のスギ林（標高  
350 m）は以下のような構成種である。

高木層にスギ。低木層はスズダケ、アオキ、ウリノ  
キ、ハナイカダ、ムラサキシキブ、オニイタヤ、イボ  
タノキ、サンショウ、ヤブデマリ、タマアジサイなど。  
草本層はジュウモンジシダ、クマワラビ、イワシロイ  
ノデ、ミヤマイラクサ、ツルカノコソウ、ヤブニンジ  
ン、アオキ、ウリノキ、ヤマミズ、ユリワサビ、サワ  
ハコベ、ミズヒキ、フジ、ウマノミツバ、アマチャヅ  
ル、ヤマブキ、モミジイチゴ、アカネなどである。

#### (8) アカマツ植林

アカマツは多くの地域で植林されたがマツノザイセ  
ンチュウなどの影響により減少した。ほとんどのアカ  
マツ林は枯れかけたアカマツが混じり、荒れている場  
合が多い。常陸太田市赤土（旧金砂郷町）におけるア  
カマツ林（標高 300 m）では以下のような構成種であ  
る。

高木層はアカマツ（優占）、ヤマザクラ、コナラなど。  
亜高木層はコナラ、ヤマザクラ、エゴノキなど。低木  
層はヒサカキ、モミジイチゴ、カスミザクラ、ウワミ  
ズザクラ、フユイチゴ、カラスザンショウ、ヤマウル  
シ、ウリカエデ、イタヤカエデ、リョウブ、ヤマツツ  
ジ、エゴノキ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキ、コバ  
ノガマズミなど。草本層にコナラ、ホオノキ、マツブ  
サ、ダンコウバイ、ミツバアケビ、ヒサカキ、ニガイ  
チゴ、イヌザンショウ、ウリカエデ、アオハダ、ツル  
ウメモドキ、ツタ、ノブドウ、アオキ、ヘクソカズラ、  
ヤブムラサキ、ナガバノコウヤボウキ、アキノキリン  
ソウ、シラヤマギク、チゴユリ、トウギボウシ、タチ

ドコロ、オニドコロ、ノガリヤス、コチヂミザサ、オ  
オアブラススキ、ヒカゲスゲ、ナキリスゲなどである。

#### (9) 休耕田

この地域においても休耕田は以前に比べ多くなって  
きている。休耕して2～3年たつとヨシヤガマ類が優  
占するところが多い。常陸大宮市諸沢（旧山方町）の  
2～3年たった休耕田では以下のような構成種である。

コガマとチガヤが優占。その中にスギナ、コナギ、  
ミゾソバ、サクラタデ、キカシグサ、アカバナ、チョ  
ウジタデ、キツネノマゴ、トキンソウ、ツユクサ、イ  
ボクサ、コチヂミザサ、ヒメクグ、クログワイなどが  
生育する。また水はけが悪い所にはウリカワ、ミズオ  
オバコ、ヤナギスブタ、ウキクサなどが生育する。最  
近帰化したノダアカバナが優占した休耕田もあった。

#### (10) 草地

水田や畑などの周囲は定期的に草刈りなどの手入れ  
が行われ草地在が保全されている。このような草地には、  
人の手が入らないと減少してしまう植物が多くイチリ  
ンソウ、ヤマブキソウ、アマナ、スズサイコ、サクラ  
ソウ、タマツリスゲなどがその代表的な植物である。  
サクラソウの生育する大子町大生瀬の草地（標高 200  
m）は以下のような構成種である。

イタドリ、コハコベ、アキカラマツ、ニリンソウ、  
アケビ、ヤマブキソウ、イヌナズナ、カタバミ、コク  
サギ、ウド、サクラソウ、アカネ、カキドオシ、ソク  
ズ、フキ、エゾタンポポ、カタクリ、ノビル、ヒメニラ、  
アマナ、コブナグサ、マムシグサ、ジュズスゲ、コジュ  
ズスゲ、タマツリスゲなどである。

#### (11) 溪谷林

男体山付近の溪谷林（標高 550 m）では以下のよう  
な構成種である。

高木層はオオバアサガラ、フサザクラ、カラスザン  
ショウ、ミズキなど。亜高木層はフサザクラ、ホオノ  
キ、ヤマグルマ、イロハモミジ、コハウチワカエデ、  
ケアオダモなど。低木層はムラサキシキブ、イヌザク  
ラ、タマアジサイ、ハナイカダ、シラキ、コウグイス  
カグラ、ヤブムラサキ、キブシ、サンショウ、ヤマツ  
ツジ、スズダケなど。草本層はホソバシケシダ、ウチ  
ワゴケ、ジュウモンジシダ、ヘビノネゴザ、マルバア  
オダモ、ウワバミソウ、ミヤマハコベ、ツルネコノメ  
ソウ、ヤブムラサキ、ヤマアジサイ、ツルアジサイ、  
タチツボスミレ、コミヤマスミレ、コゴメウツギ、セ

## 植 物

ンダイトウヒレン、カンスゲなどである。

### 2. 注目すべき植物

・本調査域で生育が明らかになった種類

#### (1) アベマキ (ブナ科)

国内では本州(山形県以西)~九州に分布。落葉広葉樹。県内では植物園などに植栽されるが、自生地は未確認であった。今回の調査では常陸太田市上高倉安寺(旧水府村)から竜神川を渡り小草越に至る登山道付近(標高 400 m)で確認した。太平洋側では北限にあたる。生育地は 50 年程前に一度伐採された二次的な落葉広葉樹林である。高木は種類が多くケヤキ、ヤマザクラ、オニイトヤ、ミズキ、アサダ、イヌシデ、ケンポナシなどである。

#### (2) オオナンバンギセル (ハマウツボ科)

国内では本州~九州に分布。山地の草地や林床に生育する 1 年生の寄生植物。県内では八溝山、大子町などで確認されている。大子町の記録は今回の調査地区外と思われる。今回の調査では常陸大宮市諸沢(旧山方町)の竜神川沿いに生育するミヤマカンスゲに寄生する個体を確認した。

#### (3) スブタ (トチカガミ科)

国内では本州~琉球に分布。水田やため池に生育する 1 年生植物。県内では笠間市、常陸太田市で確認されている。今回の調査では大子町大生瀬の水田で確認した。水田は山からしみ出た水でぬかるみ、水稻の生育はよくない。水田にはこの他にヤナギスブタ、ホッスモ、オモダカ、クログワイなどが生育する。

#### (4) ワチガイソウ (ナデシコ科) (図 1)

国内では福島県以南の本州~九州に分布。山地の林下に生育する多年草。県内では水戸市や筑波山で確認



図 1. ワチガイソウ。

されている。今回の調査では常陸太田市上高倉(旧水府村)の渓谷で 2 カ所確認した。生育状態は良好で個体数は十数株あった。

#### (5) タヌキナルコ (カヤツリグサ科)

タヌキランとナルコスゲの雑種。タヌキランは北海道~本州中部以北、ナルコスゲは北海道~九州に分布。県内のタヌキランは海岸から県北山地の崖などに生育。ナルコスゲは山地の溪流沿いに生育する。生育地にはタヌキランとナルコスゲが同所的に生育している。県内では未確認種であったが、大子町袋田の久慈川沿いで確認した。

#### (6) オオバウマノスズクサ (ウマノスズクサ科)

(図 2)

本州(関東以西)~九州に分布。つる性の木本で山地の林下に生育する。県内では筑波山付近で確認されている。今回の調査で常陸太田市天下野(旧水府村)の渓谷沿いの林下(標高 270 m)で数個体確認した。しかしながら時期的なこともあり花と実は確認出来なかった。天下野の生育地は北限である。



図 2. オオバウマノスズクサ。

この他の種類は以下のとおりである。

シャク(セリ科)大生瀬、ヤチカワズスゲ(カヤツリグサ科)大生瀬、コシロノセンダングサ(キク科)池田。

・環境庁、茨城県版レッドリスト該当種

#### (7) コタニワタリ (チャセンシダ科)

国内では北海道~九州の日本海側を中心に分布。山地のやや湿り気のある林床に生育する常緑性のシダ植物。県内では常陸太田市、竜神峡、吾国山、城里町などに記録がある。県内の生育地では個体数が少なく単独のことが多い。今回の調査では常陸大宮市諸沢(旧



山方町)の竜神川近くで数十株の個体を確認した。生育状態は良好である。

(8) コガネシダ (メシダ科)

国内では本州から九州に分布。林下の湿り気のある岩上に生育する夏緑性のシダ植物。県内では男体山、西金砂山に記録がある。今回の調査では大子町頃藤の岩場で確認した。個体数は数株であった。

(9) エビラシダ (メシダ科)

本州 (関東地方～近畿地方) と四国に分布。山地の湿り気のある林下などに生育する夏緑性のシダ植物。県内では大子町に2カ所の記録がある。今回の調査では分布の北限にあたる水根の生育地を確認した。渓谷沿いで個体数は多かった。

(10) サジラン (ウラボシ科) (図3)

国内では本州 (福島県以西) ～九州に分布。山地の湿り気のある岩上などに生育する常緑性のシダ植物。県内では竜神峡、西金砂山に記録がある。今回の調査では常陸太田市天下野 (旧水府村) の生育地を確認した。個体数は少なかったが生育状態は良好であった。生育地の岩場にはカタヒバ、イタビカズラ、イワタバコなどが生育する。



図3. サジラン。

(11) ホテイシダ (ウラボシ科)

国内では北海道～九州に分布。落葉広葉樹の樹幹や岩上などに生育する夏緑性のシダ植物。県内では県北地域の山地に記録がある。今回の調査では大子町袋田の男体山付近で岩上に生育する個体を確認した。

(12) ヒメコマツ (マツ科)

北海道～九州に分布。尾根筋や尾根に接する斜面上に生育し比較的乾燥に強い常緑針葉樹。県内では県北山地に記録があるが個体数は少ない。今回の調査では常

陸大宮市諸沢 (旧山方町)、大子町北富田の標高250～450 mの間で確認した。諸沢は比較的個体数が多く、稚樹の生育も数株確認した。大子町高柴に記録があるが確認出来なかった。

(13) ツガ (マツ科) (図4)

国内では本州 (福島県八溝山地以西) ～九州に分布。尾根筋や尾根に接する斜面上に生育する常緑針葉樹。県内では八溝山、大子町高柴、常陸大宮市 (旧山方町) などに記録がある。今回の調査では常陸大宮市諸沢 (旧山方町) と大子町北富田の境付近で胸高直径約10～40 cmの合計5本を確認したが、稚樹は確認出来なかった。生育地は標高400 m付近の急峻な尾根筋なので伐採されずに残ったと思われる。



図4. ツガ。

(14) オオチチツバベンケイ (ベンケイソウ科)

本州 (中部以北) に分布。山地の岩上などに生育する多年草。県内では袋田、男体山などに記録がある。今回の調査では大子町袋田の男体山付近において1カ所確認した。生育地は岩場の尾根筋で乾燥する場所であった。

(15) アオノイワレンゲ (ベンケイソウ科) (図5)



図5. アオノイワレンゲ。

## 植 物

国内では北海道～九州に分布。海岸や稀に内陸の岩上に生育する多肉の多年草ではあるが、開花すると枯れる一稔性植物。県内では海岸にはなく内陸部の袋田、男体山、常陸大宮市（旧山方町）に記録がある。今回の調査では常陸太田市下高倉（旧水府村）と天下野（旧水府村）の2カ所で確認した。生育地は切り立った岩場で個体数は比較的多かった。袋田では生育が確認出来なかった。

### (16) ミヤマトペラ（マメ科）

国内では本州（茨城県以西の太平洋側）～九州に分布。常緑広葉樹林内に生育する常緑性の低木。県内では西金砂山、仏頂山に記録がある。今回の調査では常陸太田市上宮河内（旧金砂郷町）にある西金砂山の常緑広葉樹林内において3カ所確認した。個体数は少ないが開花結実していた。西金砂山の生育地は北限である。

### (17) トウキ（セリ科）

本州（中部以北）に分布。山地の岩場などに生育する多年草。県内では袋田、花貫溪谷に記録がある。大子町袋田で確認した。生育地は久慈川沿いの岩上で個体数は比較的多く、周囲にはダイモンジソウ、ユキヤナギなどが生育している。

### (18) サクラソウ（サクラソウ科）

国内では北海道～九州に分布。山麓や川岸の湿り気のある場所に生育する多年草。県内では県北山地に記録がある。今回の調査では大子町高柴、大生瀬の2カ所で確認した。どちらもとも畑地と接する草地斜面である。高柴の生育地ではイチリンソウ、コウボウ、大生瀬ではヤマブキソウ、タマツリスゲ、アマナなどが周囲に生育することから自生であると思われる。



図6. ハヤザキヒョウタンボク。

### (19) ハヤザキヒョウタンボク（スイカズラ科）

（図6）

本州（中部以北）に分布。山地に生育する落葉性の低木。県内の生育地は本調査地域内で広範囲に確認されているが個体数はすくない。今回の調査では大子町小生瀬、北富田の2カ所において確認したがいずれも単木である。花と実を確認出来たのは北富田の1株であった。

### (20) キンレイカ（オミナエシ科）

本州（茨城県以西）と九州に分布。山地の岩場に生育する多年草。県内では筑波山、男体山、白木山で確認されている。今回の調査では男体山で確認できたが白木山（北限地）では確認出来なかった。生育場所は湿り気のある岩場でオサシダ、イワヒバ、フクロシダなどが生育していた。個体数は比較的多いが生育場所が限られている。

### (21) ヤハズハハコ（キク科）

国内では本州（関東以西）～九州に分布。山地の岩場などに生育する多年草。県内では本調査地域付近にのみ記録がある。今回の調査では大子町頃藤の男体山、常陸太田市天下野（旧水府村）などで確認した。北限は鍋足山。男体山は北限に近い生育地である。

### (22) アキノハハコグサ（キク科）

国内では本州～九州に分布。やや乾いた山地に生育する1年草。県内では各地に記録があるが減少している。今回の調査では常陸太田市下高倉（旧水府村）の竜神峡沿いの林縁に数カ所確認した。

### (23) アギナシ（オモダカ科）

国内では北海道～九州に分布。ため池、水田、湿地などに生育する多年草。県内では県央、県北地域に記録があるが減少している。本調査地域内では大子町北田気の記録がある。今回の調査では大生瀬で確認した。生育地は山間の水田耕作地と接する湿地で、周囲にはヌマガヤ、キセルアザミ、ヒメシロネ、ミズオトギリ、コオニユリ、カキランなどが生育する。

### (24) ギョウジャニンニク（ユリ科）

国内では北海道～本州（近畿以北）に分布。山地のやや湿り気のある斜面などに生育する多年草。県内では袋田に記録がある。今回の調査では小生瀬で確認した。平成16年に開花個体を確認したが、平成17年に

は大部分が盗掘されていた。付近にはアマナ、ヒメニラ、アズマイチゲ、イチリンソウなどの春季性植物が生育する。

(25) タマガワホトトギス (ユリ科)

本州～九州に分布。山地の湿り気のある斜面や岩場に生育する多年草。県内では男体山、加波山、筑波山に記録がある。今回の調査では男体山において1カ所確認した。周囲にはコウグイスカグラなどが生育する。個体数は少なかったが生育状態は良い。

(26) ミヤマスカシユリ (ユリ科)

本州(岩手県・宮城県・茨城県・埼玉県)に分布(大橋他, 2004)。山地のやや湿り気のある岩場などに生育する多年草。県内では本調査地域付近にのみ記録がある。今回の調査では生瀬富士から西金砂山までの範囲で人が近づけないような岩場で確認した。

(27) フクロダガヤ (イネ科)

本州(茨城県・栃木県)に分布。山地の岩場に生育する多年草。県内では本調査地域付近にのみ記録がある。朝鮮の済州島に生育するチョウセンネズミノオの変種で太子町袋田はタイプロカリティである。今回の調査では生瀬富士から常陸太田市天下野(旧水府村)付近までの生育地を確認した。個体数は多い。

(28) セッコク (ラン科)

国内では本州～琉球まで分布。山地の常緑樹の樹上や岩場に生育する多年草。県内では本調査域や御前山、佐白山、筑波山、七会村などに記録がある。今回の調査では西金砂神社のスキに着生しているのを確認した。花の最盛期には枝全体が白い雪をかぶったように見えた。

(29) ツクバスケ (カヤツリグサ科)

本州(近畿以北)に分布。山地帯から高山帯の林床や岩場などに生育する多年草。筑波山がタイプロカリティである。県内では筑波山や本調査地域などに記録がある。今回の調査では標高140mの太子町下野宮から標高470mの太子町北富田竈岩付近の間で確認した。

その他の環境省と茨城県版レッドリスト該当種および確認場所は以下のとおりである。  
(シダ植物)

エゾノヒメクラマゴケ(イワヒバ科) 小生瀬～天下野、イワヒバ(イワヒバ科) 小生瀬～上宮河内、カタヒバ(イワヒバ科) 小生瀬～天下野、ミズニラ(ミズニラ科) 池田・諸沢(竜神川)、ヤシヤゼンマイ(ゼンマイ科) 袋田、アオホラゴケ(コケシノブ科) 諸沢、クモノスシダ(チャセンシダ科) 北田気・袋田・諸沢・上利員、イノデモドキ(オシダ科) 諸沢、サクライカグマ(オシダ科) 池田、イワオモダカ(ウラボシ科) 袋田・頃藤・太子町北富田・下高倉。

〈離弁花類〉

オノオレカンバ(カバノキ科) 袋田・諸沢・上宮河内、カゴノキ(クスノキ科) 上宮河内、スハマソウ(キンポウゲ科) 北田気・小生瀬・上高倉、カザグルマ(キンポウゲ科) 北田気、ムカゴネコノメ(キンポウゲ科) 小生瀬、ヤマブキソウ(ケシ科) 大生瀬・小生瀬、ヒメレンゲ(ベンケイソウ科) 袋田～天下野、タコノアシ(ベンケイソウ科) 袋田、ナンキンナナカマド(バラ科) 小生瀬、リンボク(バラ科) 上宮河内。

〈合弁花類〉

イワウチワ(イワウメ科) 小生瀬～上宮河内、キジョラン(ガガイモ科) 上高倉・下高倉・天下野・上宮河内、スズサイコ(ガガイモ科) 池田、キバナカワラマツバ(アカネ科) 頃藤、イブキジャコウソウ(シソ科) 頃藤・太子町北富田・上高倉・天下野、イヌタヌキモ(タヌキモ科) 池田・大生瀬、キキョウ(キキョウ科) 大生瀬・小生瀬、オヤリハグマ(キク科) 高柴～下宮河内、センダイトウヒレン(キク科) 高柴～上高倉、オオニガナ(キク科) 下野宮、ヒメシオン(キク科) 常陸太田市竹合。

〈単子葉植物〉

イトモ(ヒルムシロ科) 小生瀬、イトトリゲモ(イバラモ科) 小生瀬、アマナ(ユリ科) 大生瀬・小生瀬、キジカクシ(ユリ科) 袋田、ヒオウギ(アヤメ科) 頃藤・常陸大宮市北富田・諸沢・上高倉・下高倉・天下野、ミクリ(ミクリ科) 常陸太田市箕、マメヅタラン(ラン科) 太子町北富田・諸沢・天下野、ムヨウラン(ラン科) 上宮河内、ヒナラン(ラン科) 諸沢・天下野、ムギラン(ラン科) 諸沢・天下野、オオヤマサギソウ(ラン科) 小生瀬・上高倉、ウチョウラン(ラン科) 太子町北富田・諸沢。

・分布上注目すべき種類

(30) オクタマゼンマイ(ゼンマイ科)

北海道～九州に分布。豪雨で増水した時に水をかぶるような川岸の岩場に生育する夏緑性のシダ植物で、



## 植 物

ゼンマイとヤシャゼンマイの雑種である。県内では県北、県央の渓谷などに記録がある。今回の調査では大子町袋田で確認した。

### (31) オオキヨズミシダ (オシダ科) (図7)

国内では本州(福島県以西)~九州に分布。林下の斜面や湿り気のある岩場などに生育する常緑性のシダ植物。県内では真弓山、西金砂山、日立市に記録がある。今回の調査では上宮河内(標高260 m)と天下野(標高200 m)において確認した。天下野の個体は全長が75 cmを超えるものがあった。



図7. オオキヨズミシダ。

### (32) シノブカゲマ (オシダ科)

国内では北海道~九州に分布。ブナ帯や針葉樹林帯の林下などに生育する常緑性のシダ植物。県内では県北や県央に記録がある。垂高山の針葉樹林下などでは集団で生育することが多いが、県内では単独で生育することが多い。今回の調査では上宮河内の西金砂山付近のスギ林下(標高330 m)で1個体確認した。

### (33) ツクバネガシ (ブナ科)

本州(富山県、宮城県以南)~九州に分布。沢沿いの斜面などに生育する常緑の高木。県内では各地に生育するが個体数は少ない。今回の調査では上宮河内の西金砂山と諸沢の亀ヶ淵付近(標高220 m)で確認した。亀ヶ淵付近で確認できたのは1本のみで胸高直径15 cm程度であった。

### (34) ヤマグルマ (ヤマグルマ科) (図8)

国内では本州(山形県、福島県以南)~琉球に分布。湿り気のある斜面を好み岩場付近などに生育する常緑広葉樹。県内では男体山にのみ記録がある。今回の調査では男体山稜線の上高倉側で確認した。2002年の山火事で心配であったが山火事の影響は少なく、個体

数は比較的多かった。本種の材は仮導管を持ち、日本では導管がない唯一の広葉樹である。



図8. ヤマグルマ。

### (35) ミヤマカラマツ (キンポウゲ科)

国内では北海道~九州に分布。山地の林内に生育する多年草。県内では八溝山、袋田、筑波山などに記録がある。今回の調査では大子町袋田の男体山付近において1カ所確認した。生育地は沢筋の岩場である。

### (36) イワハタザオ (アブラナ科)

本州(中部以北)に分布。山地の湿り気のある岩場などに生育する多年草。県内では大北渓谷、男体山、大子町北富田、竜神峡などで確認されている。今回の調査では大子町袋田の男体山付近の沢2カ所で確認した。個体数は多くないが、開花結実していた。

### (37) アイズシモツケ (バラ科)

国内では北海道~九州に分布。湿り気のある岩場の斜面に生育する落葉性の低木。県内では本調査地域付近にのみ記録がある。個体数は多くないが、天下野、諸沢などで確認した。

### (38) イワシモツケ (バラ科) (図9)

本州(中部以北)に分布。山地の日当たりのよい岩場に生育する落葉性の低木。県内では男体山、西金の小草越に記録がある。今回の調査では大子町北富田の籠岩、西金の小草越付近の岩場において確認した。生育状態は良好である。

### (39) ホタルサイコ (セリ科)

本州~九州に分布。山野の日当たりのよい所や林下などに生育する多年草。県内では真弓山、袋田、男体山などに記録がある。今回の調査では本調査地域の尾根筋に近い岩場や斜面などで確認した。



図9. イワシモツケ.

(40) メハジキ (シソ科)

国内では本州～琉球に分布。道ばたや荒地に生育する越年草。県内では各地の記録があるが県北地域では少ない。今回の調査では下高倉の竜神ダム付近、大子町北富田の2カ所で確認した。草刈りなどが入ると確認できない種類のひとつである。

(41) ケスズ (イネ科)

本州と四国に分布。山地の林床に生育する常緑性の低木。県内では花園山、常陸大宮市(旧緒川村、旧山方町)に記録がある。常陸大宮市(旧山方町)はタイプロカリティである。今回の調査では常陸大宮市諸沢(旧山方町)の大久保から亀ヶ淵に向かう尾根筋斜面(標高300 m)で確認した。周囲にはスズダケも混生していた。

その他に分布上注目すべき代表的種類および確認場所は以下のとおりである。

〈シダ植物〉

ウラジロ (ウラジロ科) 天下野, フモトシダ (コバノイシカグマ科) 頃藤・天下野, ホソバイヌワラビ (メシダ科) 袋田

〈離弁花類〉

コバノイラクサ (イラクサ科) 袋田, ナガバヤブマオ (イラクサ科) 下高倉, コケミズ (イラクサ科) 袋田・下高倉・上宮河内, カワラアカザ (アカザ科) 山方, アズマイチゲ (キンポウゲ科) 小生瀬・上高倉, エドヒガン (バラ科) 西金, ミズオトギリ (オトギリソウ科) 大生瀬, ホソバヤマブキソウ (ケシ科) 小生瀬, ハクサンハタザオ (アブラナ科) 袋田・上高倉・下高倉, ミヤマハハソ (アワブキ科) 袋田・上高倉, ニッコウナツグミ (グミ科) 小生瀬, コミヤマスマレ (スマレ科) 頃藤・大子町北富田・上高倉・天下野, ウシ

タキソウ (アカバナ科) 袋田

〈合弁花類〉

カリガネソウ (クマツヅラ科) 頃藤・西金, ミヤマナミキ (シソ科) 小生瀬・上高倉, ケヤマウツボ (ハマウツボ科) 天下野, コウゲイスカグラ (スイカズラ科) 小生瀬～上宮河内, センダイハゲマ (キク科) 高柴, オオモミジガサ (キク科) 上高倉, ミヤコアザミ (キク科) 大生瀬

〈単子葉植物〉

ヒロハノドジョウツナギ (イネ科) 天下野, タマリスゲ (カヤツリグサ科) 大生瀬・上高倉, ビロードスゲ (カヤツリグサ科) 下野宮・大生瀬・高柴・池田

・主な未確認種

〈シダ植物〉

ハイホラゴケ (コケシノブ科), カラクサシダ (ミズウラボシ科), オオバノハチジョウシダ (イノモトソウ科), ヤマドリトラノオ (チャセンシダ科), ミヤマワラビ (ヒメシダ科), オオメシダ (メシダ科), ヒメサジラン (ウラボシ科), オシヤクジデンド (ウラボシ科), サンショウモ (サンショウモ科) など。

〈離弁花類〉

シラカンバ (カバノキ科), トキホコリ (イラクサ科), イラクサ (イラクサ科), ヌカボタデ (タデ科), マルミノヤマゴボウ (ヤマゴボウ科), イワアカザ (アカザ科), レンゲショウマ (キンポウゲ科), エンコウソウ (キンポウゲ科), イヌショウマ (キンポウゲ科), コセリバオウレン (キンポウゲ科), オキナグサ (キンポウゲ科), ヒツジグサ (スイレン科), ヤマシャクヤク (ボタン科), ナツツバキ (ツバキ科), ヤマブキショウマ (バラ科), マキエハギ (マメ科), タヌキマメ (マメ科), マツバニンジン (アマ科), サクラスミレ (スミレ科), アマニユウ (セリ科), ミシマサイコ (セリ科) など。

〈合弁花類〉

シャクジョウソウ (イチヤクソウ科), サラサドウダン (ツツジ科), コケリンドウ (リンドウ科), サワルリソウ (ムラサキ科), オニルリソウ (ムラサキ科), ヤマジソ (シソ科), キセウタ (シソ科), テンニンソウ (シソ科), イヌノフグリ (ゴマノハグサ科), ハゲロソウ (キツネノマゴ科), キヨスミウツボ (ハマウツボ科), フクシマシャジン (キキョウ科), アズマギク (キク科), タカサゴソウ (キク科), オタカラコウ (キク科) など。

〈単子葉植物〉

## 植 物

ホガエリガヤ (イネ科), アポイザサ (イネ科), タチスゲ (カヤツリグサ科), センダイスゲ (カヤツリグサ科), コシンシュガヤ (カヤツリグサ科), キバナノアマナ (ユリ科), ホソバナアマナ (ユリ科), ユウシュンラン (ラン科), コキンバイザサ (ヒガンバナ科), イチハツ (アヤメ科), アワボスゲ (カヤツリグサ科), イヌアワ (イネ科), エビネ (ラン科), コアツモリソウ (ラン科), クマガイソウ (ラン科), サギソウ (ラン科), スズムシソウ (ラン科), ツレサギソウ (ラン科), マイサギソウ (ラン科), トキソウ (ラン科), モミラン (ラン科), サカネラン (ラン科) などである。

### 引用文献

- 会沢 良. 1967. 竜神峡にツガの自生がある. フロラ茨城, (36) : 1.
- 茨城大学生物研究会. 1965. 西金砂山植物目録 (1). フロラ茨城, (28) : 3-4.
- 茨城大学生物研究会. 1965. 西金砂山植物目録 (2). フロラ茨城, (29) : 3-4.
- 茨城大学生物研究会. 1965. 西金砂山植物目録 (3). フロラ茨城, (30) : 4-6.
- 茨城大学生物研究会. 1971. 西金砂山植物目録補遺. フロラ茨城, (51) : 1-2.
- 金砂郷の自然編集委員会. 1998. 金砂郷の自然. 305 pp., 金砂郷町・金砂郷町教育委員会.
- 小室 健. 1984. 奥久慈の植物と自然の風景. 218 pp., 奥久慈植物研究友の会.
- 中崎保洋. 1971. 暖地性シダの産地 2) エビラシダ. フロラ茨城, (52-53) : 4.
- 野口達也. 1970. サジランを西金砂山で採集. フロラ茨城, (47) : 1-2.
- 大橋広好・吉田 繁・上野雄規. 2004. ミヤマスカシユリの新分布. 植物研究雑誌, (79) : 140-142.
- 小倉洋志. 1970. 西金砂山のサジラン. フロラ茨城, (49) : 1-2.
- 齊藤卯内. 1957. 自然をたずねて.
- 清水 修. 1973. 久慈郡男体山の植物. 1) サワリソウ 2) オオモジガサ 3) キンレイカ 4) タマガワホトトギス 5) コウゲイスカグラ. フロラ茨城, (60) : 7-8.
- 清水 修. 1973. スズムシソウの新産地. フロラ茨城, (61) : 1.
- 清水 修. 1975. エビラシダの産地. フロラ茨城, (67) : 4.
- 清水 修. 1979. ハヤザキヒョウタンボクの産地. フ

- フロラ茨城, (73) : 2-3.
- 清水 修・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・大谷市右衛門. 1981. 奥久慈の植物 - 袋田・男体山・竜神峡・鍋足山・西金砂山の植物. 茨城の生物第2集. pp.112-132, 茨城県高等学校教育研究会生物部.
- 清水 修・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸. 1986. 久慈山地北部の植物相. 茨城植物研究, (1) : 3-77.
- 鈴木昌友. 1958. フクロダガヤの産地. フロラ茨城, (2) : 2-3.
- 鈴木昌友・塙 佳子. 1965. ミヤマスカシユリの産地. フロラ茨城, (30) : 6.
- 鈴木昌友. 1966. 茨城県植物雑記 (17) 32) スズムシソウ. フロラ茨城, (34) : 2.
- 鈴木昌友・安 昌美・安見珠子. 1966. 茨城県産シダ植物目録 (1). フロラ茨城, (31) : 3-6.
- 鈴木昌友・安 昌美・安見珠子. 1966. 茨城県産シダ植物目録 (2). フロラ茨城, (32) : 3-6.
- 鈴木昌友・安 昌美・安見珠子. 1966. 茨城県産シダ植物目録 (3). フロラ茨城, (33) : 3-6.
- 鈴木昌友. 1966. 男体山植物採集会テキスト. 9 pp., 茨城県教育研究会理科部.
- 鈴木昌友. 1969. 茨城県植物雑記 (9) 37) モミラン. フロラ茨城, (43) : 2.
- 鈴木昌友. 1969. ヒナランの分布. フロラ茨城, (44) : 1-2.
- 鈴木昌友. 1969. 茨城県植物雑記 (20) 38) キンレイカ. フロラ茨城, (46) : 1-2.
- 鈴木昌友. 1970. ムヨウラン. フロラ茨城, (49) : 1.
- 鈴木昌友. 1973. 茨城県産植物雑記 (22) 42) 大子にギョウジャニンニクの産地. フロラ茨城, (58-59) : 5.
- 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.
- 鈴木貞雄. 1975. クジナンプスズはケスズである. フロラ茨城, (68) : 4.
- 和田尚幸. 1973. 竜神峡のスズムシソウ健在. フロラ茨城, (61) : 1-2.
- 谷田部武雄. 1963. 茨城県北の着生ラン3種 ベニカヤラン. フロラ茨城, (22) : 4.

### 参考文献

- 秋山茂雄. 1955. 極東亜産スゲ属植物. 257 pp., 北海道大学.
- 茨城県環境局. 1985. 特定動植物分布調査報告書 茨



- 城の特定動植物の分布（昭和 58・59 年），532 pp., 茨城県環境局.
- 茨城県環境局. 1991. 茨城県自然公園特別地域内指定植物図鑑. 266 pp., 茨城県環境局.
- 茨城県環境局環境管理課. 1991. 茨城県自然公園特別地域内指定植物図鑑. 266 pp., 茨城県環境局環境管理課.
- 茨城県環境保全課. 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物〈植物編〉. 253 pp., 茨城県環境保全課.
- 茨城県高等学校教育研究会生物部. 1973. 昭和 47 年度特別地域自然財分布調査報告. 564 pp., 茨城県高等学校教育研究会生物部.
- 茨城県高等学校教育研究会生物部. 1981. 茨城の生物第 2 集. 313 pp., 茨城県高等学校教育研究会生物部.
- 茨城県高等学校教育研究会生物部. 1992. 茨城の生物平成 4 年版（第 3 集）. 284 pp., 茨城県高等学校教育研究会生物部.
- 茨城県生活環境部. 1995. 茨城県特定動植物分布調査報告書 1 茨城の特定動植物の分布－植物編－（平成 5・6 年）. 494 pp., 茨城県生活環境部.
- 岩槻邦男編. 1992. 日本の野生植物シダ. 311 pp., 平凡社.
- 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑. 178 pp., 文一総合出版.
- 環境庁自然保護局野生生物課. 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－8 植物 I（維管束植物）. 660 pp., 財団法人自然環境研究センター.
- 北村四郎・村田 源. 1961. 原色日本植物図鑑草本編〔II〕離弁花類. 390 pp., 保育社.
- 北村四郎・村田 源・小山鐵夫. 1964. 原色日本植物図鑑草本編〔III〕単子葉類. 464 pp., 保育社.
- 北村四郎他・村田 源・堀 勝. 1957. 原色日本植物図鑑草本編〔I〕合弁花類. 297 pp., 保育社.
- 中池敏之. 1982. 新日本植物誌シダ篇. 808 pp., 至文堂.
- 中池敏之. 1992. 新日本植物誌シダ篇 改訂増補版. 868 pp., 至文堂.
- 大井次三郎（著）・北川政夫（改訂）. 1992. 新日本植物誌顕花篇. 1716 pp., 至文堂.
- 長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜. 759 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）. 1989. 日本の野生植物 木本 I. 321 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫（編）. 1989. 日本の野生植物 木本 II. 305 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編）. 1981. 日本の野生植物 草本 III 合弁花類. 259 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編）. 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類. 305 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編）. 1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類. 318 pp., 平凡社.
- 杉本順一. 1973. 日本草本植物誌総検索誌 II 単子葉編. 630 pp., 井上書店.
- 杉本順一. 1978. 日本草本植物誌総検索誌双子葉編. 871 pp., 井上書店.
- 杉本順一. 1978. 新日本樹木総検索誌. 583 pp., 井上書店.
- 杉本順一. 1979. 日本草本植物誌総検索誌 III シダ編. 481 pp., 井上書店.
- 上野雄規編. 1991. 北本州産高等植物チェックリスト. 365 pp., 東北植物研究会.
- 上野雄規. 1996. 北本州産高等植物チェックリスト補遺 I. 東北植物研究, (9): 32-46.
- 我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会種分科会編. 1989. 我が国における保護上重要な植物種の現状. 320 pp., (財)日本自然保護協会・(財)世界自然保護基金日本委員会.
- 吉川純幹. 1957・1958・1960. 日本スゲ属植物図譜 第一巻 第二巻 第三巻. 421 pp., 北陸の植物の会.

#### 調査研究

鈴木昌友（茨城大学名誉教授 理学博士）

安 昌美（元茨城県高等学校教育研究会生物部長）

内山治男（大成女子高等学校教諭）

安嶋 隆（茨城県立日立第二高等学校教諭）

#### 執筆

内山治男（大成女子高等学校教諭）

安嶋 隆（茨城県立日立第二高等学校教諭）

## 鷲子山，尺丈山，青麻山周辺地域の 維管束植物

はじめに

本地域は、茨城県北西部に位置し、八溝山地の一部に当たり、西は栃木県に接している。この地域は、標高が低く、人家が近いので古くからスギ、ヒノキの人工林になっているところが多い。

いずれの山頂にも神社が置かれ信仰の対象になっているので、登山道が整備されている。また、スギ、ヒノキを切り出すための林道も延びている。神社の置かれている山頂付近は、伐採されずに比較的人の手がかえられない状態で残っている。特に、鷲子山は大きな神社が置かれているため、神社林として古くから保存されている。

鷲子山（標高 468 m）は、山頂付近で栃木県と接している。山頂には鷲子山山上神社が置かれ、茨城県常陸大宮市鷲子（旧美和村）と栃木県那須郡那珂川町（旧馬頭町）より神社まで車道が通じている。

周辺は、ほぼスギ、ヒノキ林の人工林になっているが、山頂付近は神社林として保護され、スギ林および自然林となっている。自然林は、モミ、ブナ、イヌブナ、アカシデなどの冷温帯林とシラカシ、ウラジロガシなどの暖温帯林とが見られる。特にモミは、胸高直径 1.5 m を超える巨木も見られる。冷温帯林の林床には、カタクリ、ウスバサイシン、レンゲショウマ、イワウチワなどの稀産種の草本植物が見られる。また、特にイワウチワは、この地域の標高 400 m より上部の尾根に群落が多く見られる。スギ林は、巨木が多く残っていて、低木にアオキ、草本植物に暖温帯性の植物が見られる。

尺丈山（標高 511.5 m）は、常陸大宮市に属しているが、山頂より西側は栃木県那珂川町になっている。常陸大宮市高部より山頂付近まで車道が通じている。山頂付近は展望台が設けられ、きれいに伐採された後に市民等による植樹がされている。山頂には、神社が置かれスギの巨木が見られる。周辺は、スギ、ヒノキの人工林が大部分を占め、尾根沿いの一部にコナラなどの落葉広葉樹の二次林が残っている。また、県道 32 号線よりの尺丈林道も、山頂近くまで延びている。この林道沿いは、大部分スギ、ヒノキの人工林になっている。

青麻山（標高 394.9 m）は、常陸大宮市に属し、常陸大宮市竹之内と熊久保より林道が山頂に向かって延

びている。特に、熊久保からの林道は、山頂直下まで延びている。山頂には神社が置かれ、詣でるための登山道も整備されている。この地域も大部分スギ・ヒノキの人工林で占められ、一部の尾根や山頂付近がコナラなどの二次林になっている。この尾根の斜面には、イワウチワの大きな群落が見られる。また、スギ林には、オオクジャクシダ、キヨスミヒメワラビなどの暖温帯性のシダ植物や、ミヤマクマワラビなどの冷温帯性のシダ植物が見られ興味深い。

### 調査方法

#### 1. 調査地域

鷲子山，尺丈山，青麻山のどの地域も、麓から山頂にかけての山林や原野を主な調査地域とした。行政的には、常陸大宮市（旧那珂郡美和村）と一部栃木県那珂川町（旧馬頭町）が含まれている。

#### 2. 調査期間

##### （1）平成 15（2003）年度

平成 15 年度は予備調査と文献調査を行った。予備調査は 6 月から 10 月に、延べ 8 回行った。

6 月 14 日（土）	青麻山，尺丈山
28 日（土）	鷲子山
7 月 19 日（土）	鷲子山
8 月 2 日（土）	尺丈山
23 日（土）	鷲子山
9 月 6 日（土）	青麻山，尺丈山
10 月 4 日（土）	鷲子山
25 日（土）	青麻山，尺丈山

##### （2）平成 16（2004）年度

平成 16 年度は 3 月から 11 月に、延べ 11 回行った。

3 月 27 日（土）	鷲子山
4 月 10 日（土）	鷲子山，尺丈山
5 月 2 日（日）	青麻山
22 日（土）	青麻山，尺丈山
6 月 5 日（土）	鷲子山
26 日（土）	尺丈山
7 月 17 日（土）	青麻山
31 日（土）	鷲子山
9 月 25 日（土）	鷲子山
10 月 23 日（土）	青麻山，尺丈山
11 月 6 日（土）	鷲子山

##### （3）平成 17（2005）年度

平成 17 年度は 4 月から 11 月に、延べ 13 回行った。

4 月 9 日 (土)	青麻山, 尺丈山
4 月 29 日 (金)	鷲子山
5 月 3 日 (火)	鷲子山
21 日 (土)	青麻山
6 月 11 日 (土)	鷲子山
7 月 2 日 (土)	青麻山
23 日 (土)	尺丈山
8 月 7 日 (日)	鷲子山
21 日 (日)	尺丈山
9 月 17 日 (土)	鷲子山
10 月 1 日 (土)	青麻山
29 日 (土)	尺丈山
11 月 5 日 (土)	鷲子山

### 3. 調査項目

維管束植物（シダ植物，種子植物）を対象として，植物相と植生の概要の調査を行った。

- (1) 調査地に生育する全植物の確認と記録
- (2) 調査地の植生の概要
- (3) 生育する植物の採集と標本の作製（原則として花・実が付いている個体を採集，1 種の植物につき 2～4 点作成）

採集・確認目録は付表 1 に示した。なお，付表 1 に示した種数は次のとおりである。

・確認種 708 種

- (4) 写真の撮影（採集した主な植物とその生育状況が分かる写真）

## 結 果

### 1. 植生の概況

#### (1) スギ林

スギ林は，この地域で最大の面積を占めている。大部分は，湿り気のある沢沿いの斜面等に植林されたものである。

鷲子山神社近くの標高およそ 450 m のスギ林では，胸高直径約 50 cm のスギが高木層を形成している。亜高木層にはウワミズザクラ，アワブキ，ミズキが見られる。低木層にはコクサギ，サワシバ，ハナイカダ，ムラサキシキブ，イヌシデ，タマアジサイ，ウリノキ，フジ，イタヤカエデ，イロハモミジ，ウリカエデ，イワガラミ，エゴノキ，リョウブ，ミヤマシキミ，イヌガヤ，コバノガマズミ，ヒメコウゾ，ケアオダモ，マタタビなどが見られる。草本層には，クラマゴケ，ヤマイヌワラビ，ベニシダ，ミゾシダ，ミヤマイタチシ

ダ，ツヤナシイノデ，ジュウモンジシダ，ミヤマシケシダなどのシダ植物の他，シンミズヒキ，カキドオシ，ヤブコウジ，モミジガサ，オオバジャノヒゲ，ウワバミソウ，ミヤマカンスゲ，テイカカズラ，ミヤマカタバミ，サワギク，コチヂミザサ，ツルカノコソウ，マムシグサ，ツルニガクサ，イタドリ，ヒカゲイノコズチ，トリアシショウマ，ニリンソウなどが見られる。

尺丈山の標高 300 m 付近のスギ林では，胸高直径 30～40 cm のスギが高木層を形成している。亜高木層はなく，低木層にはチャノキ，ウワミズザクラ，ハナイカダ，ヤマザクラ，コアカソ，ウリノキ，ヤブムラサキ，ツタウルシなどが見られる。草本層にはリョウメンシダ，オオバノイノモトソウ，イワガネソウ，ハリガネワラビ，オシダ，ヤブソテツ，キョタキシダ，ツヤナシイノデ，ジュウモンジシダ，イノデ，ヤマイヌワラビなどのシダ植物の他，アマチャヅル，イタドリ，オニドコロ，ヒカゲイノコズチ，ツリフネソウ，ノブドウ，コチヂミザサ，ヘクソカズラ，アカネ，ヤマミズ，ツルニガクサ，ミツバ，ウワバミソウ，ハナタデ，ヌスビトハギ，ケムラサキニガナ，サワギクなどが見られる。

青麻山の標高 300 m 付近のスギ林は，胸高直径 40 cm～50 cm のスギが高木層を形成している。亜高木層はなく，低木層にはアオキ，ヤマウコギ，アラカシ，マタタビ，ヤマウルシ，ウリノキ，タマアジサイ，ミツマタ，ウワミズザクラ，ハナイカダ，ヒメコウゾ，ムラサキシキブ，サンショウ，ミツバアケビ，ツタウルシ，ヤマザクラ，ニワトコ，ネムノキ，ツタ，ニガキ，フジなどが見られる。

草本層にはトウゲシバ，ジュウモンジシダ，オオバノイノモトソウ，オオクジャクシダ，ヤブソテツ，ナガホノナツノハナワラビ，オクマワラビ，クマワラビ，リョウメンシダ，イノデ，ハリガネワラビ，イワガネゼンマイ，キョタキシダ，ミヤマシケシダなどのシダ植物の他，ヤブラン，トウギボウシ，ツリフネソウ，キツリフネ，クサコアカソ，アマチャヅル，ホウチャクソウ，ドクダミ，ヒカゲイノコズチ，ジャノヒゲ，シンミズヒキ，モミジイチゴ，オニドコロ，アケビ，ミツバ，キバナアキギリ，ムカゴイラクサ，フキ，ウバユリ，マムシグサ，トリアシショウマ，ダイコンソウ，サラシナショウマ，タチゲヒメヘビイチゴ，マツカゼソウ，アオイスミレ，サンカクヅル，トチバナシジン，ハグロソウ，ノブキ，コバギボウシ，フタリシズカ，カシワバハグマ，オヤリハグマなどが見られる。



(2) モミ林

モミ林は、鷲子山の標高およそ 400 m 以上の尾根にブナやヤマザクラなどと混生して見られる。

鷲子山神社保存林（標高およそ 450 m）では、胸高直径約 1.5 m のモミの他にオニイタヤ、ヤマザクラ、ブナ、イヌブナ、ヒノキ、スギの高木が見られる。亜高木層にはオオバマンサク、シキミ、リョウブ、シラカシ、イヌシデが見られる。低木層には、スズダケ、イヌツゲ、シキミ、イヌガヤ、ウラジロガシ、ヤブムラサキ、モミ、ハクウンボク、アオキ、サルトリイバラ、ハナイカダ、ミヤマシキミ、ニワトコ、コシアブラ、ゴンズイ、バイカツツジが見られる。草本層にはイワウチワ、カシワバハグマ、テイカカズラ、シキミ、ミヤマナルコユリ、ヤブコウジ、チゴユリ、オクモミジハグマ、コチヂミザサ、モミ、イヌブナ、キッコウハグマ、マムシグサ、ツタウルシ、フモトスミレ、ヒメヤブラン、ミヤマウズラなどが見られる。

上記の保存林の沢（標高およそ 350 m）では、高木層にモミの他にスギ、イヌシデなどが混生して見られる。亜高木層にはイヌシデ、シラキ、モミなどが見られる。低木層にはモミ、アオキ、イロハモミジ、ムラサキシキブ、ハナイカダ、アワブキ、モミジイチゴ、サンショウ、ウリノキ、ウリハダカエデなどが見られる。草本層にはキヨタキシダ、ベニシダ、ヒメノキシノブ、ジュウモンジシダ、ヤマイヌワラビ、ミゾシダなどのシダ植物の他、レンゲショウマ、コミヤマスマ、ミズヒキ、ウワバミソウ、ハエドクソウ、ミヤマシラスゲ、ドクダミ、テイカカズラ、タマブキ、カシワバハグマ、キバナアキギリ、オクモミジハグマ、シュウブソウ、ルイヨウボタン、ヒカゲイノコズチ、ミヤマシキミ、ミヤマハコベ、ミヤマカンスゲ、オオバショウマ、タチゲヒメヘビイチゴ、ヨゴレネコノメ、オオヤマフスマ、モミジガサ、クサアジサイ、フタリシズカ、マムシグサ、ツクバネソウ、ダイコンソウなどが見られる。

(3) コナラ林

コナラを主とした落葉樹林は、鷲子山保存林の一部や尺丈山や青麻山の尾根などに見られる。スギ、ヒノキの植林が進み、限られた小面積のみ残ったものと考えられる。なお、その中に枯死したアカマツが目につく。

鷲子山保存林の沢（標高およそ 300 m）では、コナラの他にイヌシデ、サワシバ、ホオノキ、ミズキなどの高木が見られる。亜高木層にはオオモミジ、ヒトツ

バカエデ、ミツデカエデ、オオバマンサク、リョウブなどが見られる。低木層にはヤマウグイスカグラ、シラキ、ミヤマシキミ、スズダケ、ヤマブキ、ハリギリ、ガマズミ、アオキ、コクサギ、モミジイチゴ、コゴメウツギ、モミ、ハナイカダ、ムラサキシキブ、ウリノキ、オトコヨウゾメ、ミヤマガマズミなどが見られる。草本層にはジュウモンジシダ、ミゾシダ、ツヤナシイノデ、ヒメノキシノブ、シシガシラなどのシダ植物の他、カタクリ、ウワバミソウ、ミヤマカンスゲ、ウスバサイシン、エイザンスミレ、ヤマブキショウマ、カシワバハグマ、フモトスミレ、ミズヒキ、ニリンソウ、コバギボウシ、キバナアキギリ、チゴユリ、キクザキイチゲ、トンボソウ、オクモミジハグマ、ミヤマカタバミ、クサアジサイ、モミジガサ、ツルリンドウ、ツルマサキ、タガネソウ、ミヤマナルコユリ、ヤブコウジ、フジ、ツタウルシ、ヤブヘビイチゴ、コチヂミザサ、フクオウソウ、オオバノトンボソウ、アズマヤマアザミ、ヤマジノホトトギス、トリアシショウマ、クモキリソウ、タチシオデなどが見られる。

青麻山の山頂から南西に延びる尾根近くの斜面（標高およそ 300 m）では、コナラ、アカマツ、イヌシデ、アオハダ、カスミザクラなどの高木が見られる。亜高木層にはオオバマンサク、アオハダ、タカノツメなどが見られる。低木層にはヤマツツジ、アカマツ、ネジキ、ツクバネ、ウワミズザクラ、トウゴクミツバツツジ、コアジサイ、ヒノキ、ナツハゼ、ウリカエデ、ケアオダモ、コシアブラ、アブラツツジ、バイカツツジ、ミヤマシキミ、オトコヨウゾメ、ダンコウバイ、リョウブなどが見られる。

草本層にはシシガシラ、イワウチワ、チゴユリ、ミツバアケビ、コカンスゲ、ミヤマナルコユリ、シュンランなどが見られる。特に、春先に群生して開花しているイワウチワは見事である。

青麻山山頂近く南側の尾根（標高およそ 360 m）では、高木層に胸高直径約 20 cm のコナラ、アカマツ、コシアブラ、ホオノキ、カスミザクラなどが見られる。亜高木層には、ウラジロノキ、クリ、リョウブ、ケアオダモ、イヌシデ、カスミザクラなどが見られる。低木層にはネジキ、ヤマツツジ、コアジサイ、ガマズミ、リョウブ、モミジイチゴ、コゴメウツギ、アラカシ、シラカシ、クリ、ヤマウルシ、エゴノキ、ヒトツバカエデ、ウリカエデ、ツノハシバミ、コナラ、トウゴクミツバツツジ、タカノツメ、コシアブラ、ダンコウバイなどが見られる。草本層には、ゼンマイ、コウヤボウキ、ナガバノコウヤボウキ、シュンラン、ヤマユリ、

チゴユリ、イチヤクソウ、ヤブコウジ、オオバノトンボソウ、タガネソウ、ツルリンドウ、タチドコロ、オクモミジハグマ、イワウチワ、サルトリイバラ、マキノスミレなどが見られる。

尺丈山南側の尾根（標高およそ 400 m）では、高木層には枯死を逃れた胸高直径 40～50 cm のアカマツやコナラ、ウリハダカエデ、ヤマザクラなどが見られる。亜高木層にはネジキ、リョウブ、コナラ、ケアオダモ、アオハダなどが見られる。低木層にはヤマツツジ、ヤマウルシ、リョウブ、ウリハダカエデ、コアジサイ、ガマズミ、ヒナウチワカエデ、ウリカエデ、ケカマツカ、モミ、ヒノキ、アオハダが見られる。草本層にはゼンマイ、ミヤコザサ、タガネソウ、ヒカゲスゲ、チゴユリ、ツルリンドウ、タチドコロ、シュンラン、ヤブコウジ、オクモミジハグマ、トウギボウシなどが見られる。

#### (4) ブナ・コナラ林

鷲子山保存林の標高およそ 400 m 付近の尾根の一部に見られる。高木層には胸径直径 10～20 cm のブナの他にコナラ、コシアブラ、ウラジロノキが見られる。低木層にはコハウチワカエデ、シキミ、トウゴクミツバツツジ、アオハダ、イヌツゲ、ヤマツツジ、リョウブ、ウリカエデ、ヤマウルシ、アブラツツジ、コシアブラ、シキミ、ツクバネ、ウワミズザクラなどが見られる。草本層には、スズダケ、イワウチワ、ムヨウランなどが見られる。

## 2. 注目すべき植物

### (1) ミズニラ（ミズニラ科）（図 1）

北海道（胆振）～九州に分布。池沼や水田等に見られる夏緑性のシダ植物。葉が細いので単子葉植物に見間違いやすい。県南西地域の水田等の水湿地にはやや普通に見られる。今回の調査では、鷲子山の日当たり

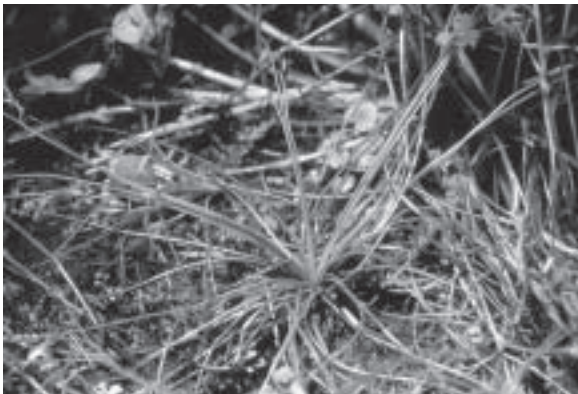


図 1. ミズニラ。

の良い湿地と、その麓の水田に数個体ずつ生育しているのを確認した。国レベルでは絶滅危惧種Ⅱ類に、県レベルでは希少種に指定されている。

### (2) キジノオシダ（キジノオシダ科）

本州（東北地方南部以南）～九州（奄美大島）に分布。暖地の山地林下に生育する常緑性のシダ植物。オオキジノオに似るが、栄養葉の下部羽片は無柄かあってもごく短いこと、上部の羽片が中軸に流れて付く場合は上側が下側より広くつくこと等で区別される。県内では、北茨城市、高萩市、真弓山、御前山、常北町、仏頂山、佐白山、加波山、筑波山に産地が知られている。今回の調査では、鷲子山の沢沿いのスギ林下に小さな個体 1 株が生育しているのを確認した。

### (3) シノブ（シノブ科）

北海道（渡島）～琉球の山地に分布。太い根茎を横走し、樹木や岩上に着生する夏緑性のシダ植物。県内各地の山地に分布しているが、昔から観賞用に採集されており、生育個体数が減少している。調査地では、鷲子山神社のカヤの大木に着生していた。

### (4) コモチシダ（シシガシラ科）

本州（東北地方南部以南）～九州、琉球、小笠原に分布。常緑性のシダ植物で葉の表面に多くの無性芽が付くのでこの名がある。県内では、海岸付近に普通に見られるが、内陸部に入るほど少なくなり、県北内陸部では稀になる。今回の調査で、尺丈山と青麻山で生育を確認した。両産地とも、林道沿いの日当たりの良い崖の斜面に数個体ずつ生育していた。

### (5) キヨスミヒメワラビ（オシダ科）（図 2）

本州（宮城県南部）～九州に分布。山地のやや陰湿な林下に生じる常緑性のシダ植物。葉柄に鱗片を密生



図 2. キヨスミヒメワラビ。

するので他種と容易に区別される。県内では、笠間市、吾国山、鷺足山に生育が知られている。今回の調査では、青麻山の4カ所と鷺子山の1カ所で生育を確認した。いずれも陰湿なスギ林下であった。青麻山の1カ所ではやや多くの個体を見ることができた。県レベルでは、希少種に指定されている。

(6) ミヤマクマワラビ (オシダ科)

本州～九州に分布。温帯林の林床に生じる夏緑性のシダ植物。オシダに似るが、オシダでは側脈が分岐して2～3小脈となるのに対して、裂片の側脈が単生するので区別される。県内では、花園山、君田、三鈿室山、八溝山、袋田、男体山、大子町、竜神峡、加波山に産地が知られている。今回の調査で、青麻山の雑木林下に2株、スギ林下に1株生育しているのを確認した。

(7) オオクジャクシダ (オシダ科)

北海道～九州に分布。山地のやや湿った林下に生える常緑性のシダ植物。イワヘゴに似るが、胞子嚢群が羽片の辺縁よりに数対並んでつくこと、鱗片の色が赤褐色から褐色であること等で区別される。県内では、吾国山、水戸市の森林公園に生育が知られている。調査地では、青麻山のスギ林下の陰湿な場所に5株生育していた。県レベルでは、希少種に指定されている。

(8) タニヘゴ (オシダ科)

北海道～九州の明るい湿地に分布。全国的に稀な分布をする夏緑性のシダ植物。葉の形が、ややイワヘゴに似るが、葉は柔らかく草質、鱗片は少なく広卵形紙質でうす茶色、茎は直立すること等で区別される。県内では、花園山、高萩市、大子町、鷺足山、那珂市(旧瓜連町)、水戸市、加波山に産地が知られている。調査地では、尺丈山の林道沿いの雑木林下に1株生育していた。

(9) フモトシダ (コバノイシカグマ科)

本州(東北地方南部以南)～琉球に分布。やや乾いた山地の林床などに見られる常緑性のシダ植物。葉身は卵状披針形から卵形、長さ30～60cm、幅15～30cm、やや厚めの草質、黄緑色から暗緑色で単羽状である。県南ではやや普通であるが、県北では稀で、海岸に沿って北上する。今回の調査では、青麻山のスギ林下と尺丈山の雑木林下で生育を確認した。両産地とも狭い範囲に数株生育していた。

(10) コバノヒノキシダ (チャセンシダ科)

本州(東北地方南部以西)～九州に分布。向陽の山野や、路傍の岩上・石垣上に生育する常緑性のシダ植物。葉は2～3回羽状複生、葉に切れ込みが多く入る。葉の細いものはタチシノブに似るが、根茎が短く、葉を叢生するので区別できる。県内では、県北山地を中心にやや稀に生育している。調査地では、鷺子山の道路沿いの石垣に着生して生育していた。

(11) コゴメヤナギ (ヤナギ科)

本州(関東、中部、近畿)に分布。日当たりの良い湿地や川原に生える高木。葉は細長くて小さく、表面緑色光沢があり、裏面粉白色で細絹毛がある。県内では、加波山、鷺足山の湿地や久慈川・那珂川・鬼怒川の川原に生育している。調査地では、鷺子山と尺丈山に樹高3m程度のものが1株ずつ生育していた。

(12) ブナ (ブナ科)

北海道(渡島半島の黒松内・長万部以南)・本州・四国・九州に分布。温帯を代表する落葉高木。県内では、県北山地を中心に一定標高以上の山地に生育している。今回の調査では、鷺子山と尺丈山で生育を確認した。鷺子山では神社付近のスギ・モミ林内に生育していた。また神社西側、神社北側の雑木林内にも生育していた。いずれの場所でも大木になって生育しており、個体数も多い。また幼木の生育も見られた。尺丈山では、自生と思われるものが頂上に1個体生育していた。また、植えられた幼木が多数生育していた。

(13) エゾエノキ (ニレ科) (図3)

北海道～九州に分布。山地に生える落葉高木。葉は下部から鋸歯があり、果柄が長いのでエノキと区別される。県内では稀で、花園山、袋田、大子町、竜神峡に産地が知られている。調査地では、青麻山の麓を流れる熊久保川の川岸に大木が1個体生育していた。



図3. エゾエノキ。



## (14) ナガバヤブマオ (イラクサ科)

本州 (山形県・宮城県以南) ~ 琉球に分布。葉は対生、長さ 10 ~ 20 cm、卵状長楕円形で先は尾状に長く伸び細長くなるので近似種と容易に区別される。県内では、県北地区にやや稀に生育している。調査地では、尺丈山と青麻山の数ヶ所に生育していた。どの産地でも、林道沿いの日当たりの良い場所に群生して生育していた。

## (15) ヤマトキホコリ (イラクサ科)

北海道~九州に分布。山地の湿地に生える多年草。ウバミソウとは、葉は黄色みを帯び、鋸歯が低く、先が尾状にならないので区別される。また、トキホコリとは、茎にほとんど毛がなく、葉は乾くと黄褐色になるので区別される。県内では、土岳花貫溪谷、堅割山、大子町、高鈴山、常陸太田市、吾国山に産地が知られている。調査地では、青麻山の西側にある熊久保集落の神社に生育していた。

## (16) レンゲショウマ (キンポウゲ科)

本州 (岩手県~奈良県) の主として太平洋側の温帯に分布。落葉広葉樹の林床に生える多年草。茎は高さ 40 ~ 80 cm。根出葉と下部の茎葉は大形、2 ~ 4 回 3 出複葉で、小葉は卵形、長さ 4 ~ 8 cm、ときに 3 浅~中裂し、先は鋭く尖り、不ぞろいのあらく鋭い鋸歯がある。7 ~ 8 月に淡紫色の花を咲かせる。県内では、県北山地に稀に分布している。調査地では、鷲子山、尺丈山で生育を確認した。いずれの産地でも沢沿いの陰湿なスギ林下に生育していた。鷲子山では、群生して生育しており、生育個体数も多い。県レベルでは、希少種に指定されている。

## (17) ルイヨウボタン (メギ科)

北海道~九州の温帯林下に分布。落葉広葉樹の林床に生える。葉の形がボタンに似るところからこの名がある。県内では、県北山地を中心にやや稀に分布している。調査地では、鷲子山のスギ林下および雑木林下の陰湿な場所数カ所で、やや多くの個体を見ることが出来た。

## (18) ウ斯巴サイシン (ウマノスズクサ科)

本州~九州北部に分布。山地の林下の湿ったところに生える多年草。葉は薄く卵心形で長さ 5 ~ 8 cm、先は急にとがり、基部は深い心形。花は淡汚紅紫色。県内では、山地に稀に分布している。鷲子山では、沢

沿いの雑木林下の陰湿な場所に 100 個体ほど生育していた。近くにはカタクリの群落も見られた。

## (19) コウモリカズラ (ツヅラフジ科)

北海道~九州に分布。陽地に生える落葉性のつる性木本植物で、林縁や草地にソデ群落をつくって生育している。葉は腎円形、浅く 5 ~ 9 裂し、基部は浅い心形または切形。葉が特徴的な形をしているので、近似種と容易に区別できる。県内では、山地にやや稀に分布している。調査地では、青麻山の麓を流れる熊久保川の川原と青麻山の林道沿いの林縁との 2 カ所で生育を確認した。県レベルでは、希少種に指定されている。

## (20) ナツツバキ (ツバキ科)

本州 (福島県・新潟県以西) ~ 九州 (高隈山まで) に分布。高さ 15 m になる落葉高木で初夏に白色の花を咲かせる。県内では、県北山地にやや稀に分布している。調査地では、鷲子山神社西側の雑木林内に幼木が数個体生育していた。

## (21) ジロボウエンゴサク (ケシ科)

本州 (関東地方以西) ~ 九州に分布。川岸などの低地の草原に生える小型で繊細な多年草。ヤマエンゴサクとは、塊茎から数個の花茎が出ること、花茎の最下葉は鱗片に退化しないこと等で区別される。県内では、やや稀な分布をしている。調査地では、鷲子山のやや湿った草地に群生していた。

## (22) ムカゴネコノメ (ユキノシタ科)

本州 (関東地方・東海地方) に分布。谷沿いの樹林下に生える。地中に長さ 1 cm 程度の紡錘形赤色の球芽を持つのでこの名がある。県内では、山地の陰湿な場所にやや普通に分布するが、各産地とも生育個体数は少ない。調査地では、青麻山の沢沿いの陰湿なスギ林下に生育していた。国レベルでは、準絶滅危惧に分類されている。

## (23) オオウラジロノキ (バラ科)

本州に分布。山地にやや稀に生える落葉高木。葉は互生、卵形または楕円形、鋭頭、基部は円形または微心形、重鈍鋸歯またはふぞろいな鋸歯がある。表面ははじめ微毛があり、裏面は白色で綿毛を密生する。県内では、主に県北山地に稀に生育している。調査地では、鷲子山神社西側の雑木林内に 2 個体生育していた。

(24) ツルキンバイ (バラ科)

本州 (関東地方以西) ~九州に分布。山地の落葉樹林下に生育し、まばらに毛が生えた多年草。葉は3個の小葉からなり、小葉は菱状卵形でとがり、長さ1.5~4 cm。根茎が太くならない、塊状にならない等の点で、ミツバツチグリと区別される。県内では、山地にやや稀に分布している。調査地では、鷲子山、尺丈山、青麻山の林道沿いの林縁に生育しているのを確認した。

(25) ミヤマフユイチゴ (バラ科)

本州 (関東地方以西) ~九州に分布。照葉樹林域の林内に生える常緑のつる性低木で、太平洋側では福島県いわき市南部を北限地とする。葉は卵形から広卵形で急鋭尖頭。県南山地ではやや普通に分布するが、県北ではやや稀で、海岸に沿って北上している。調査地では、尺丈山の林道沿いのスギ林下と、青麻山の薄暗いスギ林下に生育していた。両産地とも、生育個体数は少なかった。

(26) ヒナウチワカエデ (カエデ科)

本州 (福島県南部以南) ~九州に分布。県内では、県北の花園山、高萩市君田、三鉛室山、八溝山、花瓶山に記録がある。調査地では、鷲子山と尺丈山のやや乾燥した尾根沿いに生育していた。やや多くの個体を見ることができた。

(27) イイギリ (イイギリ科)

本州~琉球に分布。山地に生育する落葉高木。葉は互生、葉身は卵心形または三角状心形で、鋭尖頭、基部は浅い心形または切形、長さ10~20 cm、幅8~20 cm、ややまばらに鋸歯があり、掌状に5~7脈がある。葉柄は長さ6~18 cm。県内では、県北山地にやや稀に分布している。調査地では、鷲子山の雑木林内数カ所に生育していた。

(28) コミヤマスミレ (スミレ科)

本州 (関東地方以西) ~九州に分布。山地の林下に生える。県内では、県北山地と加波山にやや稀に生育している。今回の調査では、鷲子山と青麻山に生育しているのを確認した。いずれの産地でも、沢沿いのスギ林下の陰湿な場所に生育していた。両産地とも生育個体数は多い。

(29) ヒメミソハギ (ミソハギ科)

本州~琉球に分布。水田や湿地に生える1年草。茎はよく分岐し高さ10~30 cm。葉は対生し、ほとんど柄がなく広線形から披針状長楕円形、基部はやや耳状となって茎を抱く。花期は9~11月。県内の分布はやや稀で、今回の調査では、鷲子山と青麻山の麓の水田に生育しているのを確認した。県レベルでは、希少種に指定されている。

(30) タニミツバ (セリ科)

北海道、本州中部以北に分布。山林下の水辺に生える無毛の多年草。小葉は卵形~卵状長楕円形で、細かい鋸歯があり、薄くて、長さ3~10 cm、幅は1~4 cm。花序の花柄は少なく細い。花は白色で8月頃開く。県内では、県北山地にやや稀に分布している。調査地では、尺丈山のスギ林下の沢沿いの陰湿な湿地に生育していた。

(31) イワウチワ (イワウメ科)

本州 (東北地方~中国地方東部) に分布。岩場の林床に生育する常緑の多年草。葉は円形から広楕円形で光沢がある。花期は4月、ピンク色の可憐な花を咲かせる。県内では、県中央部から北部山地にかけての湿気のある急な斜面に生育している。調査地では、鷲子山、青麻山、尺丈山に生育していた。鷲子山では、神社付近のスギ・モミ林下の斜面に広範囲にわたって群生しており、他の数カ所でも大きな群落をつくって生育していた。青麻山でも、尾根沿いの斜面数カ所に大きな群落をつくって生育していた。白色から濃いピンク色までさまざまな花色のものが見られた。鷲子山・青麻山とも生育個体数が多く、生育状況は良い。尺丈山では、尾根の一部に見られた。県レベルでは、危急種に指定されている。

(32) レンゲツツジ (ツツジ科)

北海道 (西南部) ~九州に分布。日当たりの良い高原や湿原に生える落葉低木。花は朱橙色または鮮黄色。花期は5~6月でヤマツツジに比べて遅い。かつては県内の山野に普通に生育していたが、最近では生育地が減少している。調査地では、鷲子山の尾根沿いのやや乾燥した草原に生育していた。

(33) ゴヨウツツジ (ツツジ科)

本州 (岩手県以南の太平洋側)・四国に分布。深山の岩の多い林縁に生える。葉は枝先に5枚輪生し、アカヤシオに似るが、花が白色なので、花期には容易に

区別できる。県内では、県北山地に生育している。調査地では、鷲子山の神社西側の雑木林下に幼木が数株生育していた。

(34) トウゴクミツバツツジ (ツツジ科)

本州（山形県東部、宮城県以南～近畿地方）の太平洋側に分布。山地に生える落葉低木で、葉は枝先に3枚が輪生する。花期は4～5月で、花は紅紫色。県内では、北部山地から筑波山まで標高の高いところに点在して分布する。調査地では、鷲子山と青麻山の頂上付近の雑木林内に生育していた。

(35) ミヤマタゴボウ・ギンレイカ (サクラソウ科)

本州～九州に分布。山地の湿り気のある場所に生える多年草。葉は互生し、広披針形または狭卵形で先は尖り下部は次第に狭まり翼のある柄となる。葉の裏面には赤褐色の腺点が散らばる。6～7月枝先に総状花序を伸ばし、まばらに赤みを帯びた白色の花を10～30個つける。県内各地に生育記録があるが、生育個体数は少ない。調査地では、尺丈山の林道の草地に生育していた。

(36) サワリソウ (ムラサキ科)

本州（関東地方）～九州の太平洋側に分布。山地の木陰に生える多年草。葉は長楕円形、基部は細くなって茎に続き無柄。花は5～6月頃に開き筒状鐘形、青紫色。県内では、男体山、大子町、鷲子山、仏頂山、加波山に分布が知られている。今回の調査で、鷲子山神社の沢沿いに数個体生育しているのを確認した。県レベルでは、希少種に指定されている。

(37) ミヤマナミキ (シソ科)

本州（関東地方以西）～九州に分布。山地の木陰に生える多年草。葉は1.5～2.5 cmの葉柄があり、広卵状三角形で薄く、長さ2～3 cm、幅1.5～2.5 cmで先は尖り、縁には数個の深い鋸歯があつて、基部は切形または広いくさび形。県内では、県北山地を中心にやや稀に分布する。調査地では、鷲子山の雑木林下に生育していた。生育個体数は少ない。

(38) マルバノホロシ (ナス科)

本州（関東以西）～九州に分布。山地の林縁に生える多年草。花喉部が淡緑色を帯びている点で他の種と異なる。また、葉が長楕円形または狭卵形で先が細くとがり、基部がくさび形になり、切れ込みが入らず全

縁であることでヤマホロシと区別される。県内では、加波山、日立市に産地が知られている。調査地では、鷲子山の林道の林縁と青麻山のスギ林下に生育していた。

(39) ハグロソウ (キツネノマゴ科)

本州（東北地方南部以西）～九州に分布。山地の木陰に生える多年草。9月から10月にかけて淡紅紫色で唇形の花を咲かせる。上唇は中心に黄色い斑があり、周囲を紅紫色斑紋が取り巻いている。下唇には紅紫色の斑点がある。葉が暗緑色をしており、乾くと黒色になるところから葉黒草の名が付いている。県内の山地に生育しているが、生育個体数は多くない。調査地では、鷲子山と青麻山の陰湿なスギ林下に生育していた。

(40) フクシマシャジン (キキョウ科)

本州中北部に分布。山地のやや乾いた斜面に生える多年草。全体がツリガネニンジに似るが、花序はまばらな円錐状で、枝は張り出し、花冠の先が広がりぎみになり、萼裂片は披針形（幅広）で全縁になるので区別される。県内では、県北山地に稀に分布している。調査地では、鷲子山の尾根沿いの乾燥した雑木林下に2個体生育していた。県レベルでは、希少種に指定されている。

(41) キキョウ (キキョウ科) (図4)

北海道～九州に分布。山地の草地に生える多年草。花期は8～9月。花冠は広鐘形で青紫色。かつて山林の手入れが行き届いていた頃には県内各地で普通に見られたが、今ではほとんど見られなくなってしまった。今回の調査で、青麻山の頂上にオミナエシヤススキに混じって数個体生育しているのを確認した。県レベルでは、危急種に指定されている。



図4. キキョウ。



(42) イワヨモギ (キク科) (図5)

北海道に分布。山中や海岸の岩場に生える半低木。形態の似た種がないのでヨモギ属の他種とは容易に区別される。県内では日立市、真弓山に産地が知られている。今回の調査では、鷲子山と尺丈山の2カ所で生育を確認したが、いずれの産地も林道沿いの切り崩された真新しい崖の斜面であり、緑化に使用された種子散布と思われる。国レベルでは、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。



図5. イワヨモギ。

(43) アキノハハコグサ (キク科)

本州～九州に分布。やや乾いた山地に生える1年草。ハハコグサに似るがアキノハハコグサでは、花期が9～11月になること、茎が枝分かれし、葉が茎を抱くこと等で区別される。全国的に産地が減少している植物の一つで、調査地では、鷲子山と尺丈山の林道沿いの乾燥した南向きの斜面に生育していた。国レベルでは、絶滅危惧ⅠB類に指定されている。

(44) オヤリハグマ (キク科)

本州(山形県～茨城県)に分布。山地の乾いた木陰に生える多年草。葉は長柄があり、葉身は3浅裂するので近似種と容易に区別される。県内では、県北の山地に生育している。調査地では、鷲子山、尺丈山、青麻山のいずれの地域でも一定の標高以上のところにカシワバハグマなどとともに生育していた。どの地域でも個体数が多く、やや普通に生育している。県レベルでは、希少種に指定されている。

(45) センダイトウヒレン (キク科)

本州(関東地方北部～東北地方)に分布。山地林下に生える多年草。茎は高さ50～100cm、無翼か少し狭い翼がある。根出葉は開花時に枯れないで残り、卵形で長柄がある。アサマヒゴタイに似るが、茎が太く、

総ほうにくも毛があるので区別される。県内では、県北山地のブナ帯の林床に生育している。調査地では、鷲子山の林道わきの落葉樹林下に生育していた。県レベルでは、希少種に指定されている。

(46) サワギク (キク科)

北海道～九州に分布。山地の木陰に生える柔らかい多年草。茎葉は薄くて羽状に深裂する。花は6～8月。県内では稀で、三鈷室山、八溝山、花瓶山、堅割山に産地が知られている。調査地では、青麻山の2カ所と尺丈山の1カ所での生育を確認した。いずれの産地も沢沿いの陰湿なスギ林下であった。

(47) アマナ (ユリ科) (図6)

本州(福島県以南・石川県以西)～九州に分布。日当たりのよい原野に生える多年草。花は3～5月。県内では、北茨城市、三鈷室山、大子町、緒川村、日立市、下妻市、水海道市に産地が知られている。調査地では、尺丈山登山口の路傍に生育していた。県レベルでは、希少種に指定されている。



図6. アマナ。

(48) ササクサ (イネ科) (図7)

本州(関東以西)～琉球に分布。暖地の山林下に生



図7. ササクサ。

える多年草。ササの葉に似た大きな葉をつけるところからこの名がある。県内では、やや稀な分布をしており、県北部では海岸線に沿って北上し、北茨城市華川は分布の北限地に近い。調査地では、青麻山の雑木林下数カ所で生育を確認した。やや多くの個体を見ることができた。県レベルでは、希少種に指定されている。

(49) イヌアワ (イネ科)

本州(山形県および関東以西)～九州に分布。藪などに生える多年草。花は8～10月。花序は長さ15～30 cm, 狭披針形で枝は短く斜開する。花序が特徴的なので、他種と区別しやすい。県内では、やや稀な分布をしている。調査地では、鷲子山と青麻山の林道わきの草地に生育していた。

(50) ミコシガヤ (カヤツリグサ科)

本州(近畿以北)に分布。平地や河川の縁などの草地に生える多年草。花序の形が祭礼の神輿に似るのでこの名がある。県内では、小貝川、利根川周辺に多く見られるが、県北では産地が知られていない。調査地では、尺丈山の林道の草地に生育していた。

(51) マツバスケ (カヤツリグサ科)

本州～九州に分布。人里に近い水田の畦や河畔の湿地等に生育している多年草。桿は叢生し、鈍稜があって平滑。4～6月桿頂に小穂を単生する。かつては、県内の水湿地に普通に見られたが、圃場整備等で生育地が減少している。調査地では、鷲子山麓の水田脇の水路に生育していた。栃木県では、準絶滅危惧(Cランク)に指定されている。

(52) ユウシュンラン (ラン科)

北海道～九州に分布。落葉樹林のやや湿った腐葉の間に生える多年草。ギンランの変種で、ギンランに比べて植物体が小形で葉が退化している。県内では、男体山、西金砂山、仏頂山、筑波山に産地がある。調査地では、鷲子山の尾根の雑木林下に数株生育していた。国レベルでは、絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、県レベルでは、危急種に指定されている。

(53) ムヨウラン (ラン科)

本州(東北地方南部以南)～九州に分布。常緑広葉樹林下に生える腐生植物。茎の色は花期に黄褐色。5～6月に淡黄色～黄色の花を咲かせる。県内では、大子町、真弓山、西金砂山、常北町、仏頂山、佐白山、

筑波山に産地が知られている。調査地では、鷲子山神社西側の雑木林下にイワウチワなどととも10数個体生育していた。県レベルでは、危急種に指定されている。

(54) ジガバチソウ (ラン科)

北海道～九州に分布。山地樹林下に生え偽球茎をもつ多年草。葉はクモキリソウに似るが、より小さくて網目模様が見られる。5～7月に暗紫色の小さな花をつける。県内では、山地にやや稀に分布している。調査地では、鷲子山の林道沿いの雑木林下やアカマツ林下の数カ所に生育していたが、どの生育地でも個体数は少なかった。

(55) カヤラン (ラン科) (図8)

本州(岩手県以南)～九州に分布。樹幹上に着生する。和名は、葉がカヤの葉に似るところからきている。県内各地にやや稀に分布している。今回の調査では、鷲子山と青麻山で生育を確認した。いずれの産地でも、スギやサクラの小枝に着生して生育していた。生育個体数もやや多く、青麻山では、大風が吹いた後にスギの小枝ごと落ちている個体を見ることができた。



図8. カヤラン。

(56) ヒトツボクロ (ラン科)

本州～九州に分布。アカマツ林のような明るい林床に生える。葉は1枚で、卵状楕円形、鋭尖頭、表面は光沢のある深緑色で裏面は紫色。5～6月、黄緑色の小さな花を5～10個まばらに付ける。県内では、やや稀に分布している。調査地では、鷲子山のアカマツ林下に10数個体、雑木林下に3個体生育しているのを確認した。県レベルでは、希少種に指定されている。

引用文献

- 茨城県環境保全課, 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物〈植物編〉. 253 pp., 茨城県環境保全課.
- 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌 399 pp., 茨城県植物誌刊行会.

参考文献

- 岩槻邦男編. 1992. 日本の野生植物シダ. 311 pp., 平凡社.
- 北村四郎・村田 源・堀 勝. 1957. 原色日本植物図鑑草本編〔I〕 合弁花類. 299 pp., 保育社.
- 北村四郎・村田 源. 1961. 原色日本植物図鑑草本編〔II〕 離弁花類. 390 pp., 保育社.
- 北村四郎・村田 源・小山鐵夫. 1964. 原色日本植物図鑑草本編〔III〕 単子葉類. 464 pp., 保育社.
- 長田武正. 1989. 日本イネ科植物図鑑. 759 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1981. 日本の野生植物草本編Ⅲ. 259 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物草本編Ⅱ. 318 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物草本編Ⅰ. 305 pp.,

平凡社.

- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1989. 日本の野生植物木本編Ⅰ. 321 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1989. 日本の野生植物木本編Ⅱ. 305 pp., 平凡社.
- 栃木県林務部自然環境課・栃木県博物館 (編). 2005. レッドデータブックとちぎー栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生生物ー. 898 pp., 栃木県林務部自然環境課.
- 吉川純幹. 1957. 日本スゲ属植物図譜第壹巻. pp.1-141, 北陸の植物の会.
- 吉川純幹. 1958. 日本スゲ属植物図譜第貳巻. pp.142-281, 北陸の植物の会.
- 吉川純幹. 1960. 日本スゲ属植物図譜第参巻. pp.282-421, 北陸の植物の会.

調査研究

- 鈴木昌友 (茨城大学名誉教授 理学博士)
- 成島 明 (茨城県立土浦第三高等学校教諭)
- 丸山友一 (茨城町立駒場小学校長)
- 安嶋 隆 (茨城県立日立第二高等学校教諭)

執筆

- 成島 明 (茨城県立土浦第三高等学校教諭)
- 丸山友一 (茨城町立駒場小学校長)



## 花瓶山の維管束植物

### はじめに

花瓶山は八溝山の南に位置し山頂は標高 689 m で尾根づたいに八溝山につながっている。山頂の北東部に自然環境保全地域があり、ブナ・カエデを中心とする林が残っている。純粹に自然の状態が保たれているのはこの地域だけである。周辺には、広範囲にスギ林が広がっている。成長したスギ林は、伐採され木材として利用されている。伐採の後には、主にヒノキが植林されている。

登山道は、小田貝より沢に沿って登っていくコースと佐貫より入るコースとがある。いずれも林業の作業をする人の他はあまり山に入る人は見かけられない。

小田貝からのコースは、伐採作業のため新たな林道ができたり、しばらく使わない林道が多く見られる。人家がなくなるあたりに登山道入り口とあるが、ほとんど人が入らないため林道を登るほうが歩きやすい。スギ林の中を沢に沿って林道を歩くとウツギ、ヤマブキ、タマアジサイ、イタヤカエデ、チドリノキ、オオバアサガラなどが多く見られる。林道をしばらく歩くと自然環境保全地域に入る。ここからは道らしい道はなくなり急な斜面を登ることになる。この地域はブナを中心とする落葉樹林でブナ、ナツツバキ、ミヤマヤシャブシ、イヌブナ、ミズナラなどの大木が見られる。尾根付近では、亜高木のゴヨウツツジ、トウゴクミツバツツジが咲き見事である。草本層には、イワウチワが多く一面に咲き誇る。

佐貫からのコースは、沢沿いに進むと両側に大きなスギ林のなかを過ぎて、山頂の尾根筋付近まで車で行くことができる。しかし、途中で営林署の鎖があるため、一般の車は入れない。このスギ林は、大変良く管理されており、林内まで明るく下草や低木が繁茂していた。このコースは、南側にあたり有用な山林として活用され、伐採と植林が繰り返し行われている。尾根付近には様々の落葉樹（カツラ、カエデ、トチノキ、ブナなど）が植えられているが、まだ小さく手入れなしでは他の草や雑木に負けそうな状態である。途中で、東側に大きな林道が山奥まで入り、車で入ることができる。植林のスギの他、尾根筋や谷筋に落葉樹やモミがわずかに残っている。

### 調査方法

#### 1. 調査地の選定

調査地は花瓶山を対象とし、東部は入り口の小田貝より山頂にかけて、南部は佐貫の入り口より山頂にかけて西部は県境までとした。なお、頂上の北につながる栃木県の一部が含まれる。

### 2. 調査期間

#### (1) 平成 15 (2003) 年度

平成 15 年度は 6 月～9 月に延べ 7 回行った。

6 月 7日

30日

7 月 12日

8 月 4日

10日

9 月 30日

10 月 1日

#### (2) 平成 16 (2004) 年度

平成 16 年度は 4 月～9 月に延べ 9 回行った。

4 月 10日

5 月 1日

29日

31日

6 月 19日

7 月 17日

8 月 4日

28日

9 月 20日

#### (3) 平成 17 (2005) 年度

平成 17 年度は 4 月～10 月に延べ 7 回行った

4 月 9日

5 月 14日

6 月 8日

18日

7 月 13日

9 月 3日

10 月 2日

### 3. 調査項目

維管束植物（シダ植物、種子植物）を対象として、植物相と植生の調査を行った。調査項目は次のとおりである。

(1) 調査地に生育する全植物の確認と記録

(2) 調査地の植生の概要

(3) 生育する植物の採集と標本の作成（原則として

## 植 物

花・実がついている個体を採集，1種の植物につき2～4点作成)

採集・確認目録は付表1に示した。なお，付表1に示した種数は次のとおりである。

・確認種 594種

### (4) 写真の撮影

## 結 果

### 1. 植生の概要

#### (1) プナ・ミズナラ林

自然環境保全地域に指定されている地域は，特別地区と普通地区があり，特別地区は国有地で11.85 haを占め，かなり自然の状態が良好である。特に大木が目立ち訪れるたびに老木が倒れるなど世代交代もうまくできているように見受けられる。普通地区は私有地で13.59 haを占め，山頂の尾根の北側に位置している。ここでは，尾根付近の南側が伐採されたために風の影響によると思われる倒木が多く見られた。

高木層にブナ，ミズナラ，ミヤマヤシャブシ，ナツツバキ，モミ，イヌシデ，リョウブ，オオバマンサク，アサダ，ミズメ，アズキナシ，ハウチワカエデ，ヒトツバカエデ，コハウチワカエデ，アオハダ，ウリハダカエデ，ヤマザクラ，オオウラジロノキ，アカシデなど多くの種類が観察された。また，谷近くではイヌブナ，イタヤカエデ，チドリノキ，トチノキが見られた。主な大木の胸高直径は，ブナ(約95, 85, 70, 65, 60, 60, 45 cm)，イヌブナ(約60, 50, 50, 45, 45 cm)，ミヤマヤシャブシ(約70, 55 cm)，ミズナラ(約50, 40 cm)，イタヤカエデ(約105 cm)，アカシデ(約45 cm)，アサダ(約40 cm)，ナツツバキ(約55 cm)である。亜高木層にゴヨウツツジ，ネジキ，トウゴクミツバツツジ，アブラツツジ，シラキ，タカノツメ，コミネカエデ，ヤマウルシ，バイカツツジ，モミ，コハウチワカエデ，アオハダなど，低木層はスズダケが生育する場所では完全な優占種で一面を覆っているが，スズダケが見られない場所では，コアジサイ，モミ，ヒトツバカエデ，コミネカエデ，タカノツメ，ツリバナなどが見られた。草本層はイワウチワが優占し春に一面に咲いて見事である。ユキザサ，オヤリハグマ，ギンリョウソウ，ミヤマナルコユリ，チゴユリ，ツクバネソウ，カタクリ，センダイトウヒレン，イチヤクソウ，ツルリンドウ，タガネソウ，オクモミジハグマ，アケボノスミレなど，また，谷沿いではニリンソウ，フタバアオイ，ハナネコノメ，ツルネコノメソウ，カメバヒキオコシ，ウバユリ，クワガタソウなどが見

られた。林縁にはソバナ，フクオウソウ，ツルキンバイなどが見られ，ヤワタソウは，2カ所に生育し，10数個体は花が咲いており，それぞれ結実も確認した。

#### (2) スギ林

スギ林は，この地域で最も広い面積を占め，沢沿いに豊かなスギ林が広がっている。山頂より南西部の山林が伐採されている所が多く見受けられた。

スギ林は，場所によって下草がほとんど見られないほど，林床が薄暗い林もあった。次にあげる植生は，比較的林内の明るい林のものである。

高木層はスギで，亜高木層はなく，低木層にヤマアジサイ，タマアジサイ，ヤマウルシ，オオバアサガラ，ヤマブキ，カラスザンショウ，リョウブ，コアジサイ，モミジイチゴ，コクサギなど，草本層にはオシダ，ツヤナシイノデ，イワガネゼンマイ，ホソバナライシダ，ナツノハナワラビ，クラマゴケ，マツカゼソウ，トチバニンジン，コバギボウシ，タチシオデ，ミミガタテンナンショウ，ニリンソウ，キクザキイチゲ，ヒゴクサなどが見られた。小田貝コースの林床にはレンゲショウマの群生が見られた。

沢沿いに，サワギク，マルバコンロンソウ，ミヤマキケマン，トンボソウ，ユリワサビ，シロバナエンレイソウ，コチャルメルソウ，カメバヒキオコシ，タマブキ，シラネセンキュウなどが見られた。また，頭上のスギの枝にカヤランが着生していた。ワサビは，沢の上部に数カ所で見られ，なかには群生している場所もあった。食べられるほど大きく成長してる個体もあった。

林縁の比較的明るい場所には，ミツモトソウ，ナガミノツルキケマン，ヤマハタザオ，タチゲヒメヘビイチゴ，ヤマエンゴサク，ジロボウエンゴサクなどが見られた。

### 2. 注目すべき植物

・絶滅危惧植物(国レベルの絶滅危惧植物)(図1)

#### (1) ナガミノツルキケマン(ケシ科)準絶滅危惧種

明るいスギ林の林床や林縁に群生し，一面に黄色の花を咲かせ見事である。

・茨城県の絶滅危惧植物(国レベルの種を除く)

#### (2) ノギラン(ユリ科)茨城県：希少種

佐貫コースの比較的乾燥している林縁に生育していた。個体数は少なかった。



図 1. ナガミノツルキケマン.



図 2. イウウチワ.

- (3) イウウチワ (イウウメ科) 茨城県：危急種  
(図 2)

ブナ林の林床に一面に見られ、4月の花の時期は見応えがある。花がほとんどが桃色であるが、中に白い花弁の個体も確認した。

- (4) レンゲショウマ (キンポウゲ科) 茨城県：希少種  
(図 3)

佐貫コースの林縁に数カ所見られた。また、小田貝コースのスギ林の中では、約 10 m にわたって带状に純群落が見られ、多くの個体が花を咲かせ、結実していた。



図 3. レンゲショウマ.

- (5) ヤワタソウ (ユキノシタ科) 茨城県：危急種  
(図 4)

落葉樹林の林縁で2カ所で生育しているのを確認した。毎年、10数個体が花を咲かせ、結実していた。他方の生育地は周囲のクマイチゴやモミジイチゴなどがはびこるとこのまま生育できるか心配である。



図 4. ヤワタソウ.

- (6) オヤリハグマ (キク科) 茨城県：希少種 (図 5)  
ブナ林の林床に多数生育し、白い花を咲かせていた。比較的個体数は多く見られた。

- (7) ササクサ (イネ科) 茨城県：希少種

スギ林の林縁の湿った場所に生育していた。個体数は少ない。

他に、ミヤマシダ、チャボイノデ、シノブカグマ、イワネコノメ、ナンキンナナカマド、ミヤマムグラなども確認できた。





図5. オヤリハグマ.

・その他の植物

(8) カヤラン (ラン科) 茨城県：稀産種  
いくつかの沢沿いのスギの枝に団子状に着生していた。

(9) ワサビ (アブラナ科) (図6)  
スギ林の沢の上部で生育しているのが数カ所で確認した。なかには大きな群落をつくり、根は食べられる程に肥厚していたものもあった。しかし、大部分はやせていた。



図6. ワサビ.

(10) コミネカエデ (カエデ科)  
大きな樹木は見あたらなかったが、ブナ林には、多く見られた。

(11) オオウラジロノキ (バラ科) (図7)  
自然環境保全地域の特別地域のブナ林の尾根に2本、中腹に2本、最も大きなもので胸高直径80 cm、他の3本も30 cmもある大木である。芽が出る時期は、

葉はビロード状の毛で覆われ真っ白である。遠くから見ると木全体が真っ白になる。4本の木はいずれも花を咲かせ、種子をつけているのを確認した。



図7. オオウラジロノキ.

(12) オオガンクビソウ (キク科)  
沢の上部に他の植物に混じって生育しているのを確認した。個体数は多くない。

#### 参考文献

- 茨城県環境保全課. 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>. 253 pp., 茨城県環境保全課.
- 茨城県環境管理課. 1990. 茨城の自然環境保全地域 平成元年度. 169 pp., 茨城県環境管理課.
- 北村四郎・村田 源・堀 勝. 1957. 原色日本植物図鑑草本編 [I] 合弁花類. 297 pp., 保育社.
- 北村四郎・村田 源. 1961. 原色日本植物図鑑草本編 [II] 離弁花類. 390 pp., 保育社.
- 北村四郎・村田 源・小山徹夫. 1964. 原色日本植物図鑑草本編 [III] 単子葉類. 464 pp., 保育社.
- ミュージアムパーク茨城県自然博物館. 2004. 茨城県自然博物館第3次総合調査報告書. 490 pp., ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- ミュージアムパーク茨城県自然博物館植物研究室. 2000. 茨城県自然博物館収蔵品目録 植物標本目録 第1集 鈴木昌友コレクション：維管束植物. 766 pp., ミュージアムパーク茨城県自然博物館
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1981. 日本の野生植物草本Ⅲ. 259 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物草本Ⅱ. 318 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠

- 夫(編). 1982. 日本の野生植物草本Ⅰ. 305 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫(編). 1989. 日本の野生植物木本Ⅰ. 321 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫(編). 1989. 日本の野生植物木本Ⅱ. 305 pp., 平凡社.
- 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 茨城県植物誌刊行会.

**調査研究**

- 鈴木昌友(茨城大学名誉教授 理学博士)
- 安 昌美(元茨城県高等学校教育研究会生物部長)
- 岩波順子(大洗町立南中学校教諭)
- 茂垣はるえ(茨城県立那珂高等学校教諭)

**執筆**

- 茂垣はるえ(茨城県立那珂高等学校教諭)

## 八溝山と周辺地域の維管束植物

### はじめに

八溝山は、茨城県の北部にあり、栃木県および福島県との3県の境界に位置し、標高1,022 mの山で、茨城県では最高峰である。また、主として茨城県と栃木県の県境から筑波山まで伸びる、八溝山地の最高峰でもある。八溝山地は北から八溝山塊・鷲子山塊・鶏足山塊および筑波山塊に区分され、八溝山は八溝山塊に含まれる。

八溝山一帯には現在はスギ、ヒノキの植林地が広く見られるが、古くは地形や気候的に、温帯林の発達していた区域で、現在山頂付近に残されているブナ、ミズナラやコナラなどの落葉広葉樹林が広がっていたと思われる。沢沿いにはイヌブナ、サワグルミやトチノキなどが今も残っている。

植物の分布では本地域はハリモミ、ツガなどの北限地、コアジサイ、ダンコウバイなどのように八溝山より少し北部まで分布域のあるもの、クルマバハグマのように日本海側に分布の中心があるものが分布を広げてきたと思われるもの、ダケカンバのように亜高山帯に多く、八溝山より標高の高い所が生育の中心地であるものなどが生育している。この地域は南から北上する植物の阿武隈山地への移動、逆に南下する植物の移動路など、分布域の変動などを考える上でも興味ある所である。

八溝山の植物相の調査は県内では筑波山や花園山と比べて遅れており、鈴木昌友(1966)が最初と思われる、その後断片的な報告はあるが、まとまったものは無かった。

栃木県では比較的新しく、栃木県立博物館の研究報告(1988, 1989)にまとめられている。

### 調査方法

#### 1. 調査地の選定

調査地域としては八溝山頂域を中心に、茨城県久慈郡大子町上野宮域が主で、一部南部の下野宮域も調査した。ルートおよび地点としては、県内では蛇穴から山頂へのルート、日輪寺から山頂ルート、腐沢、蛇穴新田の奥の沢、かぶれ石沢、大久保沢、中郷、唐竹久保・大神宮から高笹山頂途中、下野宮広石根、花瓶山北部地域などである。

福島県域では矢祭町茗荷沢、入山沢ルート、山頂裏の林道などである。

### 2. 調査期間

#### (1) 平成15(2003)年度

- 6月 9日 久慈郡大子町上野宮腐沢林道
- 8月 4日 久慈郡大子町上野宮かぶれ石沢
- 27日 久慈郡大子町上野宮八溝山日輪寺ルート
- 10月17日 大子町下野宮広根石・上野宮唐竹久保

#### (2) 平成16(2004)年度

- 5月 7日 久慈郡大子町上野宮 八溝山山頂周辺
- 31日 久慈郡大子町上野宮荒川沢
- 8月 4日 久慈郡大子町上野宮 磯神から腐沢
- 9月10日 福島県矢祭町茗荷沢高笹林道・真名畑林道・八溝山頂付近
- 20日 久慈郡大子町上野宮大久保沢・高笹山
- 10月15日 久慈郡大子町上野宮 蛇穴新田・町付付近

#### (3) 平成17(2005)年度

- 5月16日 久慈郡大子町上野宮大神宮山・高笹山
- 11月30日 八溝山蛇穴ルート

### 3. 調査項目

維管束植物(シダ植物, 種子植物)を対象として、植物相と植生の概要の調査を行った。調査項目は次のとおりである。

- (1) 調査地に生育する全植物の確認と記録
- (2) 調査地の植生の概要
- (3) 生育する植物の採集と標本の作成(原則として花・実が付いている個体を採集, 1種の植物につき2~4点作成)。採集・確認目録は付表1に示した。なお、付表1に示した種数は次の通りである。
  - ・確認種 802種
- (4) 写真の撮影(採集した主な植物とその生育状況がわかる写真)。

### 結 果

#### 1. 植生の概況

(1) 落葉広葉樹林  
落葉広葉樹林は山頂部を中心に登山道沿いなどにある。

#### ・ブナ林(図1)

ブナ林は山頂を中心に残されており、茨城県域では日輪寺から山頂への山道沿いに大きなブナを含む林がある。



高木層にはブナ、ミズナラ、コシアブラ、イヌブナ、ホオノキなどがあり、ブナとミズナラが目立つ。亜高木層にはコシアブラ、オオモミジ、リョウブ、ヤマボウシ、ヒトツバカエデ、クマシデ、ウリハダカエデ、アオハダなどがある。低木層にはコアジサイやリョウブが目立ち、他にヤマツツジ、コゴメウツギ、オオミヤマガズミ、オオカメノキ、ハウチワカエデ、ゴヨウツツジ、ベニバナツクバネウツギ、アカシデなどがある。草本層にはビッチュウミヤコザサなどミヤコザサ類の笹が繁茂するが、笹の少ない所にはカタクリ、ツルキンバイが春に目立つ、他にアキノキリンソウ、オクモミジハグマ、オヤリハグマ、アズマスケ、ヒナスゲ、ミヤマカラマツ、タガネソウ、ツクバネソウ、ヒゲネワチガイソウ、フモトスミレ、キバナアキギリ、ユキザサなども見られる。なおブナにはヤドリギが寄生し、ヒメノキシノブが着生していることもある。ミヤマノキシノブの着生はまれである。オオイタヤメイゲツやサラサドウダンなどは限られた林分でしか出現しない。

蛇穴からの登山道の途中にもヒノキ林に接して面積は狭いがブナの目立つ林がある。ここには大木はなく、胸高直径 30 cm くらいの比較的若い林である。この林の成立はよくは分からないが、周囲からの種子の供給によりブナ林が再生したものならば注目すべきと思われる。林下に笹はなく、サナギスケ、オカスミレ、ツクバキンモンソウなども生育している。



図 1. ブナ林。

#### ・ 溪谷林

溪谷の林は一度伐採され、周囲にスギ、ヒノキが植林され、沢筋に狭く植林されないで残った感じの部分の林である。各地の沢沿いに見られる。

高木層にサワグルミ、ケヤキやオニイタヤが残り、亜高木層にオニイタヤ、エゴノキ、オオバアサガラ、フサザクラ、チドリノキが見られる。低木層にはアブ

ラチャン、ハナイカダ、ミツバウツギ、タマアジサイ、アワブキ、ヤマアジサイも見られる。草本層は季節により目立つ植物は異なり、春ではヨゴレネコノメ、コチャルメルソウ、ニリンソウ、ミヤマハコベ、アズマガヤ、ラショウモンカズラ、コンロンソウ、フタバアオイがあり、夏はイッポンワラビ、イワシロイノデ、ジュウモンジシダなどシダ植物が目立つが、クサアジサイ、オオヤマハコベも出現する。秋にはシラネセンキュウ、ヤマゼリ、モミジガサ、ミヤマタニソバなどがある。オオモミジガサは稀に見られ、岩上にはカンスゲやヒメウツギが生育していることが多い。

#### (2) スギ林

スギ植林地は広く、各地に見られる。大きく成長し、伐採時期も近いと思われるスギ林下は比較的明るく、湿度も高いので草本層がよく発達しており、特にシダ植物には良い生育地になっている。高木層はスギのみで、亜高木層は無く、低木層にタマアジサイ、ハナイカダ、サワシバ、ウリノキ、アブラチャン、コアジサイ、ムラサキシキブ、シラキ、ウリノキ、イロハモミジなどがよく出現する。草本層は種類が多く、リョウメンシダ、イワシロイノデ、ムカゴイラクサ、キヨタキシダ、ジュウモンジシダ、イヌワラビ、イワガラミ、オクマワラビ、オシダ、ヤマイヌワラビ、クサアジサイ、ホソバナライシダなどがよく出現し、少ないがオオバノイノモトソウ、ナンゴクナライシダやベニシダなども生育している。稀にオニヒカゲワラビ、ホソバイヌワラビ、ウスヒメワラビ、チャボイノデなどが見られるのもスギ林下である。

#### (3) 草地

草原と呼ばれる広がりをもつ草地はないが、路傍や登山道脇に狭い草地が見られることがある。草刈りなどが行われないと、すぐに低木林に移ってしまうような場所である。ここにはオカトラノオ、ナワシロイチゴ、ヨモギ、チガヤ、ウシノシッペイ、オトコエシ、ワラビ、キンミズヒキ、ヤブマメ、サルトリイバラ、イタドリ、タチツボスミレ、オトギリソウ、シラヤマギクなどが生育している。ヌルデ、ノリウツギ、クサギ、モミジイチゴ、ニガイイチゴ、ネジキなどの樹木が侵入していることが多い。山頂ではネズミガヤやノハラアザミに混じってカリヤスモドキが見られるが個体数は少ない。コウリンカを見つけることは出来なかった。

#### 2. 注目すべき植物

## 植 物

・絶滅危惧植物（国レベルの絶滅危惧植物）

### （１）スギラン（ヒカゲノカズラ科）

絶滅危惧ⅠＢ類。戦前の記録であるが、八溝山の記録がある。その後確認されず、ブナ林なども広い面積が伐採され、現在は狭い範囲に残されているだけなので、絶滅したと思われる。

### （２）ムカゴネコノメ（ユキノシタ科）

準絶滅危惧種。図鑑等では本州の関東地方と東海地方に分布とされているが、福島県南部から宮城県南部にも生育し、宮城県南部が北限地と思われる。県内では山地部にやや稀に見られるが、茨城県域の八溝山では確認されていない。古くは福島県側の八溝山の沢筋で見つけられている。今回の調査では確認出来なかった。

### （３）ヤシヤビシヤク（ユキノシタ科）

絶滅危惧Ⅱ類。本州・四国・九州の温帯林のブナなどの老木上などに生える落葉小低木。今回の調査では確認したが稀である。ブナ林の減少の影響を受けたものと思われる。40年近く前もほとんど見つからなかった。

### （４）コウリンカ（キク科）

絶滅危惧Ⅱ類。本州の山地のやや湿った草原に稀に見られる多年草。八溝山の山頂の草地に見られたが、今回は確認出来なかった。

・茨城県の絶滅危惧植物（国レベルの上記４種を除く。）

### （５）オクタマシダ（チャセンシダ科）（図２）

絶滅危惧種。本州（福島県・関東～近畿地方・広島県・山口県）、四国南部、九州（宮崎県）の山地の崖などに着生している多年生のシダ植物。福島県の阿武隈山地を北限地としている。調査域では大子町上野宮



図２．オクタマシダ。

の腐沢沿いの岩上に着生しているのを確認できた。生育範囲は狭く、個体数も多くない。

### （６）ウスヒメワラビ（メシダ科）（図３）

希少種。本州（東北地方南部以南）、四国、九州に生える夏緑性のシダ植物。茨城県では北部から中部の山地林下にまれとされている。調査域では腐沢林道沿いのスギ林下に稀に群生が見られる。花瓶山では栃木県域の黒羽町妙木沢のスギ林下に群生地がある。



図３．ウスヒメワラビ。

### （７）オニヒカゲワラビ（メシダ科）（図４）

危急種。本州、四国、九州に分布し、茨城県では北茨城市、常陸太田市、笠間市（旧岩間町）などに知られているが、個体数は少ない。今回の調査では福島県域の茗荷沢のスギ林下で１株確認した。よく成長した株である。福島県内でも生育地は少ないと思われる。



図４．オニヒカゲワラビ。

### （８）ミヤマノキシノブ（ウラボシ科）

希少種。北海道、本州、四国、九州の山地夏緑林に見られ、大きなブナなどの樹幹に着生している。山頂付近のブナの樹幹に稀に見られる。

(9) オシャグジデンド (ウラボシ科)

危急種。北海道, 本州, 四国, 九州の山地に見られ, ブナなどの樹上に生える夏に落葉し, 冬に緑になるというシダ植物。大きな樹木の枝の基部などで見つかったが, 今回は確認出来なかった。

(10) ハリモミ (マツ科)

危急種。本州 (福島県以西), 四国, 九州に分布する常緑の高木。八溝山を北限地としている。生育地は福島県域で, 茨城県域ではこれまでも確認されていない。今回も確認出来なかった。

(11) ツガ (マツ科)

希少種。本州 (福島県八溝山以西), 四国, 九州 (屋久島まで) の山地に分布する常緑の高木。県内では常陸大宮市 (旧山方町竜神峡域) と八溝山に記録され, 八溝山では茨城県域でも山頂から高笹山分岐付近に生育が知られていた。今回の調査では確認出来なかった。

(12) クロベ (ヒノキ科)

絶滅種。本州, 四国の山地に生える常緑の高木。古くは山頂より福島県側と, 山頂付近に小さな個体が確認されていたが, 最近では確認されていない。県内では唯一の生育記録地である。

(13) ダケカンバ (カバノキ科) (図5)

希少種。北海道, 本州 (中部地方以北), 四国に分布する落葉広葉樹。主に亜高山帯に見られる。県内では八溝山と高萩市に記録があるが, 高萩市の生育地の情報は最近知られず, 八溝山は重要な生育地である。40年近く前は大きなダケカンバが倒れて, 個体数も



図5. ダケカンバ。

少なくなった時期であったが, 最近では山頂付近から蛇穴登山道沿いに点々と良く成長した個体が見られる。

(14) レンゲショウマ (キンポウゲ科) (図6)

希少種。本州 (岩手県~奈良県の太平洋側の温帯域) の落葉広葉樹林の林下に生育する多年草。日本固有種。県内では北部の山地に稀に見られる。八溝山では溪谷沿いの落葉樹林下に稀に見られる。個体数は少ない。



図6. レンゲショウマ。

(15) ヤマブキシソウ (ケシ科)

希少種。本州, 四国, 九州の山地林下に生える多年草。八溝山では沢沿いの地に稀に見られる。なお八溝山ではセリバヤマブキシソウが発表されているが, 今回は確認出来なかった。

(16) ギンバイソウ (ユキノシタ科)

危急種。本州 (関東地方以西), 四国, 九州に分布し, 八溝山や北茨城市の生育地は北限地になる。八溝山では福島県の中の沢ルートで, 記録されたようである。今回は茨城県域でも確認出来なかった。

(17) ヤグルマソウ (ユキノシタ科)

危急種。北海道, (南西部), 本州に分布する多年草。かつて沢沿いに群生していたが, 今回は確認できなかった。

(18) ナンキンナナカマド (バラ科)

希少種。本州 (関東地方以西), 四国, 九州に分布する落葉低木。県内では北茨城市, 竜神峡, 大子町, 八溝山に記録があり, 近くでは福島県矢祭町の檜山にも見られる。八溝山では古く日輪寺から山頂への途中にわずかに見られたが, 今回の調査では確認出来なかった。以前も個体数は少なかった。



## 植 物

### (19) ヤミゾスミレ (スミレ科)

希少種。サクラスミレとフモトスミレまたはマキノスミレとの雑種と推定されるもので、八溝山近くの高笹山近くで見ついている。この地を原産地として記載されたスミレである。大神宮から高笹山への林道沿いを探したが、笹が両側から繁茂し、ヒノキの植林地もヒノキが大きく成長し、開けた草地がほとんど無くなっている。明らかにヤミゾスミレと思われる個体には出会わなかった。サクラスミレとフモトスミレが接近して生えている所もあり、ヒノキ等の再度の植林時期に期待したい。

### (20) イワウチワ (イワウメ科)

危急種。本州(東北地方～中国地方東部)に分布する常緑の多年草。県内では山地の林下で急な斜面などに群生している。八溝山では尾根近くの斜面に見られるが、以前より少なくなっているように思われる。

### (21) サラサドウダン (ツツジ科)

絶滅危惧種。北海道、本州(近畿地方以東)の夏緑林に生える落葉低木。県内ではまれで、北部のブナ林に稀に見られる。八溝山では山頂近くに見られるが、個体数は少ない。

### (22) アズマシャクナゲ (ツツジ科)

絶滅危惧種。本州(長野県、静岡県以北～宮城県)に分布。県内では北茨城市のものは有名である。八溝山では40年前でも茨城県域ではアズマシャクナゲの生育は確認されず、福島県域にわずかに生き残っているという状態であった。

### (23) フクシマシャジン (キキョウ科)

希少種。本州(中部地方以北)の山地林下に稀にはえる多年草。県内では北部の山地に稀に見られる。八溝山では蛇穴ルート(蛇穴)の落葉広葉樹林下に稀に見られたが、今回は確認出来なかった。

### (24) クルマバハグマ (キク科)

希少種。本州(近畿地方～秋田県までの主として日本海側)に分布する多年草。ブナ林の林下や林縁に生えるが県内では極めてまれである。八溝山に記録されているが、今回は確認出来なかった。

### (25) イワキハグマ (キク科)

危急種。オヤリハグマとクルマバハグマの雑種とさ

れるもので、八溝山に知られているが今回は確認出来なかった。

### (26) オヤリハグマ (キク科)

希少種。本州(東北地方の山形県～宮城県、福島県、関東地方の栃木県、茨城県)に分布し、本県の北部山地を南限地としている。八溝山では落葉広葉樹林下によく見られる。

### (27) センダイトウヒレン (キク科)

希少種。本州(関東地方北部～東北地方)に分布する多年草。県北部の山地林下に稀に見られる。八溝山では個体数は少ない。

### (28) ヒメマイヅルソウ (ユリ科)

危急種。北海道、本州(中部地方以北)に分布し、山地や亜高山の樹林下に生える多年草。茨城県では北茨城市花園山周辺、高萩市君田、常陸太田市岡見(旧里美村)、八溝山に知られている。八溝山では日輪寺コース入口周辺では確認出来なかった。

### (29) マイヅルソウ (ユリ科)

危急種。北海道、本州、四国、九州の山地帯～亜高山帯の林下に生える多年草。茨城県では北部の山地と筑波山に記録されている。八溝山ではヒメマイヅルソウが八溝山本体付近で、マイヅルソウは高笹山付近で確認されている。今回の調査では確認出来なかった。

### (30) アオフタバラン (ラン科)

希少種。本州、四国、九州の山地の林下に生える多年草。茨城県では北部の山地の沢沿いのやや湿った所に群生していることが多い。八溝山では、かつて日輪寺コースの林下に見られたが、最近では確認されていない。今回も確認していない。蛇穴新田の花瓶山側には群生地がある。

### (31) コケイラン (ラン科)

危急種。北海道、本州、四国、九州の樹林下に生える多年草。県内では中央部から北部の山地に稀に産する。八溝山では日輪寺と山頂間の沢沿いで見ついているが、沢は現在歩行が困難である。個体数が少なかったため絶滅が心配である。

・分布上注目すべき植物(すでに絶滅危惧植物として取り上げたものは除く。)



## (32) ナンゴクナライシダ (オシダ科)

本州 (中部地方以西), 四国, 九州に分布するとされているが, 八溝山では山麓のスギ林下などでよく見られる。

## (33) チャボイノデ (オシダ科) (図7)

本州 (栃木県以西), 四国, 九州に分布している常緑のシダ植物。県内では八溝山麓に記録され, 今回の調査では蛇穴のスギ林下に生育を確認した。個体数は多くない。



図7. チャボイノデ。

## (34) ダンコウバイ (クスノキ科)

本州 (関東地方・新潟以西), 四国, 九州の山地林下に分布する落葉低木。福島県南部を北限地としている。県内では山地に普通。

## (35) ミヤマタニワタシ (マメ科)

本州 (栃木県～愛知県) と比較的狭い範囲に分布する多年草。県内では奥久慈の男体山地に知られていたが, 八溝山麓の太子町磯神付近にも見られる。

## (36) オオモミジガサ (キク科) (図8)

本州 (福島県以南), 四国, 九州の山地に分布する



図8. オオモミジガサ。

多年草。県内では筑波山, 花園山周辺, 男体山, 八溝山に知られている。八溝山では沢沿いに稀に見られる。

## おわりに

八溝山と周辺の山地は, 茨城県では最高峰の山として多くの人々が関心を持っている山であるが, 落葉広葉樹林が少なくなっているのが残念である。また, 植林地が多いが, スギ林・ヒノキ林など伐採が行われて森林が若くなる時もあり, 林下に生ずる植物にも変化があるので, 絶えず注意をしていないと多くの植物の確認は困難である。ブナ林なども林下のササ類の消長にあわせた調査が必要であることを感じた。

## 参考文献

- 福島県植物誌編さん委員会. 1987. 福島県植物誌. 481 pp., 福島県植物誌編さん委員会.
- 茨城県環境保全課. 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生 (植物編). 253 pp., 茨城県環境保全課.
- 岩槻邦男編. 1992. 日本の野生植物シダ. 311 pp., 平凡社.
- 大井次三郎 (著)・北川政夫 (改訂). 1992. 新日本植物誌顕花篇. 1716 pp., 至文堂.
- 長田武正. 1989. 日本イネ科植物図鑑. 759 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1981. 日本の野生植物草本Ⅲ. 259 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物草本Ⅱ. 318 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1982. 日本の野生植物草本Ⅰ. 305 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1989. 日本の野生植物木本Ⅱ. 305 pp., 平凡社.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫 (編). 1989. 日本の野生植物木本Ⅰ. 321 pp., 平凡社.
- 鈴木昌友. 1966. 関東地方北部の植物相Ⅰ 八溝山・高笹山の植物相. 茨城大学教育学部紀要, (16): 203-226.
- 鈴木昌友. 1970. 茨城の植物. 490 pp., 茨城新聞社.
- 鈴木昌友・清水 修・安見珠子・安 昌美・藤田弘道・中崎保洋・和田尚幸・野口達也. 1981. 茨城県植物誌. 339 pp., 城県植物誌刊行会.
- 栃木県立博物館. 1988. 八溝山地の植生. 栃木県立博物館研究報告第6号八溝の自然 (Ⅱ) 植物,

植 物

pp.30-110.

栃木県立博物館. 1989. 八溝山地の植物相. 栃木県立  
博物館研究報告第7号八溝の自然(Ⅲ)植物, 448 pp.

安 昌美 (元茨城県高等学校教育研究会生物部長)

執 筆

安 昌美 (元茨城県高等学校教育研究会生物部長)

調査研究

鈴木昌友 (茨城大学名誉教授 理学博士)

付表 1. 茨城県北西部地域の維管束植物.

		No. 調査地						
		海	鍋	久	鷺	花	八	
		岸	足	懸	子	瓶	溝	
		1	2	3	4	5	6	備考
PTHRIDOPHYTA		シダ植物						
Lycopodiaceae		ヒカゲノカズラ科						
1	<i>Lycopodium clavatum</i> Linn.		○		○	○	○	
2	<i>Lycopodium serratum</i> Thunb.		○	○	○	○		
Selaginellaceae		イワヒバ科						
3	<i>Selaginella helvetica</i> (Linn.) Link		○	○				
4	<i>Selaginella involvens</i> (Sw.) Spring		○	○				茨城県：希少種
5	<i>Selaginella remotifolia</i> Spring			○	○	○	○	
6	<i>Selaginella tamariscina</i> (Beauv.) Spring		○	○				茨城県：危急種
Isoetaceae		ミズニラ科						
7	<i>Isoetes japonica</i> A. Br.			○	○			環境省：絶滅危惧Ⅱ類 茨城県：希少種
Equisetaceae		トクサ科						
8	<i>Equisetum arvense</i> Linn.	○	○	○	○	○	○	
9	<i>Equisetum hyemale</i> Linn.			○				逸出
10	<i>Equisetum ramosissimum</i> Desf.	○		○				
Ophioglossaceae		ハナヤスリ科						
11	<i>Botrychium japonicum</i> (Prantl) Underw.			○			○	
12	<i>Botrychium strictum</i> Underw.				○			
13	<i>Botrychium ternatum</i> (Thunb.) Sw.		○	○	○	○	○	
14	<i>Botrychium virginianum</i> (Linn.) Sw.			○	○	○	○	
15	<i>Ophioglossum vulgatum</i> Linn.			○			○	
Osmundaceae		ゼンマイ科						
16	<i>Osmunda japonica</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○	
17	<i>Osmunda lancea</i> Thunb.			○				茨城県：危急種
18	<i>Osmunda x intermedia</i> (Honda) Sugimoto			○				
Plagiogyriaceae		キジノオシダ科						
19	<i>Plagiogyria japonica</i> Nakai				○			
Gleicheniaceae		ウラジロ科						
20	<i>Gleichenia japonica</i> Spr.			○	○			
Schizaceae		フサシダ科						
21	<i>Lygodium japonicum</i> (Thunb. ex Murray) Sw.		○	○				
Hymenophyllaceae		コケシノブ科						
22	<i>Crepidomanes latealatum</i> (v. d. Bosch) Copel.		○	○				茨城県：希少種
23	<i>Crepidomanes minutus</i> (Blume) K. Iwats.		○	○		○	○	
24	<i>Hymenophyllum barbatum</i> (v. d. Bosch) Baker		○	○				
25	<i>Hymenophyllum polyanthos</i> (Sw.) Sw.			○		○		
Davalliaceae		シノブ科						
26	<i>Davallia mariesii</i> Moore ex Baker		○	○	○	○	○	
Parkeriaceae		ミズワラビ科						
27	<i>Adiantum monochlamys</i> Eaton		○	○	○			
28	<i>Adiantum pedatum</i> Linn.		○	○	○			
29	<i>Coniogramme intermedia</i> Hieron.		○	○	○	○	○	
30	<i>Coniogramme japonica</i> (Thunb.) Diels		○	○	○	○	○	
31	<i>Coniogramme x fauriei</i> Hieron.						○	
32	<i>Onychium japonicum</i> (Thunb.) Kunze			○				
Pteridaceae		イノモトソウ科						
33	<i>Pteris cretica</i> Linn.		○	○	○	○	○	
34	<i>Pteris multifida</i> Poir.			○			○	
Blechnaceae		シシガシラ科						
35	<i>Blechnum amabile</i> Makino			○			○	
36	<i>Struthiopteris niponica</i> (Kunze) Nakai		○	○	○	○	○	
37	<i>Woodwardia orientalis</i> Sw.			○	○			
Dryopteridaceae		オシダ科						
38	<i>Arachniodes borealis</i> Serizawa		○	○	○	○	○	
39	<i>Arachniodes miqueliana</i> (Maxim.) Ohwi			○		○	○	
40	<i>Arachniodes mutica</i> (Franch. et Savat.) Ohwi					○	○	
41	<i>Arachniodes simplicior</i> (Makino) Ohwi			○				
42	<i>Arachniodes standishii</i> (Moore) Ohwi		○	○	○	○	○	
43	<i>Ctenitis maximowicziana</i> (Miq.) Ching				○			茨城県：希少種
44	<i>Cyrtomium falcatum</i> (Linn. fil.) Presl	○	○	○			○	
45	<i>Cyrtomium fortunei</i> J. Sm.		○	○	○	○	○	
46	<i>Cyrtomium fortunei</i> J. Sm. var. <i>clivicola</i> (Makino) Tagawa			○		○	○	
47	<i>Dryopteris chinensis</i> (Baker) Koidz.		○	○	○	○	○	
48	<i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai		○	○	○	○	○	
49	<i>Dryopteris dickinsi</i> (Franch. et Savat.) C. Chr.				○			茨城県：希少種
50	<i>Dryopteris erythrosora</i> (Eaton) O. Kuntze	○	○	○	○	○	○	
51	<i>Dryopteris erythrosora</i> (Eaton) O. Kuntze form. <i>viridiflora</i> (Nakai ex H. Ito) H. Ito					○		
52	<i>Dryopteris expansa</i> (Pr.) Fr.-Jenkins et Jermy						○	茨城県：希少種
53	<i>Dryopteris gymnohylla</i> (Baker.) C. Chr.			○				茨城県：希少種
54	<i>Dryopteris hondoensis</i> Koidz.		○	○	○	○	○	
55	<i>Dryopteris lacera</i> (Thunb. ex Murray) O. Kuntze		○	○	○	○	○	
56	<i>Dryopteris x mituii</i> Serizawa			○				
57	<i>Dryopteris monticola</i> (Makino) C. Chr.			○			○	
58	<i>Dryopteris nipponensis</i> Koidz.			○			○	
59	<i>Dryopteris pacifica</i> (Nakai) Tagawa		○	○				
60	<i>Dryopteris polylepis</i> (Franch. et Savat.) C. Chr.			○	○	○	○	

植 物

学 名	和 名	海	鍋	久	鷲	花	八	備考
		岸	足	慈	子	瓶	溝	
		1	2	3	4	5	6	
61 <i>Dryopteris sabaiei</i> (Franch. et Savat.) C. Chr.	ミヤマイタチシダ	○	○	○	○	○	○	
62 <i>Dryopteris sacrosancta</i> Koidz.	ヒメイタチシダ			○	○			
63 <i>Dryopteris saxifraga</i> H. Ito	イワイタチシダ		○	○	○	○	○	
64 <i>Dryopteris tokyoensis</i> (Matsum. ex Makino) C. Chr.	タニヘゴ			○	○			
65 <i>Dryopteris uniformis</i> (Makino) Makino	オクマワラビ	○	○	○	○	○	○	
66 <i>Dryopteris varia</i> (Linn.) O. Kuntze var. <i>setosa</i> (Thunb.) Ohwi	ヤマイタチシダ		○	○	○	○	○	
67 <i>Dryopteris x watanabei</i> Kurata	フジオシダ						○	
68 <i>Polystichum craspedosorum</i> (Maxim.) Diels	ツルデンダ			○	○		○	
69 <i>Polystichum fibrilloso-paleaceum</i> (Kodama) Tagawa	アスカイノデ	○		○				
70 <i>Polystichum igaense</i> Tagawa	チャボイノデ						○	
71 <i>Polystichum longifrons</i> Kurata	アイアスカイノデ	○		○	○		○	
72 <i>Polystichum ovato-paleaceum</i> (Kodama) Kurata	ツヤナシイノデ			○	○	○	○	
73 <i>Polystichum ovato-paleaceum</i> (Kodama) Kurata var. <i>coraiense</i> (Christ) Kurata	イワシロイノデ		○	○	○	○	○	
74 <i>Polystichum polyblepharum</i> (Roem. ex Kunze) Presl	イノデ	○	○	○	○	○	○	
75 <i>Polystichum retroso-paleaceum</i> (Kodama) Tagawa	サカゲイノデ		○	○	○	○	○	
76 <i>Polystichum tagawanum</i> Kurata	イノデモドキ				○			茨城県：希少種
77 <i>Polystichum tripterum</i> (Kunze) Presl	ジュウモンジシダ		○	○	○	○	○	
78 <i>Polystichum tsus-simense</i> (Hook.) J. Sm. var. <i>mayebarae</i> (Tagawa) Kurata	オオキヨボシシダ				○			茨城県：希少種
Thelypteridaceae								
79 <i>Phegopteris decursive-pinnata</i> (van Hall) Fe'e	ゲジゲジシダ		○	○	○	○	○	
80 <i>Stegogramma pozoi</i> (Lagasca) Ching subsp. <i>mollissima</i> (Fischer ex Kunze) Nakaïke	ミゾシダ		○	○	○	○	○	
81 <i>Thelypteris acuminata</i> (Houtt.) Morton	ホシダ	○		○				
82 <i>Thelypteris japonica</i> (Baker) Ching	ハリガネワラビ		○	○	○	○	○	
83 <i>Thelypteris japonica</i> (Baker) Ching var. <i>formosa</i> (C. Chr.) Nakaïke	イワハリガネワラビ			○	○	○	○	
84 <i>Thelypteris laxa</i> (Franch. et Savat.) Ching	ヤワラシダ			○	○	○	○	
85 <i>Thelypteris palustris</i> (Salisb.) Schott	ヒメシダ	○	○	○	○	○	○	
86 <i>Thelypteris torresiana</i> (Gaud.) Alston var. <i>calvata</i> (Bak.) K. Iwats.	ヒメワラビ		○	○	○	○	○	
87 <i>Thelypteris viridifrons</i> Tagawa	ミドリヒメワラビ			○	○	○	○	
Athyriaceae								
88 <i>Acystopteris japonica</i> (Luerss.) Nakai	ウスヒメワラビ					○	○	茨城県：希少種
89 <i>Athyrium deltoideifrons</i> Makino	サトメシダ	○				○		
90 <i>Athyrium iseanum</i> Rosenst.	ホソバイヌワラビ			○	○	○	○	
91 <i>Athyrium mesosorum</i> (Makino) Makino	ヌリワラビ		○	○	○	○	○	
92 <i>Athyrium niponicum</i> (Mett.) Hance	イヌワラビ	○	○	○	○	○	○	
93 <i>Athyrium vidalii</i> (Franch. et Savat.) Nakai	ヤマイヌワラビ		○	○	○	○	○	
94 <i>Athyrium wardii</i> (Hook.) Makino	ヒロハイヌワラビ			○				
95 <i>Athyrium yokoscense</i> (Franch. et Savat.) Christ	ヘビノゴザ		○	○	○	○	○	
96 <i>Cornopteris christenseniana</i> (Koidz.) Tagawa	ハコネシケチシダ			○	○	○		
97 <i>Cornopteris crenulatoserrulata</i> (Makino) Nakai	イッポンワラビ		○	○	○	○	○	
98 <i>Cornopteris decurrenti-alata</i> (Hook.) Nakai	シケチシダ			○	○	○	○	
99 <i>Cornopteris decurrenti-alata</i> (Hook.) Nakai var. <i>pilosella</i> H. Ito	タカオシケチシダ						○	
100 <i>Deparia conilii</i> (Franch. et Savat.) Kurata	ホソバシケチシダ		○	○	○	○	○	
101 <i>Deparia dimorphophylla</i> (Koidz.) M. Kato	セイタカシケチシダ						○	
102 <i>Deparia japonica</i> (Thunb.) Kurata	シケチシダ	○	○	○	○	○	○	
103 <i>Deparia okuboana</i> (Makino) M. Kato	オオヒメワラビ			○	○		○	
104 <i>Deparia pycnosora</i> (Christ) M. Kato	ミヤマシケチシダ		○	○	○	○	○	
105 <i>Deparia pycnosora</i> (Christ) M. Kato var. <i>albosquamata</i> M. Kato	ハクモウイノデ		○	○	○	○	○	
106 <i>Deparia viridifrons</i> (Makino) M. Kato	ミドリワラビ			○			○	
107 <i>Diplazium nipponicum</i> Tagawa	オニヒカゲワラビ						○	茨城県：危急種
108 <i>Diplazium sibiricum</i> (Turcz. ex Kunze) Kurata var. <i>glabrum</i> (Tagawa) Kurata	ミヤマシダ					○		
109 <i>Diplazium squamigerum</i> (Mett.) Matsum.	キヨタキシダ		○	○	○	○	○	
110 <i>Gymnocarpium oyamense</i> (Bak.) Ching	エビラシダ			○				茨城県：危急種
111 <i>Matteuccia orientalis</i> (Hook.) Trev.	イヌガンソク		○	○	○	○	○	
112 <i>Matteuccia struthiopteris</i> (Linn.) Todaro	クサソテツ			○	○	○	○	
113 <i>Onoclea sensibilis</i> Linn. var. <i>interrupta</i> Maxim.	コウヤワラビ		○	○	○	○	○	
114 <i>Woodsia macrochaena</i> Mett. ex Kuhn	コガネシダ			○				茨城県：希少種
115 <i>Woodsia manchuriensis</i> Hook.	フクロシダ		○	○		○	○	
116 <i>Woodsia polystichoides</i> Eaton	イワデンダ		○	○				
Polypodiaceae								
117 <i>Crypsinus hastatus</i> (Thunb.) Copel.	ミツデウラボシ		○	○	○	○	○	
118 <i>Lemmaphyllum microphyllum</i> Presl	マメツタ		○	○	○			
119 <i>Lepisorus annuifrons</i> (Makino) Ching	ホテイシダ			○				茨城県：希少種
120 <i>Lepisorus onoei</i> (Franch. et Savat.) Ching	ヒメノキシノブ		○	○	○	○	○	
121 <i>Lepisorus thunbergianus</i> (Kaulf.) Ching	ノキシノブ		○	○	○	○	○	
122 <i>Lepisorus ussuriensis</i> (Regel et Maack) Ching var. <i>distans</i> (Makino) Tagawa	ミヤマノキシノブ						○	茨城県：希少種
123 <i>Loxogramme duclouxii</i> Christ	サジラン			○				茨城県：絶滅危惧種
124 <i>Pyrrhosia hastata</i> (Thunb. ex Houtt.) Ching	イワオモダカ		○	○				茨城県：危急種
125 <i>Pyrrhosia linearifolia</i> (Hook.) Ching	ビロードシダ			○				
Dennstaedtiaceae								
126 <i>Dennstaedtia hirsuta</i> (Sw.) Mett. ex Miq.	イヌシダ		○	○	○	○	○	
127 <i>Dennstaedtia wilfordii</i> (Moore) Christ	オウレンシダ		○	○	○	○	○	
128 <i>Hypolepis punctata</i> (Thunb.) Mett. ex Kuhn	イワヒメワラビ				○	○	○	
129 <i>Microlepia marginata</i> (Panzer) C. Chr.	フモトシダ				○	○	○	
130 <i>Pteridium aquilinum</i> (Linn.) Kuhn var. <i>latiusculum</i> (Desv.) Underw. ex Hell.	ワラビ	○	○	○	○	○	○	
Aspleniaceae								
131 <i>Asplenium incisum</i> Thunb.	トラノオシダ		○	○	○	○	○	
132 <i>Asplenium pseudo-wilfordii</i> Tagawa	オクタマンダ						○	茨城県：絶滅危惧種
133 <i>Asplenium ruprechtii</i> Kurata	クモノシダ			○				茨城県：希少種
134 <i>Asplenium sarelii</i> Hook.	コバノヒノキシダ			○	○			
135 <i>Asplenium scolopendrium</i> Linn.	コタニワタリ			○				茨城県：危急種
136 <i>Asplenium tenuicaule</i> Hayata	イワトラノオ		○	○			○	



学名	和名	海岸	鍋足山	久慈山地	鷲子山	花瓶山	八溝山	備考
		1	2	3	4	5	6	
SPERMATOPHYTA	種子植物							
GYMNOSPERMATA	裸子植物							
Pinaceae	マツ科							
137 <i>Abies firma</i> Sieb. et Zucc.	モミ	○	○	○	○	○	○	
138 <i>Larix kaempferi</i> (Lamb.) Carr.	カラマツ		○			○	○	栽培
139 <i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc.	アカマツ	○	○	○	○		○	
140 <i>Pinus parviflora</i> Sieb. et Zucc.	ヒメコマツ			○				茨城県：危急種
141 <i>Pinus thunbergii</i> Parl.	クロマツ	○						
142 <i>Tsuga sieboldii</i> Carr.	ツガ			○				茨城県：希少種
Taxodiaceae	スギ科							
143 <i>Cryptomeria japonica</i> (Linn. fil.) D. Don	スギ		○	○	○	○	○	栽培
Cupressaceae	ヒノキ科							
144 <i>Chamaecyparis obtusa</i> (Sieb. et Zucc.) Sieb. et Zucc.	ヒノキ		○	○	○	○	○	栽培
145 <i>Chamaecyparis pisifera</i> (Sieb. et Zucc.) Endl.	サワラ		○	○				栽培
146 <i>Juniperus conferta</i> Parl.	ハイネズ	○						
147 <i>Juniperus rigida</i> Sieb. et Zucc.	ネズ		○	○				
Cephalotaxaceae	イヌガヤ科							
148 <i>Cephalotaxus harringtonia</i> (Knight) K. Koch	イヌガヤ	○	○	○	○	○		
Taxaceae	イチイ科							
149 <i>Torreya nucifera</i> (Linn.) Sieb. et Zucc.	カヤ	○	○	○	○	○	○	
ANGIOSPERMAE	被子植物							
DICOTYLEDONEAE	双子葉植物							
CHORIPETALAE	離弁花類							
Myricaceae	ヤマモモ科							
150 <i>Myrica rubra</i> Sieb. et Zucc.	ヤマモモ	○						逸出
Juglandaceae	クルミ科							
151 <i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	オニグルミ	○	○	○	○	○	○	
152 <i>Pterocarya rhoifolia</i> Sieb. et Zucc.	サワグルミ		○			○	○	
Salicaceae	ヤナギ科							
153 <i>Populus sieboldii</i> Miq.	ヤマナラシ	○		○	○	○		
154 <i>Salix bakko</i> Kimura	バッコヤナギ		○	○	○	○	○	
155 <i>Salix futura</i> Seemen	オオキツネヤナギ			○	○		○	
156 <i>Salix gilgiana</i> Seemen	カワヤナギ			○	○			
157 <i>Salix gracilistyla</i> Miq.	ネコヤナギ			○	○			
158 <i>Salix integra</i> Thunb.	イヌコリヤナギ	○	○	○	○		○	
159 <i>Salix sachalinensis</i> Fr. Schm.	オノエヤナギ				○	○	○	
160 <i>Salix serissaefolia</i> Kimura	コゴメヤナギ				○	○		
161 <i>Salix subfragilis</i> Anders.	タチヤナギ				○	○		
162 <i>Salix vulpina</i> Anders.	キツネヤナギ					○		
Betulaceae	カバノキ科							
163 <i>Alnus firma</i> Sieb. et Zucc. var. <i>hirtella</i> Franch. et Savat.	ミヤマヤシャブシ		○	○		○	○	
164 <i>Alnus hirsuta</i> Turcz. var. <i>sibirica</i> (Fischer) C. K. Schn.	ヤマハンノキ		○			○		
165 <i>Alnus japonica</i> (Thunb.) Steud.	ハンノキ	○		○			○	
166 <i>Alnus japonica</i> (Thunb.) Steud. var. <i>koreana</i> Call.	ケハンノキ	○						
167 <i>Alnus sieboldiana</i> Matsum.	オオバヤシャブシ			○	○			
168 <i>Betula ermanii</i> Cham.	ダケカンバ						○	茨城県：希少種
169 <i>Betula platyphylla</i> Sukatchev var. <i>japonica</i> (Miq.) Hara	シラカンバ	○						茨城県：希少種
170 <i>Betula schmidtii</i> Regel	オノオレカンバ			○			○	茨城県：希少種
171 <i>Butula grossa</i> Sieb. et Zucc.	ミズメ			○	○	○	○	
172 <i>Carpinus cordata</i> Blume	サワシバ		○	○	○	○	○	
173 <i>Carpinus japonica</i> Blume	クマシデ	○	○	○	○	○	○	
174 <i>Carpinus laxiflora</i> (Sieb. et Zucc.) Blume	アカシデ	○	○	○	○	○	○	
175 <i>Carpinus tschonoskii</i> Maxim.	イヌシデ	○	○	○	○	○	○	
176 <i>Corylus sieboldiana</i> Blume	ツノハシバミ		○	○	○	○	○	
177 <i>Ostrya japonica</i> Sarg.	アサダ			○		○	○	
Fagaceae	ブナ科							
178 <i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ	○	○	○	○	○	○	
179 <i>Castanopsis cuspidata</i> (Thunb.) Schottky var. <i>sieboldii</i> (Makino) Nakai	スダジイ	○	○	○				
180 <i>Fagus crenata</i> Blume	ブナ			○	○	○	○	
181 <i>Fagus japonica</i> Maxim.	イヌブナ			○	○	○	○	
182 <i>Quercus acuta</i> Thunb. ex Murray	アカガシ			○	○			
183 <i>Quercus acutissima</i> Carr.	クヌギ	○	○	○	○		○	
184 <i>Quercus crispula</i> Blume	ミズナラ		○	○		○	○	
185 <i>Quercus dentata</i> Thunb.	カシワ		○	○				
186 <i>Quercus glauca</i> Thunb.	アラカシ			○	○			
187 <i>Quercus myrsinaefolia</i> Blume	シラカシ	○	○	○	○	○	○	
188 <i>Quercus salicina</i> Blume	ウラジロガシ		○	○				
189 <i>Quercus serrata</i> Thunb.	コナラ	○	○	○	○	○	○	
190 <i>Quercus sessilifolia</i> Blume	ツクバネガシ			○				
191 <i>Quercus variabilis</i> Blume	アベマキ			○				
Ulmaceae	ニレ科							
192 <i>Celtis jessoensis</i> Koidz.	エゾエノキ			○	○			
193 <i>Celtis sinensis</i> Pers. var. <i>japonica</i> (Planch.) Nakai	エノキ	○	○	○	○		○	
194 <i>Zelkova serrata</i> (Thunb.) Makino	ケヤキ		○	○	○	○	○	
Moraceae	クワ科							
195 <i>Broussonetia kazinoki</i> Sieb.	ヒメコウゾ		○	○	○	○	○	
196 <i>Fatoua villosa</i> (Thunb.) Nakai	クワクサ		○	○	○	○	○	
197 <i>Ficus sarmentosa</i> Roxb. var. <i>nipponica</i> (Franch. et Savat.) Corner	イタビカズラ		○	○				
198 <i>Humulus japonicus</i> Sieb. et Zucc.	カナムグラ	○	○	○	○	○	○	
199 <i>Humulus lupulus</i> Linn. var. <i>cordifolius</i> (Miq.) Maxim.	カラハナソウ		○	○	○	○	○	
200 <i>Morus australis</i> Poiret	ヤマグワ	○	○	○	○	○	○	

植 物

学 名	和 名	海	鍋	久	鷺	花	八	備 考	
		岸	足	慈	子	瓶	溝		
		1	2	3	4	5	6		
<b>Urticaceae</b>		<b>イラクサ科</b>							
201	<i>Boehmeria biloba</i> Wedd.	○							
202	<i>Boehmeria gracilis</i> C. H. Wright		○	○	○	○	○		
203	<i>Boehmeria japonica</i> (Linn. fil.) Miq. var. <i>longispica</i> (Steud.) Yahara		○			○			
204	<i>Boehmeria nipononivea</i> Koidz.		○	○	○	○	○		
205	<i>Boehmeria nipononivea</i> Koidz. var. <i>concolor</i> (Makino) Ohwi			○					
206	<i>Boehmeria platanifolia</i> Franch. et Savat. ex C. H. Wright		○	○	○		○		
207	<i>Boehmeria sieboldiana</i> Blume			○	○				
208	<i>Boehmeria spicata</i> (Thunb.) Thunb.		○	○	○	○	○		
209	<i>Elatostema laetevirens</i> Makino				○				
210	<i>Elatostema umbellatum</i> Blume var. <i>majus</i> Maxim.		○	○	○	○	○		
211	<i>Laportea bulbifera</i> (Sieb. et Zucc.) Weddell		○	○	○	○	○		
212	<i>Laportea macrostachya</i> (Maxim.) Ohwi				○		○		
213	<i>Nanoecide japonica</i> Blume		○	○	○	○	○		
214	<i>Pilea hamaoi</i> Makino				○		○		
215	<i>Pilea japonica</i> (Maxim.) Hand.-Mazz.		○	○	○	○	○		
216	<i>Pilea mongolica</i> Weddell		○	○	○		○		
217	<i>Pilea peplodes</i> (Gaud.) Hook. et Arn.			○					
218	<i>Urtica angustifolia</i> Fisch.	○		○			○		
219	<i>Urtica laetevirens</i> Maxim.			○			○		
220	<i>Urtica thunbergiana</i> Sieb. et Zucc.			○					
<b>Santalaceae</b>		<b>ビャクダン科</b>							
221	<i>Buckleya lanceolata</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.		○	○	○	○	○		
222	<i>Thesium chinense</i> Turcz.	○	○	○					
<b>Loranthaceae</b>		<b>ヤドリギ科</b>							
223	<i>Viscum album</i> Linn. var. <i>coloratum</i> (Komarov) Ohwi		○	○			○		
<b>Polygonaceae</b>		<b>タデ科</b>							
224	<i>Antenoron filiforme</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○		
225	<i>Antenoron neo-filiforme</i> (Nakai) Hara		○	○	○	○	○		
226	<i>Bistorta tenuicaulis</i> (Bisset et Moore) Nakai						○		
227	<i>Fallopia dumetora</i> (Linn.) Holub				○				
228	<i>Persicaria conspicua</i> (Nakai) Nakai				○	○	○		
229	<i>Persicaria debilis</i> (Meisn.) H. Gross		○	○	○	○	○		
230	<i>Persicaria hydropiper</i> (Linn.) Spach				○	○	○		
231	<i>Persicaria japonica</i> (Meisn.) H. Gross	○							
232	<i>Persicaria longiseta</i> (De Bruyn) Kitagawa	○	○	○	○	○	○		
233	<i>Persicaria makinoi</i> (Nakai) Nakai				○		○		
234	<i>Persicaria nepalensis</i> (Meisn.) H. Gross		○	○	○	○	○		
235	<i>Persicaria nipponensis</i> (Makino) H. Gross						○		
236	<i>Persicaria pubescens</i> (Blume) Hara				○	○	○		
237	<i>Persicaria scabra</i> (Moench) Mold.	○			○				
238	<i>Persicaria senticosa</i> (Franch. et Savat.) H. Gross	○	○	○	○	○			
239	<i>Persicaria sieboldii</i> (Meisn.) Ohki	○	○	○	○	○	○		
240	<i>Persicaria tenuiflora</i> (Presl) Hara		○	○	○				
241	<i>Persicaria thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) H. Gross	○	○	○	○	○	○		
242	<i>Persicaria thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) H. Gross var. <i>hastatotriloba</i> Miyabe				○	○			
243	<i>Persicaria viscofera</i> (Makino) H. Gross				○				
244	<i>Persicaria yokusaiana</i> (Makino) Nakai		○	○	○	○	○		
245	<i>Pleuropteris multiflora</i> (Thunb.) Turcz.		○						
246	<i>Polygonum aviculare</i> Linn.	○	○	○	○				
247	<i>Reynoutria japonica</i> Houtt.		○	○	○	○	○		
248	<i>Rumex acetosa</i> Linn.	○	○						
249	<i>Rumex acetosella</i> Linn.	○	○	○		○	○		
250	<i>Rumex conglomeratus</i> Murr.		○			○			
251	<i>Rumex crispus</i> Linn.	○					○		
252	<i>Rumex japonicus</i> Houtt.	○	○	○	○	○	○		
253	<i>Rumex obtusifolius</i> Linn.	○	○	○	○	○	○		
<b>Phytolaccaceae</b>		<b>ヤマゴボウ科</b>							
254	<i>Phytolacca americana</i> Linn.	○	○	○	○		○		
<b>Nyctaginaceae</b>		<b>オシロイバナ科</b>							
255	<i>Mirabilis jalapa</i> Linn.	○						逸出	
		<b>ザクロンウ科</b>							
256	<i>Mollugo pentaphylla</i> Linn.		○	○			○		
<b>Aizoaceae</b>		<b>ハマミズナ科</b>							
257	<i>Tetragonia tetragonoides</i> (Pall.) O. Kuntze	○							
<b>Portulacaceae</b>		<b>スベリヒユ科</b>							
258	<i>Portulaca oleracea</i> Linn.	○	○	○	○				
<b>Caryophyllaceae</b>		<b>ナデシコ科</b>							
259	<i>Arenaria serpyllifolia</i> Linn.	○		○			○		
260	<i>Cerastium glomeratum</i> Thuill.	○	○	○	○	○	○		
261	<i>Cerastium holosteoides</i> Fries var. <i>angustifolium</i> (Franch.) Mizushima	○	○	○	○	○	○		
262	<i>Cucubalus baccifer</i> Linn. var. <i>japonicus</i> Miq.				○				
263	<i>Dianthus japonicus</i> Thunb.	○						茨城県：危急種	
264	<i>Dianthus superbus</i> Linn. var. <i>longicalycinus</i> (Maxim.) Williams	○	○	○	○	○	○		
265	<i>Lychnis miqueliana</i> Rohrb.		○	○	○	○	○		
266	<i>Moehringia lateriflora</i> (Linn.) Fenzl				○				
267	<i>Pseudostellaria heterantha</i> (Maxim.) Pax			○				茨城県：危急種	
268	<i>Pseudostellaria palibiniana</i> (Takeda) Ohwi		○	○		○	○		
269	<i>Sagina japonica</i> (Sw.) Ohwi	○	○	○	○	○	○		
270	<i>Sagina maxima</i> A. Gray	○							
271	<i>Saponaria officinalis</i> Linn.			○				逸出	

学名	和名	海岸	鍋足山	久慈山地	鷲子山	花瓶山	八溝山	備考
		1	2	3	4	5	6	
272 <i>Silene armeria</i> Linn.	ムシトリナデシコ	○						逸出
273 <i>Silene firma</i> Sieb. et Zucc.	フシグロ	○						
274 <i>Silene firma</i> Sieb. et Zucc. form. <i>pubescens</i> (Makino) Ohwi et Ohashi	ケフシグロ		○					
275 <i>Silene gallica</i> Linn. var. <i>quinquevulnera</i> (Linn.) Rohrb.	マンテマ	○						
276 <i>Stellaria alsine</i> Grimm var. <i>undulata</i> (Thunb.) Ohwi	ノミノフスマ	○	○	○		○	○	
277 <i>Stellaria aquatica</i> (Linn.) Scop.	ウシハコベ	○	○	○			○	
278 <i>Stellaria diversiflora</i> Maxim.	サワハコベ		○	○	○			
279 <i>Stellaria media</i> (Linn.) Villars	コハコベ	○	○	○			○	
280 <i>Stellaria monosperma</i> Hamilt. var. <i>japonica</i> Maxim.	オオヤマハコベ			○	○	○	○	
281 <i>Stellaria sessiliflora</i> Yabe	ミヤマハコベ		○	○	○	○	○	
Chenopodiaceae		アカザ科						
282 <i>Chenopodium acuminatum</i> Willd.	マルバアカザ	○						
283 <i>Chenopodium album</i> Linn.	シロザ	○	○	○			○	
284 <i>Chenopodium virgatum</i> Thunb.	カワラアカザ			○				
285 <i>Salsola komarovii</i> Iljin	オカヒジキ	○						
Amaranthaceae		ヒユ科						
286 <i>Achyranthes fauriei</i> Le'v. et Van.	ヒナタイノコズチ	○	○	○				
287 <i>Achyranthes japonica</i> (Miq.) Nakai	ヒカゲイノコズチ	○	○	○	○	○	○	
288 <i>Achyranthes longifolia</i> (Makino) Makino	ヤナギイノコズチ			○				
289 <i>Amaranthus lividus</i> Linn.	イヌビユ			○				
290 <i>Amaranthus patulus</i> Bertoloni	ホソアオゲイトウ			○	○			
Magnoliaceae		モクレン科						
291 <i>Illicium religiosum</i> Sieb. et Zucc.	シキミ			○	○		○	
292 <i>Magnolia hypoleuca</i> Sieb. et Zucc.	ホオノキ		○	○	○	○	○	
293 <i>Magnolia praecocissima</i> Koidz.	コブシ	○	○	○	○			
294 <i>Schisandra repanda</i> (Sieb. et Zucc.) Radlk.	マツブサ		○	○	○	○	○	
Schisandraceae		マツブサ科						
295 <i>Kadsura japonica</i> (Thunb.) Dunal	サネカズラ	○	○	○				
Lauraceae		クスノキ科						
296 <i>Actinodaphne lancifolia</i> (Sieb. et Zucc.) Meisn.	カゴノキ			○				茨城県：希少種
297 <i>Lindera glauca</i> (Sieb. et Zucc.) Blume	ヤマコウバシ	○	○	○	○	○	○	
298 <i>Lindera obtusiloba</i> Blume	ダンコウバイ	○	○	○	○	○	○	
299 <i>Lindera praecox</i> (Sieb. et Zucc.) Blume	アブラチャン	○	○	○	○	○	○	
300 <i>Lindera umbellata</i> Thunb.	クロモジ						○	
301 <i>Neolitsea sericea</i> (Blume) Koidz.	シロダモ	○	○	○		○	○	
302 <i>Persea thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Kosterm.	タブノキ	○	○					
		ヤマグルマ科						
303 <i>Trochodendron aralioides</i> Sieb. et Zucc.	ヤマグルマ			○				
Eupteleaceae		フサザクラ科						
304 <i>Euptelea polyandra</i> Sieb. et Zucc.	フサザクラ		○	○	○	○	○	
Cercidiphyllaceae		カツラ科						
305 <i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et Zucc.	カツラ			○	○	○	○	
Ranunculaceae		キンボウゲ科						
306 <i>Aconitum pterocaule</i> Koidz.	アズマレイジンソウ						○	
307 <i>Aconitum tsukubense</i> Nakai	ツクバトリカブト	○	○	○	○	○	○	
308 <i>Anemone flaccida</i> Fr. Schm.	ニリンソウ	○	○	○	○	○	○	
309 <i>Anemone hepatica</i> Linn. var. <i>japonica</i> (Nakai) Ohwi form. <i>variegata</i> (Makino) Hara	スハマソウ	○	○					茨城県：危急種
310 <i>Anemone hupehensis</i> Lemoine var. <i>japonica</i> (Thunb.) Bowles et Stearn	シュウメイギク			○				
311 <i>Anemone nikoensis</i> Maxim.	イチリンソウ			○				
312 <i>Anemone pseudo-altaica</i> Hara	キクザキイチゲ	○	○	○	○	○	○	
313 <i>Anemone raddeana</i> Regel	アズマイチゲ			○	○			
314 <i>Anemonopsis macrophylla</i> Sieb. et Zucc.	レンゲショウマ				○	○	○	
315 <i>Cimicifuga acerina</i> (Sieb. et Zucc.) C. Tanaka	オオバショウマ	○	○	○	○	○	○	
316 <i>Cimicifuga simplex</i> Wormsk.	サラシナショウマ	○	○	○	○	○	○	
317 <i>Clematis apiifolia</i> DC.	ボタンヅル	○	○	○	○	○	○	
318 <i>Clematis apiifolia</i> DC. var. <i>biternata</i> Makino	コボタンヅル						○	
319 <i>Clematis japonica</i> Thunb.	ハンショウヅル	○	○	○	○	○	○	
320 <i>Clematis patens</i> Morren et Decne.	カザグルマ			○				環境省：絶滅危惧Ⅱ類 茨城県：危急種
321 <i>Clematis terniflora</i> DC.	センニンソウ	○	○	○			○	
322 <i>Isopyrum trachyspermum</i> Maxim.	トウゴクサバナノオ	○	○	○				
323 <i>Ranunculus cantoniensis</i> DC.	ケキツネノボタン	○	○	○			○	
324 <i>Ranunculus japonicus</i> Thunb.	ウマノアシガタ	○	○	○	○	○	○	
325 <i>Ranunculus quelpaertensis</i> Nakai	ヤマキツネノボタン					○	○	
326 <i>Ranunculus silerifolius</i> Le'v.	キツネノボタン			○		○		
327 <i>Thalictrum minus</i> Linn. var. <i>hypoleucum</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.	アキカラマツ	○	○	○	○	○	○	
328 <i>Thalictrum tuberiferum</i> Maxim.	ミヤマカラマツ			○		○	○	
Berberidaceae		メギ科						
329 <i>Berberis thunbergii</i> DC.	メギ		○	○	○			
330 <i>Caulophyllum robustum</i> Maxim.	ルイヨウボタン	○	○	○	○	○	○	
331 <i>Epimedium grandiflorum</i> Morr. var. <i>thunbergianum</i> (Miq.) Nakai	イカリソウ			○	○	○	○	
332 <i>Mahonia japonica</i> DC.	ヒイラギナンテン		○					逸出
333 <i>Nandina domestica</i> Thunb.	ナンテン					○	○	逸出
Lardiabalaceae		アケビ科						
334 <i>Akebia quinata</i> (Thunb.) Decne.	アケビ	○	○	○	○	○	○	
335 <i>Akebia trifoliata</i> (Thunb.) Koidz.	ミツバアケビ	○	○	○	○	○	○	
336 <i>Stauntonia hexaphylla</i> (Thunb.) Decne.	ムベ			○				
Menispermaceae		ツヅラフジ科						
337 <i>Cocculus orbiculatus</i> (Thunb.) DC.	アオツヅラフジ	○	○	○	○	○	○	
338 <i>Menispermum dauricum</i> DC.	コウモリカズラ				○			茨城県：危急種
339 <i>Sinomenium acutum</i> (Thunb.) Rehd. et Wils.	ツヅラフジ			○				
Saururaceae		ドクダミ科						

植 物

学 名	和 名	海	鍋	久	鷲	花	八	備 考
		岸	足	慈	子	瓶	溝	
		1	2	3	4	5	6	
340 <i>Houttuynia cordata</i> Thunb.	ドクダミ	○	○	○	○	○	○	
Chloranthaceae センリョウ科								
341 <i>Chloranthus japonicus</i> Sieb.	ヒトリシズカ		○	○	○	○	○	
342 <i>Chloranthus serratus</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	フタリシズカ		○	○	○	○	○	
Aristolochiaceae ウマノスズクサ科								
343 <i>Aristolochia debilis</i> Sieb. et Zucc.	ウマノスズクサ			○				
344 <i>Aristolochia kaempferi</i> Willd.	オオバウマノスズクサ			○				茨城県：希少種
345 <i>Asarum caulescens</i> Maxim.	フタバアオイ		○	○	○	○	○	
346 <i>Asiasarum sieboldii</i> (Miq.) F. Maekawa	ウスバサイシン		○	○	○		○	
Actinidiaceae マタタビ科								
347 <i>Actinidia arguta</i> (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.	サルナシ		○	○	○	○	○	
348 <i>Actinidia chinensis</i> Planch.	オニマタタビ			○			○	逸出
349 <i>Actinidia polygama</i> (Sieb. et Zucc.) Planch. et Maxim.	マタタビ		○	○	○	○	○	
Theaceae ツバキ科								
350 <i>Camellia japonica</i> Linn.	ヤブツバキ		○	○	○		○	
351 <i>Cleyera japonica</i> Thunb.	サカキ			○				
352 <i>Eurya japonica</i> Thunb.	ヒサカキ		○	○	○		○	
353 <i>Stewartia pseudo-camellia</i> Maxim.	ナツツバキ				○	○		
354 <i>Thea sinensis</i> Linn.	チャノキ			○	○	○	○	逸出
Guttiferae オトギリソウ科								
355 <i>Hypericum ascyron</i> Linn.	トモエソウ			○			○	
356 <i>Hypericum erectum</i> Thunb.	オトギリソウ		○	○	○	○	○	
357 <i>Sarothra laxum</i> (Blume) Y. Kimura	コケオトギリ				○	○	○	
358 <i>Triadenum japonicum</i> (Blume) Makino	ミスオトギリ				○			
Droseraceae モウセンゴケ科								
359 <i>Drosera rotundifolia</i> Linn.	モウセンゴケ			○				
Papaveraceae ケシ科								
360 <i>Chelidonium japonicum</i> Thunb.	ヤマフキソウ			○			○	茨城県：希少種
361 <i>Chelidonium japonicum</i> Thunb. form. <i>lanceolatum</i> (Yatabe) Ohwi	ホソバヤマフキソウ			○				
362 <i>Chelidonium majus</i> Linn. var. <i>asiaticum</i> (Hara) Ohwi	クサノオウ		○	○	○			
363 <i>Corydalis decumbens</i> (Thunb.) Pers.	ジロボウエンゴサク				○	○	○	
364 <i>Corydalis incisa</i> (Thunb.) Pers.	ムラサキケマン		○	○	○	○	○	
365 <i>Corydalis lineariloba</i> Sieb. et Zucc.	ヤマエンゴサク		○	○	○	○	○	
366 <i>Corydalis pallida</i> (Thunb.) Pers. var. <i>tenuis</i> Yatabe	ミヤマキケマン				○	○	○	
367 <i>Corydalis raddeana</i> Regel	ナガミノツルキケマン		○			○	○	環境省：準絶滅危惧種
368 <i>Macleyana cordata</i> (Willd.) R. Br.	タケニクサ		○	○	○	○	○	
369 <i>Macleyana cordata</i> (Willd.) R. Br. var. <i>thunbergii</i> (Miq.) Miq.	ケナシチャンバギク					○	○	
Cruciferae アブラナ科								
370 <i>Arabis gemmifera</i> (Matsum.) Makino	ハクサンハタザオ			○				
371 <i>Arabis glabra</i> (Linn.) Bernh.	ハタザオ		○					
372 <i>Arabis hirsuta</i> (Linn.) Scop.	ヤマハタザオ		○	○	○	○	○	
373 <i>Arabis serrata</i> Franch. et Savat. var. <i>japonica</i> (H. Boiss.) Ohwi	イワハタザオ			○				
374 <i>Barbarea vulgaris</i> R. Br.	ハルザキヤマガラシ		○				○	
375 <i>Cakile edentula</i> Hook.	オニハマダイコン		○					
376 <i>Capsella bursa-pastoris</i> (Linn.) Medic.	ナズナ		○	○	○	○	○	
377 <i>Cardamine fallax</i> Nakai	タチタネツケバナ			○				
378 <i>Cardamine flexuosa</i> With.	タネツケバナ		○	○	○	○	○	
379 <i>Cardamine hirsuta</i> Linn.	ミチタネツケバナ		○	○			○	
380 <i>Cardamine impatiens</i> Linn.	ジャニンジン				○			
381 <i>Cardamine leucantha</i> (Tausch) O. E. Schulz	コンロンソウ				○		○	
382 <i>Cardamine scutata</i> Thunb.	オオバタネツケバナ		○	○	○	○	○	
383 <i>Cardamine tanakae</i> Franch. et Savat.	マルバコンロンソウ			○	○	○	○	
384 <i>Dontostemon dentatus</i> (Bunge) Ledeb.	ハナハタザオ		○					環境省：絶滅危惧 I A 類, 茨城県：絶滅危惧種
385 <i>Draba nemorosa</i> Linn.	イヌナズナ		○	○	○	○	○	
386 <i>Lepidium virginicum</i> Linn.	マメグンバイナズナ		○	○	○	○		
387 <i>Lunaria annua</i> Linn.	ゴウダンソウ		○					逸出
388 <i>Matthiola incana</i> (L.) R. Br.	アラセイトウ		○				○	逸出
389 <i>Nasturtium officinale</i> R. Br.	オランダガラシ		○				○	逸出
390 <i>Rorippa dubia</i> (Pers.) Hara	ミチバタガラシ		○					
391 <i>Rorippa indica</i> (Linn.) Hochr.	イヌガラシ		○	○	○	○	○	
392 <i>Wasabia japonica</i> (Miq.) Matsum.	ワサビ				○	○	○	逸出
393 <i>Wasabia tenuis</i> (Miq.) Matsum.	ユリワサビ		○	○	○	○	○	
Hamamelidaceae マンサク科								
394 <i>Hamamelis japonica</i> Sieb. et Zucc. var. <i>megalophylla</i> (Koidz.) Kitam.	オオバマンサク			○	○	○	○	
Crassulaceae ベンケイソウ科								
395 <i>Orostachys malacophyllus</i> (Pall.) Fisch.	アオノイワレンゲ				○			茨城県：危急種
396 <i>Penthorum chinense</i> Pursh	タコノアシ				○			環境省：絶滅危惧 II 類, 茨城県：希少種
397 <i>Sedum bulbiferum</i> Makino	コモチマンネングサ		○	○	○		○	
398 <i>Sedum kamschaticum</i> Fisch.	キリンソウ		○	○	○			
399 <i>Sedum makinoides</i> Maxim.	マルバマンネングサ			○	○			
400 <i>Sedum sarmentosum</i> Bunge	ツルマンネングサ				○	○	○	
401 <i>Sedum sordidum</i> Maxim.	オオチツバベンケイ				○			環境省：絶滅危惧 I B 類, 茨城県：危急種
402 <i>Sedum subtile</i> Miq.	ヒメレンゲ			○	○			茨城県：危急種
403 <i>Sedum verticillatum</i> Linn.	ミツバベンケイソウ		○	○				
Saxifragaceae ユキノシタ科								
404 <i>Astilbe microphylla</i> Knoll	チダケサシ		○	○	○	○	○	
405 <i>Astilbe odontophylla</i> Miq.	トリアシショウマ		○	○	○	○	○	
406 <i>Astilbe thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.	アカショウマ		○	○	○	○	○	
407 <i>Cardiandra alternifolia</i> Sieb. et Zucc.	クサアジサイ		○	○	○	○	○	
408 <i>Chrysosplenium album</i> Maxim. var. <i>stamineum</i> (Franch. et Savat.) Hara	ハナネコノメ				○		○	
409 <i>Chrysosplenium echinus</i> Maxim.	イワネコノメソウ					○	○	



学名	和名	海岸	鍋足山	久慈山地	鷲子山	花瓶山	八溝山	備考
		1	2	3	4	5	6	
410 <i>Chrysosplenium flagelliferum</i> Fr. Schm.	ツルネコノメソウ		○	○		○	○	
411 <i>Chrysosplenium grayanum</i> Maxim.	ネコノメソウ		○	○	○	○	○	
412 <i>Chrysosplenium japonicum</i> (Maxim.) Makino	ヤマネコノメソウ		○	○	○	○	○	
413 <i>Chrysosplenium macrostemon</i> Maxim. var. <i>atrandrum</i> Hara	ヨゴレネコノメ		○	○	○	○	○	
414 <i>Chrysosplenium maximowiczii</i> Franch. et Savat.	ムカゴネコノメ		○	○	○			環境省：準絶滅危惧種
415 <i>Deutzia crenata</i> Sieb. et Zucc.	ウツギ	○	○	○	○	○	○	
416 <i>Deutzia crenata</i> Sieb. et Zucc. var. <i>heterotricha</i> (Rehd.) Hara	ビロードウツギ			○				
417 <i>Deutzia gracilis</i> Sieb. et Zucc.	ヒメウツギ		○	○	○	○	○	
418 <i>Hydrangea hirta</i> (Thunb. ex Murray) Sieb.	コアジサイ		○	○	○	○	○	
419 <i>Hydrangea involucrata</i> Sieb.	タマアジサイ		○	○	○	○	○	
420 <i>Hydrangea macrorhyla</i> (Thunb.) Ser. var. <i>acuminata</i> (Sieb. et Zucc.) Makino	ヤマアジサイ		○	○	○	○	○	
421 <i>Hydrangea paniculata</i> Sieb.	ノリウツギ		○	○	○	○	○	
422 <i>Hydrangea petiolaris</i> Sieb. et Zucc.	ツルアジサイ			○		○	○	
423 <i>Mitella pauciflora</i> Rosend.	コチャルメルソウ		○				○	
424 <i>Parnassia palustris</i> Linn. var. <i>multisetata</i> Ledeb.	ウメバチソウ			○				
425 <i>Peltoboykinia tellimoides</i> (Maxim.) Hara	ヤワタソウ					○		茨城県：危急種
426 <i>Philadelphus satsumi</i> Sieb. ex Lindl. et Paxton form. <i>nikoensis</i> (Rehd.) Ohwi	ケバイカウツギ			○				
427 <i>Ribes ambiguum</i> Maxim.	ヤシヤビシヤク						○	環境省：絶滅危惧Ⅱ類, 茨城県：絶滅危惧種
428 <i>Saxifraga fortunei</i> Hook. fil. var. <i>incislobata</i> (Engler et Irmisch.) Nakai	ダイモンジソウ		○	○				
429 <i>Saxifraga stolonifera</i> Curtis	ユキノシタ		○	○	○		○	
430 <i>Schizophragma hydrangeoides</i> Sieb. et Zucc.	イワガラミ		○	○	○	○	○	
Pittosporaceae								
431 <i>Pittosporum tobira</i> (Thunb.) Ait.	トベラ科		○					
Rosaceae								
バラ科								
432 <i>Agrimonia japonica</i> (Miq.) Koidz.	キンミズヒキ		○	○	○	○	○	
433 <i>Agrimonia nipponica</i> Koidz.	ヒメキンミズヒキ		○	○	○	○	○	
434 <i>Arunco dioicus</i> (Walt.) Fernald var. <i>tenuifolius</i> (Maxim.) Hara	ヤマブキシヨウマ					○	○	
435 <i>Chaenomeles japonica</i> (Thunb.) Lindl. ex Spach	クサボケ		○		○			
436 <i>Duchesnea chrysantha</i> (Zoll. et Mor.) Miq.	ヘビイチゴ		○	○	○	○	○	
437 <i>Duchesnea indica</i> (Andr.) Focke	ヤブヘビイチゴ		○	○	○	○	○	
438 <i>Geum japonicum</i> Thunb.	ダイコンソウ		○	○	○	○	○	
439 <i>Kerria japonica</i> (Linn.) DC.	ヤマブキ		○	○	○	○	○	
440 <i>Malus toringo</i> (Sieb.) Sieb. ex Vriese	ズミ		○	○				
441 <i>Malus tschonoskii</i> C. K. Schn.	オオウラジロノキ				○	○	○	
442 <i>Potentilla centigrana</i> Maxim. form. <i>patens</i> Hiyama	タチゲヒメヘビイチゴ		○	○	○	○	○	
443 <i>Potentilla chinensis</i> Ser.	カワラサイコ		○					
444 <i>Potentilla cryptotaeniae</i> Maxim. var. <i>insularis</i> Kitagawa	ミツモトソウ		○	○	○	○	○	
445 <i>Potentilla fragarioides</i> Linn. var. <i>major</i> Maxim.	キジムシロ		○	○		○	○	
446 <i>Potentilla freymiana</i> Bornm.	ミツバツチグリ		○	○	○	○	○	
447 <i>Potentilla kleiniana</i> Wight. et Arnott	オヘビイチゴ		○	○	○	○	○	
448 <i>Potentilla yokusaiana</i> Makino	ツルキンバイ			○	○	○	○	
449 <i>Pourthiaea villosa</i> (Thunb.) Decne. var. <i>zollingeri</i> (Decne.) Nakai	ケカマツカ		○	○	○	○	○	
450 <i>Prunus apetala</i> (Sieb. et Zucc.) Franch. et Savat.	チョウジザクラ		○					
451 <i>Prunus buergeriana</i> Miq.	イヌザクラ		○	○			○	
452 <i>Prunus grayana</i> Maxim.	ウワミズザクラ		○	○	○	○	○	
453 <i>Prunus jamasakura</i> Sieb. ex Koidz.	ヤマザクラ		○	○	○	○	○	
454 <i>Prunus lannesiana</i> (Carr.) Wils. var. <i>speciosa</i> (Koidz.) Makino	オオシマザクラ		○	○	○			逸出
455 <i>Prunus pendula</i> Maxim. form. <i>ascendens</i> (Makino) Ohwi	エドヒガン			○				
456 <i>Prunus spinulosa</i> Sieb. et Zucc.	リンボク			○				茨城県：希少種
457 <i>Prunus verecunda</i> (Koidz.) Koehne	カスミザクラ		○	○	○		○	
458 <i>Pyrus pyrifolia</i> (Burm. fil.) Nakai	ヤマナシ			○				
459 <i>Rhaphiolepis umbellata</i> (Thunb.) Makino var. <i>ovata</i> (Briot) Schneid.	マルバシヤリンバイ		○					
460 <i>Rosa multiflora</i> Thunb.	ノイバラ		○	○	○	○	○	
461 <i>Rosa rugosa</i> Thunb.	ハマナス		○					逸出
462 <i>Rosa wichuriana</i> Crep.	テリハノイバラ		○	○			○	
463 <i>Rubus buergeri</i> Miq.	フユイチゴ			○				
464 <i>Rubus crataegifolius</i> Bunge	クマイチゴ			○	○	○	○	
465 <i>Rubus hakonensis</i> Franch. et Savat.	ミヤマフユイチゴ				○	○		
466 <i>Rubus hirsutus</i> Thunb.	クサイチゴ		○	○	○		○	
467 <i>Rubus microphyllus</i> Linn. fil.	ニガイチゴ			○	○	○	○	
468 <i>Rubus palmatus</i> Thunb.	ナガバモミジイチゴ		○					逸出
469 <i>Rubus palmatus</i> Thunb. var. <i>coptophyllus</i> (A. Gray) O. Kuntze	モミジイチゴ		○	○	○	○	○	
470 <i>Rubus parvifolius</i> Linn.	ナワシロイチゴ		○	○	○	○	○	
471 <i>Rubus phoenicolasius</i> Maxim.	エビガライチゴ		○	○	○	○	○	
472 <i>Rubus trifidus</i> Thunb.	カジイチゴ		○					
473 <i>Sanguisorba officinalis</i> Linn. var. <i>carnea</i> (Fisch.) Regel	ワレモコウ		○	○	○		○	
474 <i>Sanguisorba officinalis</i> Linn. var. <i>pilosella</i> Ohwi	ウラゲワレモコウ		○					
475 <i>Sorbus alnifolia</i> (Sieb. et Zucc.) C. Koch	アズキナシ			○	○	○	○	
476 <i>Sorbus gracilis</i> (Sieb. et Zucc.) C. Koch	ナンキンナナカマド			○		○	○	茨城県：希少種
477 <i>Sorbus japonica</i> (Decne.) Hedlund	ウラジロノキ		○	○	○	○	○	
478 <i>Spiraea japonica</i> Linn. fil.	シモツケ			○	○			
479 <i>Spiraea nipponica</i> Maxim.	イワシモツケ			○				
480 <i>Spiraea thunbergii</i> Sieb.	ユキヤナギ			○				
481 <i>Spiraea ussuriensis</i> A. Pojark.	アイズシモツケ			○				
482 <i>Stephanandra incisa</i> (Thunb.) Zabel	コゴメウツギ		○	○	○	○	○	
Leguminosae								
マメ科								
483 <i>Aeschynomene indica</i> Linn.	クサネム			○				
484 <i>Albizia julibrissin</i> Durazz.	ネムノキ		○	○	○	○	○	
485 <i>Amorpha fruticosa</i> Linn.	イタチハギ		○	○	○	○	○	逸出
486 <i>Amphicarpa bracteata</i> (Linn.) Fernald subsp. <i>edgeworthii</i> (Benth.) Ohashi var. <i>japonica</i> (Oliver) Ohashi	ヤブマメ		○	○	○	○	○	
487 <i>Apios fortunei</i> Maxim.	ホドイモ		○	○	○	○	○	

植 物

学 名	和 名	海	鍋	久	鷺	花	八	備考
		岸	足	慈	子	瓶	溝	
		1	2	3	4	5	6	
488 <i>Astragalus sinicus</i> Linn.	ゲンゲ			○				
489 <i>Caesalpinia japonica</i> Sieb. et Zucc.	ジャケツイバラ		○	○		○		
490 <i>Cladrastis platycarpa</i> (Maxim.) Makino	フジキ			○				
491 <i>Desmodium podocarpum</i> DC. subsp. <i>podocarpum</i>	マルバヌスビトハギ			○				
492 <i>Desmodium fallax</i> Schindl.	ケヤブハギ			○				
493 <i>Desmodium mandshuricum</i> (Maxim.) Schindl.	ヤブハギ		○	○				
494 <i>Desmodium oldhamii</i> Oliv.	フジカンゾウ		○	○	○	○	○	
495 <i>Desmodium oxyphyllum</i> DC.	ヌスビトハギ		○	○	○	○	○	
496 <i>Desmodium paniculatum</i> (Linn.) DC.	アレチヌスビトハギ		○	○	○	○	○	
497 <i>Dumasia truncata</i> Sieb. et Zucc.	ノササゲ		○	○		○	○	
498 <i>Dunbaria villosa</i> (Thunb.) Makino	ノアズキ		○	○				
499 <i>Euchresta japonica</i> Hook. fil. ex Regel	ミヤマトベラ			○				茨城県：危急種
500 <i>Gleditsia japonica</i> Miq.	サイカチ			○				
501 <i>Glycine max</i> (Linn.) Merr. subsp. <i>soja</i> (Sieb. et Zucc.) Ohashi	ツルマメ		○	○		○	○	
502 <i>Indigofera pseudotinctoria</i> Matsumura	コマツナギ		○	○	○	○	○	
503 <i>Indigofera tinctoria</i> Linn.	タイワンコマツナギ				○			
504 <i>Kummerowia stipulacea</i> (Maxim.) Makino	マルバヤハズソウ		○					
505 <i>Kummerowia striata</i> (Thunb.) Hook. et Arn.	ヤハズソウ		○	○	○		○	
506 <i>Lathyrus japonicus</i> Willd.	ハマエンドウ		○					
507 <i>Lespedeza bicolor</i> Turcz. form. <i>actifolia</i> Matsum.	ヤマハギ		○	○	○	○	○	
508 <i>Lespedeza buergeri</i> Miq.	キハギ			○	○		○	
509 <i>Lespedeza buergeri</i> Miq. form. <i>angustifolia</i> Makino	タチゲキハギ			○				
510 <i>Lespedeza cuneata</i> (Du Mont. d. Cours.) G. Don	メドハギ		○	○	○		○	
511 <i>Lespedeza cyrtobotrya</i> Miq.	マルバハギ		○	○				
512 <i>Lespedeza homoloba</i> Nakai	ツクシハギ		○	○	○	○	○	
513 <i>Lespedeza pilosa</i> (Thunb.) Sieb. et Zucc.	ネコハギ		○	○	○		○	
514 <i>Lespedeza serpens</i> Nakai	ハイメドハギ		○					
515 <i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Sieb. ex Maxim.	イヌハギ		○					環境省：絶滅危惧Ⅱ類，茨城県：危急種
516 <i>Lespedeza virgata</i> (Thunb.) DC.	マキエハギ			○				
517 <i>Lotus corniculatus</i> Linn. var. <i>japonicus</i> Regel	ミヤコグサ		○	○	○			
518 <i>Lotus uliginosus</i> Schkuhr	ネビキミヤコグサ		○					
519 <i>Maackia amurensis</i> Rupr. et Maxim. var. <i>buergeri</i> (Maxim.) C. K. Schneid.	イヌエンジュ			○	○	○		
520 <i>Pueraria lobata</i> (Willd.) Ohwi	クズ		○	○	○	○	○	
521 <i>Rhynchosia acuminatifolia</i> Makino	オオバタンキリマメ		○	○	○		○	
522 <i>Robinia pseudo-acacia</i> Linn.	ハリエンジュ		○	○	○	○	○	
523 <i>Trifolium campestre</i> Schreb.	クスダマツメクサ		○					
524 <i>Trifolium dubium</i> Sibth.	コメツブツメクサ		○					
525 <i>Trifolium pratense</i> Linn.	ムラサキツメクサ		○	○	○		○	
526 <i>Trifolium repens</i> Linn.	シロツメクサ		○	○	○	○	○	
527 <i>Vicia amoena</i> Fisch.	ツルフジバカマ		○	○				
528 <i>Vicia angustifolia</i> Linn.	ヤハズエンドウ		○	○	○		○	
529 <i>Vicia bifolia</i> Nakai	ミヤマタニワタシ			○	○		○	
530 <i>Vicia hirsuta</i> (Linn.) S. F. Gray	スズメノエンドウ				○		○	
531 <i>Vicia nipponica</i> Matsum.	ヨツバハギ						○	
532 <i>Vicia pseudoorobus</i> Fish. et Mey.	オオバクサフジ						○	
533 <i>Vicia tetrasperma</i> (Linn.) Schreb.	カスマグサ		○	○	○		○	
534 <i>Vicia unijuga</i> A. Br.	ナンテンハギ			○	○			
535 <i>Vigna angularis</i> (Willd.) Ohwi et Ohashi var. <i>nipponensis</i> (Ohwi) Ohwi et Ohashi	ヤブツルアズキ				○	○		
536 <i>Wisteria floribunda</i> (Willd.) DC.	フジ		○	○	○	○	○	
Oxalidaceae		カタバミ科						
537 <i>Oxalis corniculata</i> Linn.	カタバミ		○	○	○		○	
538 <i>Oxalis corymbosa</i> DC.	ムラサキカタバミ			○				
539 <i>Oxalis fontana</i> Bunge	エゾタチカタバミ				○			
540 <i>Oxalis griffithii</i> Edgew. et Hook. fil.	ミヤマカタバミ					○		
541 <i>Oxalis stricta</i> Linn.	オッタチカタバミ		○					
Geraniaceae		フウロソウ科						
542 <i>Geranium krameri</i> Franch. et Savat.	タチフウロ		○					
543 <i>Geranium thunbergii</i> Sieb. et Zucc.	ゲンノショウコ		○	○	○	○	○	
544 <i>Geranium tripartitum</i> R. Knuth	コフウロ		○				○	
Linaceae		アマ科						
545 <i>Linum virginianum</i> Linn.	キバナノマツバニンジン		○		○			
Euphorbiaceae		トウダイグサ科						
546 <i>Acalypha australis</i> Linn.	エノキグサ			○	○	○	○	
547 <i>Euphorbia helioscopia</i> Linn.	トウダイグサ				○			
548 <i>Euphorbia maculata</i> Linn.	オオニシキソウ		○	○			○	
549 <i>Euphorbia pekinensis</i> Rupr.	タカトウダイ		○	○	○		○	
550 <i>Euphorbia supina</i> Rafin.	コニシキソウ		○	○			○	
551 <i>Mallotus japonicus</i> (Thunb. ex Murray) Muell. -Arg.	アカメガシワ		○	○	○	○	○	
552 <i>Phyllanthus matsumurae</i> Hayata	ヒメミカンソウ				○			
553 <i>Sapium japonicum</i> (Sieb. et Zucc.) Pax et Hoffm.	シラキ			○	○	○	○	
Daphniphyllaceae		ユズリハ科						
554 <i>Daphniphyllum macropodium</i> Miq.	ユズリハ		○		○			
Rutaceae		ミカン科						
555 <i>Boenninghausenia japonica</i> Nakai	マツカゼソウ			○	○	○	○	
556 <i>Oriza japonica</i> Thunb.	コクサギ			○	○	○	○	
557 <i>Phellodendron amurense</i> Rupr.	キハダ			○	○		○	
558 <i>Skimmia japonica</i> Thunb.	ミヤマシキミ			○	○	○		
559 <i>Skimmia japonica</i> Thunb. form. <i>rugosa</i> (Yatabe) Ohwi	ウチダシミヤマシキミ			○	○			
560 <i>Zanthoxylum ailanthoides</i> Sieb. et Zucc.	カラスザンショウ			○	○	○	○	
561 <i>Zanthoxylum armatum</i> DC. var. <i>subtrifoliatum</i> (Franch.) Kitam.	フユザンショウ				○	○	○	
562 <i>Zanthoxylum piperitum</i> (Linn.) DC.	サンショウ			○	○	○	○	

学名	和名	海岸	鍋足山	久慈山地	鷲子山	花瓶山	八溝山	備考
		1	2	3	4	5	6	
563 <i>Zanthoxylum schinifolium</i> Sieb. et Zucc.	イヌザンショウ	○	○	○		○	○	
Simaroubaceae								
564 <i>Picrasma quassioides</i> (D. Don) Benn. var. <i>glabrescens</i> Pamp.	ニガキ	○	○	○			○	
Polygalaceae								
565 <i>Polygala japonica</i> Houtt.	ヒメハギ科		○	○			○	
Coriariaceae								
566 <i>Coriaria japonica</i> A. Gray	ドクウツギ	○						
Anacardiaceae								
567 <i>Rhus ambigua</i> L'Avall'e ex Dippel	ツタウルシ	○	○	○	○		○	
568 <i>Rhus javanica</i> Linn. var. <i>roxburgii</i> (DC.) Rehder et Wils.	ヌルデ	○	○	○		○	○	
569 <i>Rhus trichocarpa</i> Miq.	ヤマウルシ	○	○	○	○	○	○	
570 <i>Rhus verniciflua</i> Stokes	ウルシ			○				逸出
Aceraceae								
571 <i>Acer argutum</i> Maxim.	アサノハカエデ						○	
572 <i>Acer carpinifolium</i> Sieb. et Zucc.	チドリノキ		○	○	○	○	○	
573 <i>Acer cissifolium</i> (Sieb. et Zucc.) K. Koch	ミツデカエデ	○	○	○	○	○	○	
574 <i>Acer crataegifolium</i> Sieb. et Zucc.	ウリカエデ	○	○	○	○	○	○	
575 <i>Acer diabolicum</i> Blume ex Koch	カジカエデ						○	
576 <i>Acer distylum</i> Sieb. et Zucc.	ヒトツバカエデ			○	○	○	○	
577 <i>Acer japonicum</i> Thunb.	ハウチワカエデ						○	○
578 <i>Acer micranthum</i> Sieb. et Zucc.	コミネカエデ						○	○
579 <i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>ambiguum</i> (Pax) Rehd.	オニイタヤ		○	○	○	○	○	○
580 <i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>convivens</i> (Nichols.) Hara	ウラゲエンコウカエデ		○	○			○	
581 <i>Acer mono</i> Maxim. var. <i>marmoratum</i> (Nichols.) Hara form. <i>dissectum</i> (Wesmae) Rehder	イタヤカエデ		○	○	○	○	○	○
582 <i>Acer nikoense</i> Maxim.	メグスリノキ			○	○			
583 <i>Acer palmatum</i> Thunb.	イロハモミジ		○	○	○	○	○	○
584 <i>Acer palmatum</i> Thunb. var. <i>amoenum</i> (Carr.) Ohwi	オオモミジ		○	○	○	○	○	○
585 <i>Acer rufinerve</i> Sieb. et Zucc.	ウリハダカエデ		○	○	○	○	○	○
586 <i>Acer shirasawanum</i> Koidz.	オオイタヤメイゲツ							○
587 <i>Acer sieboldianum</i> Miq.	コハウチワカエデ		○	○	○	○	○	○
588 <i>Acer tenuifolium</i> (Koidz.) Koidz.	ヒナウチワカエデ			○	○	○	○	○
Sapindaceae								
589 <i>Sapindus mukorossi</i> Gaerth.	ムクロジ科			○				
Sabiaceae								
590 <i>Meliosma myriantha</i> Sieb. et Zucc.	アワブキ		○	○	○	○	○	
591 <i>Meliosma tenuis</i> Maxim.	ミヤマハハソ			○				
Balsaminaceae								
592 <i>Impatiens noli-tangere</i> Linn.	キツリフネ		○	○	○	○	○	○
593 <i>Impatiens textori</i> Miq.	ツリフネソウ	○	○	○	○	○	○	○
594 <i>Impatiens textori</i> Miq. form. <i>pallidescens</i> Hara	チョウセンツリフネ							○
Aquifoliaceae								
595 <i>Ilex crenata</i> Thunb.	イヌツゲ	○	○	○	○	○	○	○
596 <i>Ilex integra</i> Thunb.	モチノキ	○		○				
597 <i>Ilex macropoda</i> Miq.	アオハダ		○	○	○	○	○	○
598 <i>Ilex serrata</i> Thunb.	ウメモドキ		○	○		○	○	
Celastraceae								
599 <i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb.	ツルウメモドキ	○	○	○			○	
600 <i>Euonymus alatus</i> (Thunb.) Sieb.	ニシキギ	○	○	○				
601 <i>Euonymus alatus</i> (Thunb.) Sieb. form. <i>ciliato-dentatus</i> Hiyama	コマユミ	○	○	○			○	○
602 <i>Euonymus fortunei</i> (Turcz.) Hand.-Mazz. var. <i>radicans</i> (Sieb. ex Miq.) Rehd.	ツルマサキ	○	○	○	○	○	○	○
603 <i>Euonymus japonicus</i> Thunb.	マサキ	○						
604 <i>Euonymus oxyphyllus</i> Miq.	ツリバナ		○	○	○	○	○	○
605 <i>Euonymus sieboldianus</i> Blume	マユミ	○	○	○	○	○	○	○
Staphyleaceae								
606 <i>Euscaphis japonica</i> (Thunb.) Kanitz	ゴンズイ				○			
607 <i>Staphylea bumalda</i> (Thunb.) DC.	ミツバウツギ		○	○	○	○	○	
Rhamnaceae								
608 <i>Berberis racemosa</i> Sieb. et Zucc.	クマヤナギ		○	○			○	
609 <i>Hovenia dulcis</i> Thunb.	ケンボナシ			○	○		○	
610 <i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decipiens</i> Maxim.	クロウメモドキ	○	○	○			○	
Vitaceae								
611 <i>Ampelopsis brevipedunculata</i> (Maxim.) Trautv. var. <i>heterophylla</i> (Thunb.) Hara	ノブドウ	○	○	○	○	○	○	○
612 <i>Cayratia japonica</i> (Thunb.) Gagn.	ヤブガラシ	○	○	○				
613 <i>Parthenocissus tricuspidata</i> (Sieb. et Zucc.) Planch.	ツタ	○	○	○	○	○	○	○
614 <i>Vitis coignetiae</i> Pulliat	ヤマブドウ							○
615 <i>Vitis ficifolia</i> Bunge var. <i>lobata</i> (Regel) Nakai	エビヅル	○	○	○	○	○	○	○
616 <i>Vitis flexuosa</i> Thunb.	サンカクヅル		○	○	○	○	○	○
Tiliaceae								
617 <i>Corchoropsis tomentosa</i> (Thunb.) Makino	カラスノゴマ		○	○	○	○	○	
Thymelaeaceae								
618 <i>Daphne pseudo-mezereum</i> A. Gray	オニシバリ	○						
619 <i>Edgeworthia chrysantha</i> Lindl.	ミツマタ		○	○	○			逸出
Elaeagnaceae								
620 <i>Elaeagnus glabra</i> Thunb.	ツルグミ		○	○				
621 <i>Elaeagnus macrophylla</i> Thunb.	マルバグミ		○					
622 <i>Elaeagnus multiflora</i> Thunb.	ナツグミ		○	○	○			
623 <i>Elaeagnus nikoensis</i> Nakai ex Hara	ニッコウナツグミ			○				○
624 <i>Elaeagnus pungens</i> Thunb.	ナワシログミ	○						逸出
625 <i>Elaeagnus umbellata</i> Thunb.	アキグミ	○	○					
626 <i>Elaeagnus umbellata</i> Thunb. var. <i>rotundifolia</i> Makino	マルバアキグミ	○						
Flacourtiaceae								
	イイギリ科							

植 物

学 名	和 名	海	鍋	久	鷺	花	八	備考
		岸	足	慈	子	瓶	溝	
		1	2	3	4	5	6	
627 <i>Idesia polycarpa</i> Maxim.	イイギリ				○	○	○	
Violaceae								
628 <i>Viola eizanensis</i> Makino	エイザンスミレ		○	○	○	○	○	
629 <i>Viola grypoceras</i> A. Gray	タチツボスミレ	○	○	○	○	○	○	
630 <i>Viola grypoceras</i> A. Gray var. <i>pubescens</i> Nakai	ケタチツボスミレ						○	
631 <i>Viola grypoceras</i> A. Gray form. <i>albiflora</i> Makino	シロバナタチツボスミレ			○				
632 <i>Viola hirtipes</i> S. Moore	サクラスミレ						○	
633 <i>Viola hondoensis</i> W. Becker et H. Boiss.	アオイスミレ		○	○	○		○	
634 <i>Viola japonica</i> Langsd. ex Gingins	コスミレ				○			
635 <i>Viola keiskei</i> Miq. form. <i>okuboi</i> (Makino) F. Maekawa	ケマルバスミレ		○	○	○	○	○	
636 <i>Viola makinoi</i> H. Boiss.	マキノスミレ		○	○	○	○		
637 <i>Viola mandshurica</i> W. Becker	スミレ		○	○			○	
638 <i>Viola maximowicziana</i> Makino	コミヤマスミレ			○	○			
639 <i>Viola obtusa</i> (Makino) Makino	ニオイタチツボスミレ	○	○	○	○		○	
640 <i>Viola obtusa</i> (Makino) Makino form. <i>nuda</i> (Ohwi) F. Maekawa	ケナシニオイタチツボスミレ						○	
641 <i>Viola phalacrocarpa</i> Maxim.	アカネスミレ		○					
642 <i>Viola phalacrocarpa</i> Maxim. form. <i>glaberrima</i> (W. Beckr.) F. Maekawa	オカスミレ			○			○	
643 <i>Viola rossii</i> Hemsl.	アケボノスミレ		○	○	○	○	○	
644 <i>Viola sieboldi</i> Maxim.	フモトスミレ		○	○	○	○	○	
645 <i>Viola takedana</i> Makino	ヒナスミレ		○	○	○	○	○	
646 <i>Viola verecunda</i> A. Gray	ツボスミレ	○	○	○	○	○	○	
647 <i>Viola verecunda</i> A. Gray var. <i>semilunaris</i> Maxim.	アギスミレ		○	○				
648 <i>Viola yezoensis</i> Maxim.	ヒカゲスミレ		○	○	○		○	
Stachyuraceae								
649 <i>Stachyurus praecox</i> Sieb. et Zucc.	キブシ	○	○	○			○	
Cucurbitaceae								
650 <i>Gynostemma pentaphyllum</i> (Thunb.) Makino	アマチャヅル	○	○	○	○	○	○	
651 <i>Melothria japonica</i> (Thunb.) Maxim.	スズメウリ	○	○	○	○	○	○	
652 <i>Sicyos angulatus</i> Linn.	アレチウリ	○		○			○	
653 <i>Trichosanthes cucumeroides</i> (Ser.) Maxim.	カラスウリ		○	○				
654 <i>Trichosanthes kirilowii</i> Maxim. var. <i>japonica</i> (Miq.) Kitam.	キカラスウリ		○	○	○			
Lythraceae								
655 <i>Ammannia multiflora</i> Roxb.	ヒメミソハギ				○			茨城県：希少種
656 <i>Lythrum anceps</i> (Koehne) Makino	ミソハギ	○					○	
657 <i>Rotala indica</i> (Willd.) Koehne var. <i>uliginosa</i> (Miq.) Koehne	キカシグサ			○	○			
Trapaceae								
658 <i>Trapa japonica</i> Flerov	ヒシ			○				
Onagraceae								
659 <i>Circaea cordata</i> Royle	ウシタキソウ		○	○				
660 <i>Circaea erubescens</i> Franch. et Savat.	タニタデ		○	○	○	○	○	
661 <i>Circaea mollis</i> Sieb. et Zucc.	ミスタマソウ		○	○	○	○	○	
662 <i>Epilobium adenocaulon</i> Hassk.	ノダアカバナ			○				
663 <i>Epilobium pyrricholophum</i> Franch. et Savat.	アカバナ	○	○	○	○	○	○	
664 <i>Ludwigia epilobioides</i> Maxim.	チョウジタデ			○	○			
665 <i>Oenothera biennis</i> Linn.	メマツヨイグサ	○	○	○	○	○	○	
666 <i>Oenothera erythrosepala</i> Borba's	オオマツヨイグサ	○	○	○				
667 <i>Oenothera laciniata</i> Hill	コマツヨイグサ	○						
668 <i>Oenothera laciniata</i> Hill var. <i>grandiflora</i> (S. Watson) B. L. Rob	オオバナコマツヨイグサ	○						
669 <i>Oenothera muricata</i> Linn.	アレチマツヨイグサ	○	○					
Haloragidaceae								
670 <i>Haloragis micrantha</i> (Thunb.) R. Br.	アリノトウグサ	○	○	○	○	○	○	
Atangiaceae								
671 <i>Alangium plataniifolium</i> (Sieb. et Zucc.) Harms var. <i>trilobum</i> (Miq.) Ohwi	ウリノキ		○	○	○	○	○	
Cornaceae								
672 <i>Aucuba japonica</i> Thunb.	アオキ	○	○	○	○	○	○	
673 <i>Benthamidia japonica</i> (Sieb. et Zucc.) Hara	ヤマボウシ		○	○	○	○	○	
674 <i>Helwingia japonica</i> (Thunb.) F. G. Dietr.	ハナイカダ		○	○	○	○	○	
675 <i>Swida controversa</i> (Hemsley ex Prain) Soja'k	ミズキ		○	○	○	○	○	
676 <i>Swida macrophylla</i> (Wall.) Soja'k	クマノミズキ		○	○	○	○	○	
Araliaceae								
677 <i>Acanthopanax sciadophylloides</i> (Franch. et Savat.) Oha	コシアブラ		○	○	○	○	○	
678 <i>Acanthopanax spinosus</i> (Franch. et Savat.) Nakai	ヤマウコギ	○	○	○	○	○	○	
679 <i>Aralia cordata</i> Thunb.	ウド	○	○	○	○	○	○	
680 <i>Aralia elata</i> (Miq.) Seemann	タラノキ	○	○	○	○	○	○	
681 <i>Evodiopanax innovans</i> (Sieb. et Zucc.) Nakai	タカノツメ		○	○	○	○	○	
682 <i>Fatsia japonica</i> (Thunb.) Deene. et Planch.	ヤツデ	○	○	○			○	
683 <i>Hedera rhombea</i> (Miq.) Bean	キツタ	○	○	○			○	
684 <i>Kalopanax pictus</i> (Thunb.) Nakai	ハリギリ		○	○	○	○	○	
685 <i>Panax japonicus</i> C. A. Mey.	トチバニンジン		○	○	○	○	○	
Umbelliferae								
686 <i>Angelica acutiloba</i> (Sieb. et Zucc.) Kitagawa	トウキ			○				茨城県：危急種
687 <i>Angelica decursiva</i> (Miq.) Franch. et Savat.	ノダケ		○	○			○	
688 <i>Angelica inaequalis</i> Maxim.	ハナビゼリ			○				
689 <i>Angelica polymorpha</i> Maxim.	シラネセンキュウ		○	○	○	○	○	
690 <i>Angelica pubescens</i> Maxim.	シシウド						○	
691 <i>Anthriscus sylvestris</i> (Linn.) Hoffm.	シャク			○			○	
692 <i>Bupleurum longiradiatum</i> Turcz. var. <i>elatus</i> (Koso-Polj.) Kitagawa	ホタルサイコ			○				
693 <i>Centella asiatica</i> (Linn.) Urban	ツボクサ	○						
694 <i>Chamaele decumbens</i> (Thunb.) Makino	セントウソウ		○	○	○		○	
695 <i>Cnidium japonicum</i> Miq.	ハマゼリ		○					
696 <i>Cryptotaenia japonica</i> Hassk.	ミツバ	○	○	○	○	○	○	



学名	和名	海岸	鍋足山	久慈山地	鷲子山	花瓶山	八溝山	備考
		1	2	3	4	5	6	
697 <i>Glehnia littoralis</i> Fr. Schm. ex Miq.	ハマボウフウ	○						茨城県：危急種
698 <i>Heracleum nipponicum</i> Kitagawa	ハナウド			○	○			
699 <i>Hydrocotyle javanica</i> Thunb.	オオバチドメ			○				茨城県：希少種
700 <i>Hydrocotyle maritima</i> Honda	ノチドメ	○	○	○	○	○		
701 <i>Hydrocotyle ramiflora</i> Maxim.	オオチドメ	○	○	○		○	○	
702 <i>Hydrocotyle sibthorpioides</i> Lam.	チドメグサ		○			○		
703 <i>Hydrocotyle yabei</i> Makino	ヒメチドメ		○	○	○		○	
704 <i>Ligusticum hultenii</i> Fernald	マルバトウキ	○						茨城県：危急種
705 <i>Oenanthe javanica</i> (Blume) DC.	セリ	○	○	○		○	○	
706 <i>Osmorhiza aristata</i> (Thunb.) Rydberg.	ヤブニンジン			○	○	○	○	
707 <i>Ostericum sieboldii</i> (Miq.) Nakai	ヤマゼリ			○	○	○	○	
708 <i>Sanicula chinensis</i> Bunge	ウマノミツバ			○	○	○	○	
709 <i>Seseli libanotis</i> Koch var. <i>japonica</i> H. Boiss.	イブキボウフウ			○	○			
710 <i>Sium serra</i> (Franch. et Savat.) Kitagawa	タニミツバ				○			
711 <i>Sium sisarum</i> Linn.	ムカゴニンジン				○			
712 <i>Spuriopimpinella calycina</i> (Maxim.) Kitagawa	カノツメソウ			○	○	○	○	
713 <i>Torilis japonica</i> (Houtt.) DC.	ヤブジラミ			○	○	○		
714 <i>Torilis scabra</i> (Thunb.) DC.	オヤブジラミ			○	○			
GAMOPETALAE								
Diapensiaceae								
715 <i>Shortia uniflora</i> (Maxim.) Maxim.	イワウメ科			○	○	○	○	茨城県：危急種
Clethraceae								
716 <i>Clethra barbinervis</i> Sieb. et Zucc.	リョウブ科			○	○	○	○	
Pyrolaceae								
717 <i>Chimaphila japonica</i> Miq.	イチャクソウ科							
718 <i>Chimaphila umbellata</i> (Linn.) W. Barton	ウメガサソウ	○	○	○		○		
719 <i>Monotropa uniflora</i> Linn.	オオウメガサソウ	○						環境省：準絶滅危惧種, 茨城県：絶滅危惧種
720 <i>Monotropastrum globosum</i> H. Andr. ex Hara	ギンリョウソウモドキ			○	○	○	○	
721 <i>Pylora japonica</i> Klénze	ギンリョウソウ			○	○	○	○	
722 <i>Pylora nephrophylla</i> (H. Andres) H. Andres	イチャクソウ	○	○	○	○	○	○	
Ericaceae								
723 <i>Enkianthus campanulatus</i> (Miq.) Nichols.	マルバノイチャクソウ			○	○			
724 <i>Enkianthus subsessilis</i> (Miq.) Makino	ツツジ科							茨城県：絶滅危惧種
725 <i>Lyonia ovalifolia</i> (Wall.) Drude var. <i>elliptica</i> (Sieb. et Zucc.) Hand.-Mazz.	サラサドウダン			○	○	○	○	
726 <i>Pteris japonica</i> (Thunb.) D. Don	アブラツツジ			○	○	○	○	
727 <i>Rhododendron japonicum</i> (A. Gray) Suringer	ネジキ			○	○	○	○	
728 <i>Rhododendron obtusum</i> (Lindl.) Planch. var. <i>kaempferi</i> (Planchon) Wilson	アセビ			○	○	○	○	
729 <i>Rhododendron quinquefolium</i> Bisset et Moore	レンゲツツジ				○	○		
730 <i>Rhododendron semibarbatum</i> Maxim.	ヤマツツジ	○	○	○	○	○	○	
731 <i>Rhododendron wadanum</i> Makino	ゴヨウツツジ			○	○	○	○	
732 <i>Tripetaleia paniculata</i> Sieb. et Zucc.	バイカツツジ			○	○	○	○	
733 <i>Vaccinium hirtum</i> Thunb.	トウゴクミツバツツジ			○	○	○	○	
734 <i>Vaccinium oldhami</i> Miq.	ホツツジ				○	○	○	
Myrsinaceae								
735 <i>Ardisia crenata</i> Sims	ウスノキ			○	○	○	○	
736 <i>Ardisia japonica</i> (Thunb.) Blume	ナツハゼ	○	○	○	○	○	○	
Primulaceae								
737 <i>Lysimachia acroadenia</i> Maxim.	ヤブコウジ科							
738 <i>Lysimachia barystachys</i> Bunge	マンリョウ				○	○		
739 <i>Lysimachia clethroides</i> Duby	ヤブコウジ	○	○	○	○	○	○	
740 <i>Lysimachia fortunei</i> Maxim.	サクランソウ科							
741 <i>Lysimachia japonica</i> Thunb. var. <i>subsessilis</i> F. Maekawa	ミヤマタゴボウ			○	○	○	○	
742 <i>Lysimachia mauritiana</i> Lam.	ノジトラノオ	○						環境省：絶滅危惧 I B 類, 茨城県：危急種
743 <i>Lysimachia vulgaris</i> Linn. var. <i>davurica</i> (Ledeb.) R. Kunth	オカトラノオ			○	○	○	○	
744 <i>Lysimachia x pilophora</i> (Honda) Honda	ヌマトラノオ			○	○	○	○	
745 <i>Primula sieboldii</i> E. Morren	コナスビ			○	○	○	○	
Ebenaceae								
746 <i>Diospyros kaki</i> Thunb.	ハマボウス			○				
Styracaceae								
747 <i>Pterostyrax hispida</i> Sieb. et Zucc.	クサレダマ				○			
748 <i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc.	イヌヌマトラノオ			○	○			
749 <i>Styrax obassia</i> Sieb. et Zucc.	サクランソウ			○	○			環境省：絶滅危惧 II 類, 茨城県：絶滅危惧種
Symlocaceae								
750 <i>Symplocos chinensis</i> (Lour.) Druce var. <i>leucocarpa</i> (Nakai) Ohwi form. <i>pilosa</i> (Nakai) Ohwi	カキノキ科							
Oleaceae								
751 <i>Fraxinus lamuginosa</i> Koidz.	カキノキ				○	○	○	逸出
752 <i>Fraxinus lamuginosa</i> Koidz. form. <i>serrata</i> (Nakai) Hara	エゴノキ科							
753 <i>Fraxinus sieboldiana</i> Blume	オオバアサガラ			○	○	○	○	
754 <i>Ligustrum japonicum</i> Thunb.	エゴノキ			○	○	○	○	
755 <i>Ligustrum obtusifolium</i> Sieb. et Zucc.	ハクウンボク			○	○	○	○	
756 <i>Ligustrum ovalifolium</i> Hassk.	ハイノキ科							
757 <i>Osmanthus heterophyllus</i> (G. Don) P. S. Green	サワフタギ			○	○	○	○	
Gentianaceae								
758 <i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>buergeri</i> (Miq.) Maxim.	モクセイ科							
759 <i>Gentiana zollingeri</i> Fawcett	ケアオダモ				○	○		
760 <i>Swertia bimaculata</i> (Sieb. et Zucc.) Hook. et Thoms.	アオダモ			○	○	○	○	
761 <i>Swertia japonica</i> (Schult.) Makino	マルバアオダモ			○	○	○	○	
762 <i>Tripterospermum japonicum</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim.	ネズミモチ			○				逸出
Apocynaceae								
763 <i>Trachelospermum asiaticum</i> (Sieb. et Zucc.) Nakai	イボタノキ			○	○	○	○	
764 <i>Vinca major</i> Linn.	オオバイボタ			○				
	ヒイラギ				○	○		
	リンドウ科							
	リンドウ			○	○	○	○	
	フデリンドウ			○	○	○	○	
	アケボノソウ			○	○	○	○	
	センブリ			○	○	○	○	
	ツルリンドウ			○	○	○	○	
	キョウチクトウ科							
	テイカカズラ			○	○	○	○	
	ツルニチニチソウ			○				逸出

植 物

学 名	和 名	海	鍋	久	鷲	花	八	備 考	
		岸	足	慈	子	瓶	溝		
		1	2	3	4	5	6		
<b>Asclepiadaceae</b>		<b>ガガイモ科</b>							
765	<i>Cynanchum caudatum</i> (Miq.) Maxim.		○	○	○	○	○		
766	<i>Cynanchum japonicum</i> Morren et Decne.		○						
767	<i>Cynanchum magnificum</i> Nakai		○	○	○				
768	<i>Cynanchum paniculatum</i> (Bunge) Kitagawa			○				環境省：絶滅危惧Ⅱ類，茨城県：希少種	
769	<i>Cynanchum sublaeolatum</i> (Miq.) Matsum.			○					
770	<i>Cynanchum wilfordii</i> (Maxim.) Hemsl.			○	○				
771	<i>Marsdenia tomentosa</i> Morr. et Decne.			○				茨城県：希少種	
772	<i>Metaplexis japonica</i> (Thunb.) Makino		○	○					
773	<i>Tylophora aristolochioides</i> Miq.		○	○	○		○		
774	<i>Tylophora nikoensis</i> (Franch. et Savat.) Matsum.		○						
<b>Rubiaceae</b>		<b>アカネ科</b>							
775	<i>Diodia teres</i> Walt.		○						
776	<i>Galium gracilens</i> (A. Gray) Makino				○			茨城県：危急種	
777	<i>Galium japonicum</i> Makino			○	○		○		
778	<i>Galium kikumugura</i> Ohwi				○				
779	<i>Galium kinuta</i> Nakai et Hara				○				
780	<i>Galium paradoxum</i> Maxim.					○			
781	<i>Galium pogonanthum</i> Franch. et Savat.		○	○	○				
782	<i>Galium pseudo-asprellum</i> Makino			○	○		○		
783	<i>Galium spurium</i> Linn. var. <i>echinospermon</i> (Wallr.) Hayek		○	○			○		
784	<i>Galium trachyspermum</i> A. Gray			○	○		○		
785	<i>Galium trifidum</i> Linn. var. <i>brevipedunculatum</i> Regel		○						
786	<i>Galium verum</i> Linn. var. <i>asiaticum</i> Nakai			○	○			茨城県：希少種	
787	<i>Hedyotis lindleyana</i> Hook. var. <i>hirsuta</i> (Linn. fil.) Hara		○	○	○	○	○		
788	<i>Mitchella undulata</i> Sieb. et Zucc.				○				
789	<i>Paederia scandens</i> (Lour.) Merrill var. <i>mairei</i> (Le'v.) Hara		○	○	○	○	○		
790	<i>Rubia argyi</i> (Le'v. et Van't.) Hara		○	○	○	○	○		
<b>Convolvulaceae</b>		<b>ヒルガオ科</b>							
791	<i>Calystegia hederacea</i> Wall.		○	○	○				
792	<i>Calystegia japonica</i> Choisy			○	○				
793	<i>Calystegia soldanella</i> (Linn.) Roem. et Schult.		○						
794	<i>Cuscuta japonica</i> Choisy		○	○	○				
795	<i>Cuscuta pentagona</i> Engelm.		○	○	○				
<b>Boraginaceae</b>		<b>ムラサキ科</b>							
796	<i>Ancistrocarya japonica</i> Maxim.				○			茨城県：希少種	
797	<i>Bothriospermum tenellum</i> (Homem.) Fisch. et C. A. Mey.		○	○	○	○	○		
798	<i>Buglossoides zollingeri</i> (DC.) Johnston		○	○					
799	<i>Messerschmidia sibirica</i> Linn.		○						
800	<i>Trigonotis peduncularis</i> (Trevir.) Benth.		○	○	○	○	○		
<b>Verbenaceae</b>		<b>クマツヅラ科</b>							
801	<i>Callicarpa dichotoma</i> (Lour.) K. Koch				○				
802	<i>Callicarpa japonica</i> Thunb.		○	○	○	○	○		
803	<i>Callicarpa mollis</i> Sieb. et Zucc.		○	○	○	○	○		
804	<i>Caryopteris divaricata</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim.				○				
805	<i>Clerodendrum trichotomum</i> Thunb.		○	○	○	○	○		
806	<i>Vitex rotundifolia</i> Linn. fil.		○						
<b>Labiatae</b>		<b>シン科</b>							
807	<i>Agastache rugosa</i> (Fisch. et Mey.) O. Kuntze			○	○				
808	<i>Ajuga decumbens</i> Thunb.		○	○	○		○		
809	<i>Ajuga yezoensis</i> Maxim. var. <i>tsukubana</i> Nakai			○	○	○	○		
810	<i>Chelonopsis moschata</i> Miq.				○	○	○		
811	<i>Clinopodium chinense</i> (Benth.) O. Kuntze subsp. <i>grandiflorum</i> (Maxim.) Hara var. <i>parviflorum</i> (Kudo) Hara			○	○	○	○		
812	<i>Clinopodium gracile</i> (Benth.) O. Kuntze		○						
813	<i>Clinopodium micranthum</i> (Regel) Hara			○	○	○	○		
814	<i>Elsholtzia ciliata</i> (Thunb.) Hylander			○	○	○	○		
815	<i>Elsholtzia nipponica</i> Ohwi				○		○		
816	<i>Glechoma hederacea</i> Linn. var. <i>grandis</i> (A. Gray) Kudo		○	○	○	○	○		
817	<i>Lamium amplexicaule</i> Linn.		○	○	○	○	○		
818	<i>Lamium barabtum</i> Sieb. et Zucc.			○	○	○	○		
819	<i>Lamium purpureum</i> Linn.		○	○	○	○	○		
820	<i>Leomurus japonicus</i> Houtt.				○				
821	<i>Leucosceptrum japonicum</i> (Miq.) Kitam. et Murata						○		
822	<i>Lycopus maackianus</i> (Maxim.) Makino		○		○				
823	<i>Lycopus ramosissimus</i> (Makino) Makino var. <i>japonicus</i> (Matsumura et Kudo) Kitam				○				
824	<i>Meehania urticifolia</i> (Miq.) Makino		○	○	○	○	○		
825	<i>Mentha arvensis</i> Linn. var. <i>piperascens</i> Malinvaud			○	○	○	○		
826	<i>Mosla dianthera</i> (Hamilt.) Maxim.				○	○	○		
827	<i>Mosla dianthera</i> (Hamilt.) Maxim. var. <i>nana</i> (Hara) Ohwi						○		
828	<i>Mosla punctulata</i> (J. F. Gmel.) Nakai		○	○	○	○	○		
829	<i>Perilla citriodora</i> (Makino) Nakai				○	○			
830	<i>Perilla frutescens</i> (Linn.) Britton var. <i>frutescens</i>					○		逸出	
831	<i>Prunella vulgaris</i> Linn. subsp. <i>asiatica</i> (Nakai) Hara		○	○	○	○	○		
832	<i>Rabdosia inflexa</i> (Thunb.) Kudo		○	○	○	○	○		
833	<i>Rabdosia shikokianus</i> (Makino) Hara var. <i>intermedia</i> (Kudo) Hara				○				
834	<i>Rabdosia umbrosa</i> (Maxim.) Hara var. <i>leucantha</i> (Murai) Hara				○		○		
835	<i>Salvia japonica</i> Thunb.			○	○	○	○		
836	<i>Salvia nipponica</i> Miq.			○	○	○	○		
837	<i>Scutellaria abbreviata</i> Hara					○	○		
838	<i>Scutellaria brachyspica</i> Nakai et Hara				○				
839	<i>Scutellaria kurokavae</i> Hara				○				

学名	和名	海岸	鍋足山	久慈山地	鷲子山	花瓶山	八溝山	備考
		1	2	3	4	5	6	
840 <i>Scutellaria pekinensis</i> Maxim. var. <i>transitra</i> (Makino) Hara	ヤマタツナミソウ		○	○	○			
841 <i>Scutellaria shikokiana</i> Makino	ミヤマナミキ			○	○	○	○	
842 <i>Scutellaria strigillosa</i> Hemsl.	ナミキソウ	○						
843 <i>Stachys japonica</i> Miq. var. <i>intermedia</i> (Kudo) Ohwi	イヌゴマ			○	○		○	
844 <i>Teucrium japonicum</i> Houtt.	ニガクサ			○				
845 <i>Teucrium viscidum</i> Blume var. <i>miquelianum</i> (Maxim.) Hara	ツルニガクサ	○	○	○	○	○	○	
846 <i>Thymus serpyllum</i> Linn. subsp. <i>quinquecostatus</i> (C'elak.) Kitam.	イブキジャコウソウ	○	○					茨城県：危急種
Solanaceae		ナス科						
847 <i>Lycium chinense</i> Mill.	クコ	○		○	○		○	
848 <i>Physalisstrum japonicum</i> (Franch. et Savat.) Honda	イガホオズキ		○	○	○			
849 <i>Solanum americanum</i> Mill.	アメリカイヌホオズキ			○				
850 <i>Solanum carolinense</i> Linn.	ワルナスビ	○		○				
851 <i>Solanum japonense</i> Nakai	ヤマホロシ			○	○		○	
852 <i>Solanum lyratum</i> Thunb.	ヒヨドリジョウゴ	○	○	○	○	○	○	
853 <i>Solanum megacarpum</i> Koidz.	マルバナホロシ				○			
854 <i>Solanum nigrum</i> Linn.	イヌホオズキ			○	○			
855 <i>Tubocapsicum anomalum</i> (Franch. et Savat.) Makino	ハダカホオズキ			○	○			
Loganiaceae		フジウツギ科						
856 <i>Buddleja japonica</i> Hemsl.	フジウツギ		○	○		○	○	
Scrophulariaceae		ゴマノハグサ科						
857 <i>Linnophila sessiliflora</i> Blume	キクモ			○				
858 <i>Linaria canadensis</i> (Linn.) Dum.	マツバウンラン	○						逸出
859 <i>Linaria japonica</i> Miq.	ウンラン	○						
860 <i>Lindernia dubia</i> (Linn.) Pennell	アメリカアゼナ	○		○				
861 <i>Lindernia procumbens</i> (Krock.) Philcox	アゼナ			○	○	○		
862 <i>Mazus miquelii</i> Makino	ムラサキサギゴケ	○	○	○	○			
863 <i>Mazus miquelii</i> Makino form. <i>albiflorum</i> (Makino) Makino	シロバナサギゴケ		○	○				
864 <i>Mazus miquelii</i> Makino form. <i>rotundifolium</i> Yamazaki	ヤマサギゴケ						○	○
865 <i>Mazus pumilus</i> (Burm. fil.) van Steenis	トキワハゼ		○	○			○	○
866 <i>Melampyrum laxum</i> Miq. var. <i>nikkoense</i> Beauv.	ミヤマママコナ		○	○				
867 <i>Melampyrum roseum</i> Maxim. var. <i>japonicum</i> Franch. et Savat.	ママコナ			○	○			
868 <i>Mimulus nepalensis</i> Benth.	ミゾホオズキ		○	○	○	○	○	
869 <i>Phtheirospermum japonicum</i> (Thunb.) Kanitz	コシオガマ		○	○				
870 <i>Scrophularia kakudensis</i> Franch.	オオヒナノウスツボ	○		○	○	○	○	
871 <i>Siphonostegia chinensis</i> Benth.	ヒキヨモギ			○	○			
872 <i>Vandellia angustifolia</i> Benth.	アゼトウガラシ			○				
873 <i>Verbascum thapsus</i> Linn.	ビロードモウズイカ	○						
874 <i>Veronica anagallis-aquatica</i> Linn.	オオカワジサ			○				
875 <i>Veronica arvensis</i> Linn.	タチイヌノフグリ	○	○	○	○	○	○	
876 <i>Veronica cana</i> Wall. ex Benth. var. <i>miqueliana</i> (Nakai) Ohwi	クワガタソウ	○	○	○	○	○	○	
877 <i>Veronica persica</i> Poir.	オオイヌノフグリ	○	○	○	○	○	○	
Acanthaceae		キツネノマゴ科						
878 <i>Dicliptera japonica</i> (Thunb.) Makino var. <i>subrotunda</i> Matsuda	ハグロソウ				○	○	○	
879 <i>Justicia procumbens</i> Linn. var. <i>leucantha</i> Honda	キツネノマゴ		○	○			○	
Gesneriaceae		イワタバコ科						
880 <i>Conandron ramondioides</i> Sieb. et Zucc.	イワタバコ		○	○	○	○	○	
Orobanchaceae		ハマウツボ科						
881 <i>Aeginetia sinensis</i> G. Beck	オオナンパンギセル			○				
882 <i>Lathraea japonica</i> Miq. var. <i>miqueliana</i> Ohwi	ケヤマウツボ			○				
883 <i>Orobanche coerulescens</i> Steph. ex Willd.	ハマウツボ	○						
884 <i>Orobanche minor</i> Sutton	ヤセウツボ			○				
Lentibulariaceae		タヌキモ科						
885 <i>Utricularia racemosa</i> Wall.	ホザキノミミカキグサ			○				茨城県：絶滅危惧種
886 <i>Utricularia tenuicaulis</i> Miki	イヌタヌキモ			○				茨城県：危急種
Phrymaceae		ハエドクソウ科						
887 <i>Phryma leptostachya</i> Linn. subsp. <i>asiatica</i>	ハエドクソウ	○	○	○	○	○	○	
888 <i>Phryma oblongifolia</i> Koidz.	ナガバハエドクソウ	○		○		○	○	
Plantaginaceae		オオバコ科						
889 <i>Plantago asiatica</i> Linn.	オオバコ	○	○	○		○	○	
890 <i>Plantago japonica</i> Franch. et Savat.	トウオオバコ	○						
891 <i>Plantago lanceolata</i> Linn.	ヘラオオバコ	○						
892 <i>Plantago virginica</i> Linn.	ツボミオオバコ	○						
Caprifoliaceae		スイカズラ科						
893 <i>Abelia spathulata</i> Sieb. et Zucc.	ツクバネウツギ		○	○	○			
894 <i>Abelia spathulata</i> Sieb. et Zucc. var. <i>sanguinea</i> Makino	ベニバナツクバネウツギ	○	○	○		○	○	
895 <i>Abelia tetrapala</i> (Koidz.) Hara et Kurosawa	オオツクバネウツギ	○	○	○	○	○	○	
896 <i>Lonicera gracilipes</i> Miq.	ヤマウグイスカグラ	○	○	○	○	○	○	
897 <i>Lonicera gracilipes</i> Miq. var. <i>glandulosa</i> Maxim.	ミヤマウグイスカグラ			○			○	
898 <i>Lonicera japonica</i> Thunb.	スイカズラ	○	○	○	○	○	○	
899 <i>Lonicera praeflorens</i> Batalin var. <i>japonica</i> Hara	ハヤザキヒョウタンボク			○				茨城県：危急種
900 <i>Lonicera ramosissima</i> Franch. et Savat.	コウグイスカグラ	○	○					
901 <i>Sambucus chinensis</i> Lindl.	ソクズ			○	○			
902 <i>Sambucus racemosa</i> Linn. subsp. <i>sieboldiana</i> (Miq.) Hara	ニワトコ	○	○	○	○	○	○	
903 <i>Viburnum dilatatum</i> Thunb.	ガマズミ	○	○	○	○	○	○	
904 <i>Viburnum erosum</i> Thunb.	コバノガマズミ	○	○	○	○			
905 <i>Viburnum furcatum</i> Blume	オオカメノキ			○			○	
906 <i>Viburnum phlebotrichum</i> Sieb. et Zucc.	オトコヨウゾメ	○	○	○	○	○	○	
907 <i>Viburnum plicatum</i> Thunb. var. <i>tomentosum</i> (Thunb.) Miq.	ヤブデマリ	○	○	○	○	○	○	
908 <i>Viburnum wrightii</i> Miq.	ミヤマガマズミ	○	○	○	○	○	○	
909 <i>Viburnum wrightii</i> Miq. var. <i>stipellatum</i> Nakai	オオミヤマガマズミ					○	○	
910 <i>Weigela decora</i> (Nakai) Nakai	ニシキウツギ		○	○		○	○	

植 物

学 名	和 名	海	鍋	久	鷲	花	八	備 考
		岸	足	慈	子	瓶	溝	
		1	2	3	4	5	6	
911 <i>Weigela decora</i> (Nakai) Nakai form. <i>unicolor</i> (Nakai) Hara	ベニバナニシキウツギ		○					
Adoxaceae レンブクソウ科								
912 <i>Adoxa moschatellina</i> Linn.	レンブクソウ			○				
Valerianaceae オミナエシ科								
913 <i>Patrinia scabiosaefolia</i> Fisch.	オミナエシ			○	○		○	
914 <i>Patrinia triloba</i> (Miq.) Miq. var. <i>palmata</i> (Maxim.) Hara	キンレイカ			○				茨城県：希少種
915 <i>Patrinia villosa</i> (Thunb.) Juss.	オトコエシ		○	○	○	○	○	
916 <i>Valeriana flaccidissima</i> Maxim.	ツルカノコソウ		○	○	○		○	
Dipsacaceae マツムシソウ科								
917 <i>Dipsacus japonicus</i> Miq.	ナベナ						○	茨城県：希少種
918 <i>Scabiosa japonica</i> Miq.	マツムシソウ	○						茨城県：絶滅危惧種
Campanulaceae キキョウ科								
919 <i>Adenophora divaricata</i> Franch. et Savat.	フクシマシャジン				○	○		茨城県：希少種
920 <i>Adenophora remotiflora</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.	ソバナ		○	○	○	○	○	
921 <i>Adenophora triphylla</i> (Thunb.) A. DC. var. <i>japonica</i> (Regel) Hara	ツリガネニンジン	○	○	○	○	○	○	
922 <i>Campanula punctata</i> Lam.	ホタルブクロ		○	○	○	○	○	
923 <i>Campanula punctata</i> Lam. var. <i>hondoensis</i> (Kitam.) Ohwi	ヤマホタルブクロ		○					
924 <i>Codonopsis lanceolata</i> (Sieb. et Zucc.) Trautv.	ツルニンジン		○	○	○	○	○	
925 <i>Lobelia chinensis</i> Lour.	ミゾカクシ		○	○	○	○	○	
926 <i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.	サワギキョウ			○				
927 <i>Peracarpa carnosus</i> (Wall.) Hook. fil. et Thoms. var. <i>circaeoides</i> (Fr. Schm.) Makino	タニギキョウ		○	○	○	○	○	
928 <i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) A. DC.	キキョウ			○	○			環境省：絶滅危惧Ⅱ類，茨城県：危急種
Compositae キク科								
929 <i>Achillea millefolium</i> Linn.	セイヨウノコギリソウ	○						
930 <i>Adenocaulon himalaicum</i> Edgew.	ノブキ		○	○	○	○	○	
931 <i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch.-Bip. var. <i>subapoda</i> Nakai	オクモミジハグマ		○	○	○	○	○	
932 <i>Ainsliaea apiculata</i> Sch.-Bip.	キッコウハグマ		○	○	○	○	○	
933 <i>Ambrosia artemisiifolia</i> Linn. var. <i>elatiior</i> (Linn.) Desc.	ブタクサ		○	○	○	○	○	
934 <i>Anaphalis margaritacea</i> (Linn.) Benth. et Hook. fil. var. <i>angustior</i> (Miq.) Nakai	ヤマハハコ		○		○			
935 <i>Anaphalis sinica</i> Hance	ヤハズハハコ			○				茨城県：危急種
936 <i>Artemisia apiacea</i> Hance	カワラニンジン				○		○	
937 <i>Artemisia capillaris</i> Thunb.	カワラヨモギ	○		○			○	
938 <i>Artemisia iwayomogi</i> Kitam.	イワヨモギ				○		○	逸出
939 <i>Artemisia japonica</i> Thunb.	オトコヨモギ	○	○	○		○	○	
940 <i>Artemisia keiskeana</i> Miq.	イヌヨモギ		○	○	○	○	○	
941 <i>Artemisia princeps</i> Pamp.	ヨモギ		○	○	○	○	○	
942 <i>Artemisia stelleriana</i> Bess.	シロヨモギ	○						茨城県：危急種
943 <i>Aster ageratoides</i> Turcz. var. <i>harae</i> (Makino) Kitam. form. <i>leucanthus</i> Honda	ヤマシロギク		○	○		○	○	
944 <i>Aster ageratoides</i> Turcz. subsp. <i>leioophyllus</i> (Franch. et Savat.) Kitam.	シロヨメナ			○	○	○	○	
945 <i>Aster fastigiatus</i> Fisch.	ヒメシオン			○				茨城県：危急種
946 <i>Aster glehnii</i> Fr. Schm. var. <i>hondoensis</i> Kitam.	ゴマナ				○	○	○	
947 <i>Aster mirocephalus</i> (Miq.) Franch. et Savat. var. <i>ovatus</i> (Franch. et Savat.) Soejima et Mot. Ito	ノコンギク		○	○	○	○	○	
948 <i>Aster scaber</i> Thunb.	シラヤマギク		○	○	○	○	○	
949 <i>Atractylodes japonica</i> Koidz. ex Kitam.	オケラ		○	○	○			
950 <i>Bidens biternata</i> (Lour.) Merr. et Sherff	センダングサ		○	○				
951 <i>Bidens frondosa</i> Linn.	アメリカセンダングサ	○	○	○		○	○	
952 <i>Bidens pilosa</i> Linn.	コセンダングサ	○	○	○		○	○	
953 <i>Bidens pilosa</i> Linn. var. <i>minor</i> (Blume) Sherff	コシロノセンダングサ			○	○			
954 <i>Cacalia delphinifolia</i> Sieb. et Zucc.	モミジガサ		○	○	○	○	○	
955 <i>Cacalia farfaraefolia</i> Sieb. et Zucc. var. <i>bulbifera</i> (Maxim.) Kitam.	タマブキ		○	○	○	○	○	
956 <i>Cacalia yatabei</i> Matsum. et Koidz.	ヤマタイミンガサ		○	○		○	○	
957 <i>Carduus crispus</i> Linn.	ヒレアザミ		○	○				
958 <i>Carpesium abrotanoides</i> Linn.	ヤブタバコ		○	○	○	○	○	
959 <i>Carpesium cernuum</i> Linn.	コヤブタバコ		○	○				
960 <i>Carpesium divaricatum</i> Sieb. et Zucc.	ガンクビソウ		○	○	○	○	○	
961 <i>Carpesium glossophyllum</i> Maxim.	サジガンクビソウ		○	○	○			
962 <i>Carpesium macrocephalum</i> Franch. et Savat.	オオガンクビソウ		○			○	○	
963 <i>Carpesium matsuei</i> Tatew. et Kitam.	ノッポロガンクビソウ			○		○	○	
964 <i>Carpesium triste</i> Maxim.	ミヤマヤブタバコ		○				○	
965 <i>Centipeda minima</i> (Linn.) A. Braun et Aschers.	トキンソウ			○		○		
966 <i>Chrysanthemum boreale</i> (Makino) Makino	アワコガネギク		○	○	○			
967 <i>Chrysanthemum leucanthum</i> Makino	シロバナアブラギク			○				
968 <i>Chrysanthemum makinoi</i> Matsum. et Nakai	リュウノウギク	○	○	○				
969 <i>Chrysanthemum pacificum</i> Nakai	イソギク	○						茨城県：絶滅種
970 <i>Cirsium japonicum</i> DC.	ノアザミ		○	○	○	○	○	
971 <i>Cirsium microspicatum</i> Nakai	アズマヤマアザミ		○	○	○	○	○	
972 <i>Cirsium nipponicum</i> (Maxim.) Makino var. <i>incomptum</i> (Franch. et Savat.) Kitam.	トネアザミ		○	○	○	○	○	
973 <i>Cirsium oligophyllum</i> (Franch. et Savat.) Matsum.	ノハラアザミ		○	○	○	○	○	
974 <i>Cirsium pendulum</i> Fisch.	タカアザミ			○				
975 <i>Cirsium sieboldii</i> Miq.	キセルアザミ			○				
976 <i>Conyza sunatrensis</i> (Retz.) Walker	オオアレチノギク	○	○	○		○	○	
977 <i>Crassocephalum crepidioides</i> (Benth.) S. Moore	ベニバナボロギク	○	○	○	○	○	○	
978 <i>Dendranthema arcticum</i> (Linn.) Tzvelev subsp. <i>maekawanum</i> Kitam.	コハマギク	○						茨城県：希少種
979 <i>Eclipta alba</i> (Linn.) Hassk.	アメリカタカサブロウ						○	
980 <i>Eclipta prostrata</i> (Linn.) Linn.	タカサブロウ		○	○				
981 <i>Erechtites hieracifolia</i> (Linn.) Rafin.	ダンドボロギク		○	○		○	○	
982 <i>Erigeron canadensis</i> Linn.	ヒメムカシヨモギ	○	○	○		○	○	
983 <i>Erigeron canadensis</i> Linn. var. <i>levis</i> Makino	ケナシヒメムカシヨモギ	○						
984 <i>Erigeron philadelphicus</i> Linn.	ハルジオン	○	○	○	○	○	○	
985 <i>Eupatorium chinense</i> Linn. var. <i>oppositifolium</i> (Koidzumi) Murata et H. Koyama	ヒヨドリバナ	○	○	○	○	○	○	
986 <i>Eupatorium chinense</i> Linn. var. <i>sachalinense</i> (Fr. Schm.) Kitam.	ヨツバヒヨドリ					○		



学名	和名	海岸	鍋足山	久慈山地	鷲子山	花瓶山	八溝山	備考
		1	2	3	4	5	6	
987 <i>Eupatorium lindleyanum</i> DC.	サワヒヨドリ	○		○	○			
988 <i>Eupatorium lindleyanum</i> DC. form. <i>villosissimum</i> Honda	ケブカサワヒヨドリ	○						
989 <i>Eupatorium rugosum</i> Houtt.	マルバフジバカマ				○		○	
990 <i>Galinsoga ciliata</i> (Raf.) Blake	ハキダメギク	○	○	○	○	○	○	
991 <i>Gnaphalium affine</i> D. Don	ハハコグサ	○	○	○	○	○	○	
992 <i>Gnaphalium hypoleucum</i> DC.	アキノハハコグサ			○	○		○	環境省：絶滅危惧 I B 類
993 <i>Gnaphalium japonicum</i> Thunb.	チチコグサ	○	○	○				
994 <i>Gnaphalium pensylvanicum</i> Willd.	チチコグサモドキ	○	○				○	
995 <i>Gnaphalium purpureum</i> Linn.	ウスベニチチコグサ	○						
996 <i>Gnaphalium spicatum</i> Lam.	ウラジロチチコグサ	○						
997 <i>Helianthus tuberosus</i> Linn.	キクイモ	○		○	○			
998 <i>Hemistepa lyrata</i> Bunge	キツネアザミ	○	○				○	
999 <i>Hypochoeris radicata</i> Linn.	ブタナ	○			○			
1000 <i>Inula salicina</i> Linn. var. <i>asiatica</i> Kitam.	カセンソウ	○	○	○				
1001 <i>Ixeris debilis</i> (Thunb.) A. Gray	オオジシバリ	○	○	○			○	
1002 <i>Ixeris dentata</i> (Thunb.) Nakai	ニガナ	○	○	○	○	○	○	
1003 <i>Ixeris dentata</i> (Thunb.) Nakai form. <i>albida</i> Kitam.	シロニガナ				○			
1004 <i>Ixeris dentata</i> (Thunb.) Nakai var. <i>albiflora</i> (Makino) Nakai	シロバナハナニガナ		○					
1005 <i>Ixeris dentata</i> (Thunb.) Nakai var. <i>albiflora</i> (Makino) Nakai form. <i>amplifolia</i> (Kitam.) Hiyama	ハナニガナ			○	○	○	○	
1006 <i>Ixeris repens</i> (Linn.) A. Gray	ハマニガナ	○						
1007 <i>Ixeris stolonifera</i> A. Gray	イワニガナ	○	○			○	○	
1008 <i>Kalimeris pinnatifida</i> (Maxim.) Kitam.	ユウガギク	○	○	○	○	○	○	
1009 <i>Kalimeris pseudo-yomena</i> Kitam.	カントウヨメナ		○					
1010 <i>Lactuca indica</i> Linn. var. <i>laciniata</i> (O. Kuntze) Hara	アキノノゲシ	○	○			○	○	
1011 <i>Lactuca raddeana</i> Maxim. var. <i>elata</i> (Hemsl.) Kitam.	ヤマニガナ	○	○	○	○	○	○	
1012 <i>Lactuca sororia</i> Miq. var. <i>pilipes</i> (Migo) Kitam.	ケムラサキニガナ	○	○	○	○			
1013 <i>Lapsana apogonoides</i> Maxim.	コオニタビラコ			○				
1014 <i>Lapsana humilis</i> (Thunb.) Makino	ヤブタビラコ	○	○			○	○	
1015 <i>Leibnitzia anandria</i> (Linn.) Turcz.	センボンヤリ	○	○	○	○	○	○	
1016 <i>Ligularia dentata</i> (A. Gray) Hara	マルバダケブキ						○	
1017 <i>Ligularia fischeri</i> (Ledeb.) Turcz.	オタカラコウ						○	
1018 <i>Ligularia stenocephala</i> (Maxim.) Matsum. et Koidz.	メタカラコウ			○		○	○	
1019 <i>Miricacalia makineana</i> (Yatabe) Kitam.	オオモミジガサ			○		○	○	
1020 <i>Nipponanthemum nipponicum</i> (Franch. ex Maxim.) Kitam.	ハマギク	○						茨城県：希少種
1021 <i>Pertya glabrescens</i> Sch.-Bip.	ナガバノコウヤボウキ		○	○	○	○	○	
1022 <i>Pertya koribana</i> (Nakai) Makino et Nemoto	センダイハグマ			○				
1023 <i>Pertya robusta</i> (Maxim.) Beauv.	カシワバハグマ		○	○	○	○	○	
1024 <i>Pertya scandens</i> (Thunb.) Sch.-Bip.	コウヤボウキ	○	○	○	○	○	○	
1025 <i>Pertya triloba</i> (Makino) Makino	オヤリハグマ		○	○	○	○	○	茨城県：希少種
1026 <i>Petasites japonicus</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim.	フキ	○	○	○	○	○	○	
1027 <i>Picris hieracioides</i> Linn. var. <i>glabrescens</i> (Regel) Ohwi	コウゾリナ	○	○	○	○	○	○	
1028 <i>Prenanthes acerifolia</i> (Maxim.) Matsum.	フクオウソウ		○	○	○	○	○	
1029 <i>Prenanthes acerifolia</i> (Maxim.) Matsum. form. <i>nipponica</i> (Franch. et Savat.) Matsum. et Koidz.	フクオウニガナ						○	
1030 <i>Prenanthes tanakae</i> (Franch. et Savat.) Koidz.	オオニガナ			○				環境省：絶滅危惧 II 類
1031 <i>Rhynchospermum verticillatum</i> Reinw. ex Blume	シュウブソウ				○	○		
1032 <i>Saussurea maximowiczii</i> Herder	ミヤコアザミ				○			茨城県：危急種
1033 <i>Saussurea nipponica</i> Miq. var. <i>savatieri</i> (Franch.) Ohwi	アサマヒゴタイ		○					茨城県：希少種
1034 <i>Saussurea nipponica</i> Miq. subsp. <i>sendaica</i> (Franch.) Kitam.	センダイトウヒレン			○	○	○	○	茨城県：希少種
1035 <i>Senecio integrifolius</i> (Linn.) Clairv. subsp. <i>fauriei</i> (Le'v. et Vant.) Kitam.	オカオグルマ			○				
1036 <i>Senecio nemorensis</i> Linn.	キオン						○	茨城県：希少種
1037 <i>Senecio nikoensis</i> Miq.	サワギク				○	○	○	
1038 <i>Senecio vulgaris</i> Linn.	ノボロギク	○	○				○	
1039 <i>Siegesbeckia glabrescens</i> (Makino) Makino	コメナモミ			○	○	○	○	
1040 <i>Siegesbeckia orientalis</i> Linn. subsp. <i>pubescens</i> (Makino) Kitam.	メナモミ			○	○	○	○	
1041 <i>Solidago altissima</i> Linn.	セイトカアワダチソウ	○	○	○	○	○	○	
1042 <i>Solidago virgaurea</i> Linn. var. <i>asiatica</i> Nakai	アキノキリンソウ	○	○	○	○	○	○	
1043 <i>Sonchus asper</i> (Linn.) Hill	オニノゲシ		○				○	
1044 <i>Sonchus brachyotus</i> DC.	ハチジョウナ	○						
1045 <i>Sonchus oleraceus</i> Linn.	ノゲシ	○	○	○			○	
1046 <i>Stenactis annuus</i> (Linn.) Pers.	ヒメジョオン	○	○	○	○	○	○	
1047 <i>Stenactis strigosus</i> (Muhl.) DC.	ヘラバヒメジョオン	○						
1048 <i>Syneilesis palmata</i> (Thunb.) Maxim.	ヤブレガサ		○	○	○	○		
1049 <i>Synurus excelsus</i> (Makino) Kitam.	ハバヤマボクチ				○			茨城県：希少種
1050 <i>Synurus pungens</i> (Franch. et Savat.) Kitam.	オヤマボクチ		○	○	○	○	○	
1051 <i>Taraxacum albidum</i> Dahlst.	シロバナタンポポ			○				
1052 <i>Taraxacum hondoense</i> Nakai ex H. Koidz.	エゾタンポポ			○	○		○	
1053 <i>Taraxacum laevigatum</i> DC.	アカミタンポポ			○				
1054 <i>Taraxacum officinale</i> Weber	セイヨウタンポポ	○	○	○	○	○	○	
1055 <i>Taraxacum platycarpum</i> Dahlst.	カントウタンポポ	○	○	○	○	○	○	
1056 <i>Taraxacum shinanense</i> H. Koidz.	ウスギタンポポ			○				
1057 <i>Wedelia prostrata</i> (Hook. et Arn.) Hemsl.	ネコノシタ	○						茨城県：希少種
1058 <i>Xanthium occidentale</i> Bertoloni	オオオナモミ	○		○				
1059 <i>Youngia denticulata</i> (Houtt.) Kitam.	ヤクシソウ		○	○	○	○	○	
1060 <i>Youngia japonica</i> (Linn.) DC.	オニタビラコ	○	○	○	○	○	○	
MONOCOTYLEDONEAE	単子葉植物							
Alismataceae	オモダカ科							
1061 <i>Alisma canaliculatum</i> A. Br. et Bouche'	ヘラオモダカ			○	○			
1062 <i>Sagittaria aginashi</i> (Makino) Makino	アギナシ			○				環境省：準絶滅危惧種
1063 <i>Sagittaria pygmaea</i> Miq.	ウリカワ			○				
1064 <i>Sagittaria trifolia</i> Linn.	オモダカ	○	○	○	○	○	○	
Hydrocharitaceae	トチカガミ科							

植 物

学 名	和 名	海	鍋	久	鷺	花	八	備 考
		岸	足	慈	子	瓶	溝	
		1	2	3	4	5	6	
1065 <i>Blyxa ceratosperma</i> Maxim.	スブタ				○			環境省：絶滅危惧Ⅱ類，茨城県：絶滅危惧種
1066 <i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim.	ヤナギスブタ				○			
1067 <i>Elodea nuttallii</i> (Planch.) St. John	コカナダモ				○			
1068 <i>Ottelia alismoides</i> (Linn.) Pers.	ミスオオバコ	○			○			
Potamogetonaceae								
1069 <i>Potamogeton berchtoldii</i> Fieber	イトモ				○			環境省：絶滅危惧Ⅱ類
1070 <i>Potamogeton distinctus</i> A. Benn.	ヒルムシロ				○	○		
Najadaceae								
1071 <i>Najas graminea</i> Del.	ホッスモ				○			
1072 <i>Najas japonica</i> Nakai	イトトリゲモ				○			環境省：絶滅危惧ⅠB類，茨城県：危急種
Liliaceae								
1073 <i>Alettris luteo-viride</i> Maxim.	ノギラン				○			茨城県：希少種
1074 <i>Allium grayi</i> Regel	ノビル	○			○		○	
1075 <i>Allium monanthum</i> Maxim.	ヒメニラ				○			
1076 <i>Allium thunbergii</i> G. Don	ヤマラッキョウ	○			○			
1077 <i>Allium tuberosum</i> Rottl.	ニラ				○			
1078 <i>Allium victorialis</i> Linn. var. <i>platyphyllum</i> (Hulte'n) Makino	ギョウジャニンニク				○			茨城県：危急種
1079 <i>Amana edulis</i> (Miq.) Honda	アマナ				○	○		茨城県：希少種
1080 <i>Asparagus schoberioides</i> Kunth	キジカクシ				○			茨城県：希少種
1081 <i>Disporum sessile</i> D. Don	ホウチャクソウ	○	○	○	○	○	○	
1082 <i>Disporum smilacinum</i> A. Gray	チゴユリ	○	○	○	○	○	○	
1083 <i>Erythronium japonicum</i> Decne.	カタクリ				○	○	○	
1084 <i>Gagea lutea</i> (Linn.) Ker-Gawl.	キバナノアマナ				○	○	○	
1085 <i>Heloniopsis orientalis</i> (Thunb.) C. Tanaka	ショウジョウバカマ				○	○	○	
1086 <i>Hemerocallis esculenta</i> Koidz.	ゼンテイカ				○			
1087 <i>Hemerocallis fulva</i> Linn. var. <i>kwanso</i> Regel	ヤブカンゾウ				○		○	
1088 <i>Hemerocallis longituba</i> Miq.	ノカンゾウ	○	○	○	○		○	
1089 <i>Hosta albo-marginata</i> (Hook.) Ohwi form. <i>albiflora</i> Ikegami	シロバナコバギボウシ						○	
1090 <i>Hosta longipes</i> (Franch. et Savat.) Matsum.	イワギボウシ				○	○		
1091 <i>Hosta sieboldiana</i> (Lodd.) Engler	トウギボウシ				○	○	○	
1092 <i>Hosta sieboldii</i> (Paxton) J. Ingram form. <i>lancifolia</i> (Miq.) Hara	コバギボウシ				○	○	○	
1093 <i>Lilium auratum</i> Lindl.	ヤマユリ	○	○	○	○	○	○	
1094 <i>Lilium cordatum</i> (Thunb.) Koidz.	ウバユリ	○	○	○	○	○	○	
1095 <i>Lilium leichtlinii</i> Hook. fil. var. <i>tigrinum</i> (Regel) Nichols.	コオニユリ				○	○		
1096 <i>Lilium maculatum</i> Thunb.	スカシユリ	○						
1097 <i>Lilium maculatum</i> Thunb. var. <i>bukosanense</i> (Honda) Hara	ミヤマスカシユリ				○			環境省：絶滅危惧ⅠA類，茨城県：絶滅危惧種
1098 <i>Liriope minor</i> (Maxim.) Makino	ヒメヤブラン	○	○	○	○	○	○	
1099 <i>Liriope platyphylla</i> Wang et Tang	ヤブラン	○	○	○	○	○	○	
1100 <i>Ophiopogon japonicus</i> (Linn. fil.) Ker-Gawl.	ジャンヒゲ				○	○	○	
1101 <i>Ophiopogon ohwii</i> Okuyama	ナガバジャンヒゲ				○		○	
1102 <i>Ophiopogon planiscapus</i> Nakai	オオバジャンヒゲ				○	○	○	
1103 <i>Paris tetraphylla</i> A. Gray	ツクバネソウ				○	○	○	
1104 <i>Polygonatum falcatum</i> A. Gray	ナルコユリ				○	○	○	
1105 <i>Polygonatum humile</i> Fisch.	ヒメイスイ	○						
1106 <i>Polygonatum involucratum</i> (Franch. et Savat.) Maxim.	ワニグチソウ						○	
1107 <i>Polygonatum lasianthum</i> Maxim.	ミヤマナルコユリ				○	○	○	
1108 <i>Polygonatum macranthum</i> (Maxim.) Koidz.	オオナルコユリ				○			
1109 <i>Polygonatum odoratum</i> (Mill.) Druce var. <i>pluriflorum</i> (Miq.) Ohwi	アマドコロ	○	○	○				
1110 <i>Rohdea japonica</i> (Thunb.) Roth	オモト				○			逸出
1111 <i>Scilla scilloides</i> (Lindl.) Druce	ツルボ	○	○	○	○		○	
1112 <i>Smilacina japonica</i> A. Gray	ユキザサ				○		○	
1113 <i>Smilax china</i> Linn.	サルトリイバラ	○	○	○	○	○	○	
1114 <i>Smilax nipponica</i> Miq.	タチシオデ				○	○	○	
1115 <i>Smilax riparia</i> A. DC. var. <i>ussuriensis</i> (Regel) Hara et T. Koyama	シオデ				○	○	○	
1116 <i>Smilax sieboldii</i> Miq.	ヤマカシュウ				○	○	○	
1117 <i>Tricyrtis affinis</i> (Thunb.) Hook.	ヤマジノホトトギス				○	○	○	
1118 <i>Tricyrtis latifolia</i> Maxim.	タマガワホトトギス				○			茨城県：危急種
1119 <i>Trillium smallii</i> Maxim.	エンレイソウ					○	○	
1120 <i>Trillium tschonoskii</i> Maxim.	シロバナエンレイソウ					○	○	
1121 <i>Veratrum grandiflorum</i> (Maxim.) Loes. fil.	バイケイソウ				○			
Amaryllidaceae								
1122 <i>Lycoris radiata</i> (L' Herit.) Herb.	ヒガンバナ科							
1123 <i>Lycoris sanguinea</i> Maxim.	ヒガンバナ	○			○	○	○	
1124 <i>Lycoris squamigera</i> Maxim.	キツネノカミソリ				○	○	○	
Dioscoreaceae								
1125 <i>Dioscorea gracillima</i> Miq.	ヤマノイモ科							
1126 <i>Dioscorea japonica</i> Thunb.	タチドコロ				○	○	○	
1127 <i>Dioscorea nipponica</i> Makino	ヤマノイモ				○	○	○	
1128 <i>Dioscorea septemloba</i> Thunb.	ウチワドコロ				○			
1129 <i>Dioscorea tokoro</i> Makino	キクバドコロ					○		
Pontederiaceae								
1130 <i>Monochoria vaginalis</i> (Burm. fil.) Presl var. <i>plantaginea</i> (Roxb.) Solms-Laub.	オニドコロ	○	○	○	○	○	○	
Iridaceae								
1131 <i>Belamcanda chinensis</i> (Linn.) DC.	アヤメ科							
1132 <i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai	ヒオウギ				○	○		茨城県：危急種
1133 <i>Iris japonica</i> Thunb.	ノハナショウブ				○			
1134 <i>Iris laevigata</i> Fisch.	シャガ				○	○	○	
1135 <i>Iris pseudoacorus</i> Linn.	カキツバタ	○						環境省：絶滅危惧Ⅱ類，茨城県：危急種
1136 <i>Iris sanguinea</i> Hornem.	キショウブ	○			○	○		
1137 <i>Sisyrinchium atlanticum</i> Bickn.	アヤメ						○	
1138 <i>Tritonia crocosmaeflora</i> Lemoine	ニワゼキショウ				○		○	
	ヒメヒオウギズイセン				○			

学名	和名	海岸	鍋足山	久慈山地	鷲子山	花瓶山	八溝山	備考
		1	2	3	4	5	6	
Juncaceae								
1139	<i>Juncus alatus</i> Franch. et Savat.				○			
1140	<i>Juncus diastrophanthus</i> Buchen.				○			
1141	<i>Juncus effusus</i> Linn. var. <i>decipiens</i> Buchen.	○	○	○	○	○	○	
1142	<i>Juncus leschenaultii</i> Gay						○	
1143	<i>Juncus papillosus</i> Franch. et Savat.				○			
1144	<i>Juncus tenuis</i> Willd.	○	○	○	○	○	○	
1145	<i>Juncus yokoscensis</i> (Franch. et Savat.) Satake	○						
1146	<i>Luzula capitata</i> (Miq.) Nakai	○	○	○	○	○	○	
1147	<i>Luzula multiflora</i> Lejeune				○	○	○	
1148	<i>Luzula plumosa</i> E. Meyer var. <i>macrocarpa</i> (Buchen.) Ohwi		○	○	○		○	
Commelinaceae								
1149	<i>Commelina communis</i> Linn.	○	○	○	○	○	○	
1150	<i>Murdannia keisak</i> Hassk.				○	○	○	
1151	<i>Pollia japonica</i> Thunb.				○	○		
Eriocaulaceae								
1152	<i>Eriocaulon decemflorum</i> Maxim. var. <i>nipponicum</i> (Maxim.) Nakai				○			
1153	<i>Eriocaulon hondoense</i> Satake				○			
1154	<i>Eriocaulon robustius</i> (Maxim.) Makino				○	○		
Poaceae								
1155	<i>Agropyron racemiferum</i> (Steud.) Koidz.	○	○	○	○	○	○	
1156	<i>Agropyron tsukushiense</i> (Honda) Ohwi var. <i>transiens</i> (Hack.) Ohwi	○	○	○	○		○	
1157	<i>Agrostis canina</i> Linn.				○			
1158	<i>Agrostis clavata</i> Trin.	○	○					
1159	<i>Agrostis clavata</i> Trin. subsp. <i>matsumurae</i> (Hack. ex Honda) T.Tateoka	○	○	○	○	○	○	
1160	<i>Agrostis gigantea</i> Roth	○						
1161	<i>Alopecurus aequalis</i> Sobol. var. <i>amurensis</i> (Komarov) Ohwi				○	○		
1162	<i>Andropogon virginicus</i> Linn.	○				○	○	
1163	<i>Arthraxon hispidus</i> (Thunb.) Makino	○	○	○	○	○	○	
1164	<i>Arundinella hirta</i> (Thunb.) C. Tanaka	○	○	○	○	○	○	
1165	<i>Asperella longe-aristata</i> Ohwi				○	○	○	
1166	<i>Brachyelytrum japonicum</i> Hack. apud Matsum.				○	○		
1167	<i>Brachypodium sylvaticum</i> (Huds.) P. Beauv. var. <i>miserum</i> Koidz.	○	○	○		○	○	
1168	<i>Briza maxima</i> Linn.				○			
1169	<i>Bromus catharticus</i> Vahl	○			○	○	○	
1170	<i>Bromus japonicus</i> Thunb.	○						
1171	<i>Bromus pauciflorus</i> (Thunb.) Hack.	○	○	○	○	○	○	
1172	<i>Bromus mollis</i> Linn.	○					○	
1173	<i>Bromus rigidus</i> Roth	○						
1174	<i>Calamagrostis arundinacea</i> (Linn.) Roth var. <i>brachytricha</i> (Steud.) Hack.	○	○	○	○	○	○	
1175	<i>Calamagrostis epigeios</i> (Linn.) Roth	○			○			
1176	<i>Calamagrostis hakonensis</i> Franch. et Savat.				○	○	○	
1177	<i>Cleistogenes hackelii</i> (Honda) Honda	○	○	○				
1178	<i>Cymbopogon tortilis</i> (Presl) A. Camus var. <i>goeringii</i> (Steud.) Hand.-Mazz.	○	○	○				
1179	<i>Cynodon dactylon</i> (Linn.) Pers.	○						
1180	<i>Dactylis glomerata</i> Linn.	○	○	○	○	○	○	
1181	<i>Diarrhena japonica</i> Franch. et Savat.				○		○	
1182	<i>Digitaria ciliaris</i> (Retz.) Koel.	○	○			○	○	
1183	<i>Digitaria timorensis</i> (Kunth) Balansa				○	○		
1184	<i>Digitaria violascens</i> Link	○	○	○	○	○	○	
1185	<i>Eccoilopus cotulifer</i> (Thunb.) A. Camus				○	○	○	
1186	<i>Echinochloa crus-galli</i> (Linn.) Beauv.	○	○	○				
1187	<i>Echinochloa crus-galli</i> (Linn.) Beauv. var. <i>oryzicola</i> (Vasing.) Ohwi				○			
1188	<i>Eleusine indica</i> (Linn.) Gaertn.	○	○	○		○	○	
1189	<i>Elymus mollis</i> Trin.	○						
1190	<i>Eragrostis curvula</i> (Schr.) Nees				○	○	○	
1191	<i>Eragrostis ferruginea</i> (Thunb.) Beauv.	○	○	○		○	○	
1192	<i>Eragrostis multicaulis</i> Steud.						○	
1193	<i>Eragrostis poaeoides</i> Beauv.	○						
1194	<i>Eriochloa villosa</i> (Thunb.) Kunth				○	○		
1195	<i>Festuca arundinacea</i> Schreb.	○	○	○	○	○	○	
1196	<i>Festuca elatior</i> Linn.				○			
1197	<i>Festuca parvigluma</i> Steud.	○	○	○	○	○	○	
1198	<i>Festuca rubra</i> Linn.				○		○	
1199	<i>Glyceria acutiflora</i> Torr.				○			
1200	<i>Glyceria depauperata</i> Ohwi	○						
1201	<i>Glyceria ischyronura</i> Steud.				○			
1202	<i>Glyceria leptolepis</i> Ohwi				○			
1203	<i>Hemarthria sibirica</i> (Gandog.) Ohwi	○	○				○	
1204	<i>Hierochloa glabra</i> Trin. subsp. <i>sachalinensis</i> (Printz) Tzvelev	○	○	○			○	
1205	<i>Holeus lanatus</i> Linn.				○			
1206	<i>Hordeum murinum</i> Linn.	○						
1207	<i>Imperata cylindrica</i> (Linn.) Beauv.	○						
1208	<i>Imperata cylindrica</i> (Linn.) Beauv. var. <i>koenigii</i> (Retz.) Durand et Schinz	○	○	○			○	
1209	<i>Isachne globosa</i> (Thunb.) O. Kuntze	○	○	○	○		○	
1210	<i>Ischaemum antherophoroides</i> (Steud.) Miq.	○						
1211	<i>Leersia japonica</i> Makino				○			
1212	<i>Leersia oryzoides</i> (Linn.) Sw.				○			
1213	<i>Leersia sayanika</i> Ohwi	○	○	○		○	○	
1214	<i>Lolium multiflorum</i> Lam.	○	○	○				
1215	<i>Lolium perenne</i> Linn.	○						

植 物

学 名	和 名	海	鍋	久	鷺	花	八	備考
		岸	足	慈	子	瓶	溝	
		1	2	3	4	5	6	
1216 <i>Lophatherum gracile</i> Brongn.	ササクサ			○	○	○		茨城県：希少種
1217 <i>Melica nutans</i> Linn.	コメガヤ			○	○			
1218 <i>Microstegium japonicum</i> (Miq.) Koidz.	ササガヤ		○	○	○	○		
1219 <i>Microstegium vimineum</i> (Trin.) A. Camus	ヒメアシボソ		○	○		○		
1220 <i>Microstegium vimineum</i> (Trin.) A. Camus var. <i>polystachyum</i> (Franch. et Savat.) Ohwi	アシボソ				○	○		
1221 <i>Milium effusum</i> Linn.	イブキヌカゴ				○			
1222 <i>Miscanthus oligostachyus</i> Stapf	カリヤスモドキ						○	茨城県：絶滅危惧種
1223 <i>Miscanthus sacchariflorus</i> (Maxim.) Benth.	オギ	○		○				
1224 <i>Miscanthus sinensis</i> Anders.	ススキ	○	○	○	○	○		
1225 <i>Molinia japonica</i> Hack.	ヌマガヤ				○	○		
1226 <i>Muhlenbergia japonica</i> Steud.	ネズミガヤ	○	○	○		○		
1227 <i>Muhlenbergia longistolon</i> Ohwi	オオネズミガヤ		○			○		
1228 <i>Muhlenbergia ramosa</i> (Hack.) Makino	キダチノネズミガヤ				○	○		
1229 <i>Oplismenus japonicus</i> Honda	コチヂミザサ	○	○	○	○	○		
1230 <i>Oplismenus undulatifolius</i> (Ard.) Roemer et Schultes	ケチヂミザサ	○	○	○	○	○		
1231 <i>Panicum bisulcatum</i> Thunb.	ヌカキビ	○	○	○	○	○		
1232 <i>Paspalum thunbergii</i> Kunth ex Steud.	スズメノヒエ		○	○	○	○		
1233 <i>Pennisetum alopecuroides</i> (Linn.) Spreng.	チカラシバ	○	○	○	○	○		
1234 <i>Phalaris arundinacea</i> Linn.	クサヨシ	○	○	○	○	○		
1235 <i>Phleum pratense</i> Linn.	オオアワガエリ		○	○	○			
1236 <i>Phragmites australis</i> (Cav.) Trin. ex Steud.	ヨシ	○				○		
1237 <i>Phragmites japonica</i> Steud.	ツルヨシ		○	○	○	○		
1238 <i>Pleioblastus chino</i> (Franch. et Savat.) Makino	アズマネザサ	○	○	○		○		
1239 <i>Pleioblastus simonii</i> (Carr.) Nakai	メダケ	○						
1240 <i>Poa acroleuca</i> Steud.	ミゾイチゴツナギ	○	○	○	○			
1241 <i>Poa acroleuca</i> Steud. var. <i>submoniliformis</i> Makino	タマミゾイチゴツナギ				○			
1242 <i>Poa annua</i> Linn.	スズメノカタビラ		○					
1243 <i>Poa annua</i> Linn. var. <i>reptans</i> Hausskn.	ツルスズメノカタビラ	○	○	○			○	
1244 <i>Poa hisauchii</i> Honda	ヤマミゾイチゴツナギ				○			
1245 <i>Poa nipponica</i> Koidz.	オオイチゴツナギ	○	○					
1246 <i>Poa pratensis</i> Linn.	ナガハゲサ	○	○					
1247 <i>Poa sphondylodes</i> Trin.	イチゴツナギ	○	○	○	○			
1248 <i>Polyogon fugax</i> Steud.	ヒエガエリ	○						
1249 <i>Pseudosasa japonica</i> (Sieb. et Zucc. ex Steud.) Makino	ヤダケ			○	○		○	
1250 <i>Sacciolepis indica</i> (Linn.) Chase var. <i>oryztorum</i> (Makino) Ohwi	ヌメリグサ				○		○	
1251 <i>Sacciolepis spicata</i> (Linn.) Honda	ハイヌメリ				○	○	○	
1252 <i>Sasa nipponica</i> (Makino) Makino et Shibata	ミヤコザサ	○			○	○	○	
1253 <i>Sasa samiana</i> Nakai var. <i>yoshinoi</i> (Koidz.) S. Suzuki	ビッチュウミヤコザサ						○	
1254 <i>Sasaella ramosa</i> (Makino) Makino	アズマザサ				○		○	
1255 <i>Sasamorpha borealis</i> (Hack.) Nakai	スズダケ	○	○	○	○	○		
1256 <i>Sasamorpha mollis</i> Nakai	ケスズ				○			
1257 <i>Setaria chondrachne</i> (Steud.) Honda	イヌアワ				○			
1258 <i>Setaria faberi</i> Herrm.	アキノエノコログサ	○		○			○	
1259 <i>Setaria glauca</i> (Linn.) Beauv.	キンエノコロ	○	○	○	○	○	○	
1260 <i>Setaria viridis</i> (Linn.) Beauv.	エノコログサ			○	○			
1261 <i>Setaria viridis</i> (Linn.) Beauv. form. <i>japonica</i> Ohwi	カタバエノコロ						○	
1262 <i>Setaria viridis</i> (Linn.) Beauv. form. <i>miseria</i> Honda	ムラサキエノコロ				○	○		
1263 <i>Setaria viridis</i> (Linn.) Beauv. var. <i>pachystachys</i> (Franch. et Savat.) Makino et Nemoto	ハマエノコロ	○						
1264 <i>Spodiopogon sibiricus</i> Trin.	オオアブラススキ			○	○	○	○	
1265 <i>Sporobolus fertilis</i> (Steud.) W. Clayton	ネズミノオ	○		○		○	○	
1266 <i>Sporobolus fertilis</i> (Steud.) W. Clayton var. <i>purpureo-suffusus</i> (Ohwi) Ohwi	ムラサキネズミノオ						○	
1267 <i>Stipa coreana</i> Honda var. <i>kengii</i> Ohwi	ヒロハノハネガヤ						○	
1268 <i>Themeda japonica</i> (Willd.) C. Tanaka	メガルカヤ				○			
1269 <i>Tripogon longearistatus</i> Honda var. <i>japonicus</i> Honda	フクロダガヤ			○	○			環境省：絶滅危惧ⅠA類，茨城県：危急種
1270 <i>Trisetum bifidum</i> (Thunb.) Ohwi	カニツリグサ	○	○	○	○	○		
1271 <i>Vulpia myuros</i> (Linn.) C. C. Gmel	ナギナタガヤ	○	○				○	
1272 <i>Zizania latifolia</i> Turcz.	マコモ				○			
1273 <i>Zoysia japonica</i> Steud.	シバ	○	○	○			○	
1274 <i>Zoysia macrostachya</i> Franch. et Savat.	オニシバ	○						
Palmae	ヤシ科							
1275 <i>Trachycarpus fortunei</i> (Hook.) H. Wendl.	シュロ					○	○	逸出
Araceae	サトイモ科							
1276 <i>Acorus calamus</i> Linn. var. <i>angustatus</i> Bess.	ショウブ	○		○	○		○	
1277 <i>Acorus gramineus</i> Soland.	セキショウ				○		○	
1278 <i>Arisaema limbatum</i> Nakai et F. Maekawa	ミミガタテンナンショウ			○	○	○	○	
1279 <i>Arisaema peniusulae</i> Nakai	コウライテンナンショウ				○			
1280 <i>Arisaema serratum</i> (Thunb.) Schott	マムシグサ			○	○		○	
1281 <i>Arisaema takadae</i> Makino	オオマムシグサ				○			
1282 <i>Arisaema urashima</i> Hara	ウラシマソウ	○	○	○	○		○	
1284 <i>Pinellia ternata</i> (Thunb.) Breitenb.	カラスビシャク			○	○		○	
Lemnaceae	ウキクサ科							
1285 <i>Lemna aoukikusa</i> Beppu et Murata	アオウキクサ				○			
1286 <i>Lemna minor</i> Linn.	コウキクサ	○						
1287 <i>Spirodela polyrrhiza</i> (Linn.) Schleid.	ウキクサ				○		○	
Sparganiaceae	ミクリ科							
1288 <i>Sparganium stoloniferum</i> Hamilt.	ミクリ	○		○				環境省：準絶滅危惧種，茨城県：希少種
Typhaceae	ガマ科							
1289 <i>Typha domingensis</i> Pers.	ヒメガマ	○		○			○	
1290 <i>Typha latifolia</i> Linn.	ガマ	○		○	○			
1291 <i>Typha orientalis</i> Presl	コガマ				○			
Cyperaceae	カヤツリグサ科							



学名	和名	海	鍋	久	鷺	花	八	備考
		岸	足	慈	子	瓶	溝	
		1	2	3	4	5	6	
1292	<i>Bulbostylis barbata</i> (Rottb.) Kunth	○						
1293	<i>Carex alterniflora</i> Franch.		○	○	○	○	○	
1294	<i>Carex aphanandra</i> Franch. et Savat.				○		○	
1295	<i>Carex aphanolepis</i> Franch. et Savat.				○	○	○	
1296	<i>Carex arenicola</i> Fr. Schm.	○						
1297	<i>Carex biwensis</i> Franch.				○	○	○	
1298	<i>Carex capricornis</i> Meinsh.	○						環境省：絶滅危惧 I B類
1299	<i>Carex confertiflora</i> Boott				○	○		
1300	<i>Carex conica</i> Boott		○	○	○		○	
1301	<i>Carex curvicolis</i> Franch. et Savat.				○			
1302	<i>Carex dickinsii</i> Franch. et Savat.				○	○		
1303	<i>Carex dimorpholepis</i> Steud.	○			○	○		
1304	<i>Carex dispalata</i> Boott				○	○	○	
1305	<i>Carex duvaliana</i> Franch. et Savat.		○	○				
1306	<i>Carex fernaldiana</i> Le'v. et Van.						○	
1307	<i>Carex fibrillosa</i> Franch. et savat.	○						
1308	<i>Carex filipes</i> Franch. et Savat.				○			
1309	<i>Carex forcifolia</i> Franch. et Savat.				○	○	○	
1310	<i>Carex gibba</i> Wahlenb.				○	○	○	○
1311	<i>Carex grillatoria</i> Maxim.				○	○	○	○
1312	<i>Carex grillatoria</i> Maxim. var. <i>heteroclita</i> (Franch.) Kuekenth.				○			○
1313	<i>Carex heterolepis</i> Bunge				○	○		
1314	<i>Carex hirtifructus</i> Kuekenth.				○			茨城県：希少種
1315	<i>Carex incisa</i> Boott						○	○
1316	<i>Carex ischnostachya</i> Steud.				○	○	○	○
1317	<i>Carex japonica</i> Thunb.	○	○	○	○	○	○	○
1318	<i>Carex kiotensis</i> Franch. et Savat.				○	○	○	○
1319	<i>Carex kobomugi</i> Ohwi	○						
1320	<i>Carex lanceolata</i> Boott	○	○	○	○		○	
1321	<i>Carex lasiolepis</i> Franch.				○	○	○	○
1322	<i>Carex lenta</i> D. Don	○			○	○	○	○
1323	<i>Carex leucochlora</i> Bunge	○	○	○	○	○	○	○
1324	<i>Carex macroglossa</i> Franch. et Savat.				○	○		○
1325	<i>Carex maximowiczii</i> Miq.				○		○	○
1326	<i>Carex maximowiczii</i> Miq. var. <i>levisaccus</i> Ohwi				○			
1327	<i>Carex mitrata</i> Franch.	○						
1328	<i>Carex mitrata</i> Franch. var. <i>aristata</i> Ohwi				○			
1329	<i>Carex miyabei</i> Franch.				○			
1330	<i>Carex mollicula</i> Boott				○	○		○
1331	<i>Carex morrowii</i> Boott				○	○	○	○
1332	<i>Carex multifolia</i> Ohwi				○	○	○	○
1333	<i>Carex nanella</i> Ohwi	○	○	○	○			○
1334	<i>Carex nervata</i> Franch. et Savat.	○			○			○
1335	<i>Carex neurocarpa</i> Maxim.					○		
1336	<i>Carex omiana</i> Franch. et Savat.				○	○		
1337	<i>Carex otaruensis</i> Franch.				○		○	○
1338	<i>Carex phacota</i> Spreng. var. <i>gracilispica</i> Kuekenth.				○			
1339	<i>Carex planata</i> Franch. et Savat.				○	○	○	○
1340	<i>Carex podogyna</i> Franch. et Savat.				○			
1341	<i>Carex puberula</i> Boott				○	○	○	○
1342	<i>Carex pumila</i> Thunb.	○						
1343	<i>Carex reinii</i> Franch. et Savat.				○	○	○	○
1344	<i>Carex rhizopoda</i> Maxim.				○	○	○	○
1345	<i>Carex rugata</i> Ohwi				○			
1346	<i>Carex sendaica</i> Franch.	○						○
1347	<i>Carex shimidzensis</i> Franch.					○	○	
1348	<i>Carex siderosticta</i> Hance				○	○	○	○
1349	<i>Carex thunbergii</i> Steud.				○	○		○
1350	<i>Carex transversa</i> Boott	○	○	○				
1351	<i>Carex tristachya</i> Thunb.				○			
1352	<i>Carex x hosoi</i> T. Koyama				○			
1353	<i>Cyperus amuricus</i> Maxim. var. <i>japonicus</i> Miq.	○			○			
1354	<i>Cyperus difformis</i> Linn.				○	○		○
1355	<i>Cyperus flaccidus</i> R. Br.				○			
1356	<i>Cyperus flavidus</i> Retz.	○			○			○
1357	<i>Cyperus halpan</i> Linn.	○						○
1358	<i>Cyperus iria</i> Linn.				○	○	○	○
1359	<i>Cyperus microiria</i> Steud.	○	○	○	○	○	○	○
1360	<i>Cyperus nipponicus</i> Franch. et Savat.				○			
1361	<i>Cyperus orthostachyus</i> Franch. et Savat.				○	○	○	
1362	<i>Cyperus rotundus</i> Linn.	○						
1363	<i>Cyperus sanguinolentus</i> Vahl					○		○
1364	<i>Eleocharis acicularis</i> (Linn.) Roem. et Schult. var. <i>longiseta</i> Svenson				○	○		
1365	<i>Eleocharis japonica</i> Miq.				○	○	○	○
1366	<i>Eleocharis kuroguwai</i> Ohwi				○			
1367	<i>Eleocharis wichurae</i> Boeckl.				○			
1368	<i>Fimbristylis autumnalis</i> (Linn.) Roem. et Schult.				○	○		
1369	<i>Fimbristylis miliacea</i> (Linn.) Vahl				○			○
1370	<i>Fimbristylis sericea</i> (Poir.) R. Br.	○			○	○	○	
1371	<i>Fimbristylis subbispicata</i> Nees et Meyen				○			
1372	<i>Kyllinga gracillima</i> Miq.	○	○	○	○	○	○	○

植 物

学名	和名	海岸	鍋足山	久慈山地	鷲子山	花瓶山	八溝山	備考
		1	2	3	4	5	6	
1373 <i>Lipocarpa microcephala</i> (R. Br.) Kunth	ヒンジガヤツリ				○			
1374 <i>Schoenus apogon</i> Roem. et Schult.	ノグサ			○				
1375 <i>Scirpus concolor</i> Maxim.	アブラガヤ			○	○	○		
1376 <i>Scirpus fuirenooides</i> Maxim.	コマツカサスキ			○	○			
1377 <i>Scirpus hotarui</i> Ohwi	ホタルイ	○		○	○			
1378 <i>Scirpus juncooides</i> Roxb.	イヌホタルイ			○				
1379 <i>Scirpus triquetus</i> Linn.	サンカクイ	○		○				
1380 <i>Scirpus yagara</i> Ohwi	ウキヤガラ	○		○				
Zingiberaceae								
1381 <i>Zingiber mioga</i> (Thunb.) Roscoe	ショウガ科 ミョウガ			○		○	○	逸出
Orchidaceae								
1382 <i>Amitostigma gracile</i> (Blume) Schltr.	ヒナラン			○				環境省：絶滅危惧ⅠB類，茨城県：絶滅危惧種
1383 <i>Bulbophyllum drymoglossum</i> Maxim.	マメヅタラン		○	○				環境省：絶滅危惧Ⅱ類，茨城県：危急種
1384 <i>Bulbophyllum inconspicuum</i> Maxim.	ムギラン		○	○				環境省：絶滅危惧Ⅱ類，茨城県：危急種
1385 <i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume	ギンラン	○	○	○				
1386 <i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume var. <i>subaphylla</i> Ohwi	ユウシュンラン				○			環境省：絶滅危惧Ⅱ類，茨城県：危急種
1387 <i>Cephalanthera longibracteata</i> Blume	ササバギンラン		○	○	○	○		
1388 <i>Cremastra appendiculata</i> (D. Don) Makino	サイハイラン		○	○	○	○	○	
1389 <i>Cymbidium goeringii</i> (Reichb. fil.) Reichb. fil.	シュンラン	○	○	○	○	○	○	
1390 <i>Dendrobium moniliforme</i> (Linn.) Sw.	セッコク			○				茨城県：絶滅危惧種
1391 <i>Epipactis papillosa</i> Franch. et Savat. var. <i>sayekiana</i> T. Koyama et Asai	ハマカキラン	○						環境省：絶滅危惧Ⅱ類，茨城県：危急種
1392 <i>Epipactis thunbergii</i> A. Gray	カキラン			○				
1393 <i>Galeola septentrionalis</i> Reichb. fil.	ツチアケビ		○	○	○			
1394 <i>Goodyera schlechtendaliana</i> Reichb. fil.	ミヤマウスラ	○		○	○			
1395 <i>Lecanorchis japonica</i> Blume	ムヨウラン			○	○			茨城県：危急種
1396 <i>Liparis krameri</i> Franch. et Savat.	ジガバチソウ		○	○	○	○		
1397 <i>Liparis kumokiri</i> F. Maekawa	クモキリソウ		○	○	○	○	○	
1398 <i>Orchis graminifolia</i> (Reichb. fil.) Tang et Wang	ウチヨウラン		○	○	○			環境省：絶滅危惧Ⅱ類，茨城県：絶滅危惧種
1399 <i>Platanthera minor</i> (Miq.) Reichb. fil.	オオバノトンボソウ	○	○	○	○		○	
1400 <i>Platanthera sachalinensis</i> Fr. Schm.	オオヤマサギソウ			○				茨城県：希少種
1401 <i>Sarcochilus japonicus</i> (Reichb. fil.) Miq.	カヤラン			○	○	○		
1402 <i>Spiranthes sinensis</i> (Pers.) Ames var. <i>amoena</i> (M. Bieberson) Hara	ネジバナ	○	○	○	○	○	○	
1403 <i>Tipularia japonica</i> Matsum.	ヒトツボクロ	○			○			茨城県：危急種
1404 <i>Tulotis ussuriensis</i> (Regel) Hara	トンボソウ		○	○	○	○	○	
		494	708	1127	708	594	802	

凡例

学名および和名の配列

- ・科の配列順序は、「植物目録」(環境庁自然保護局, 1987)に従った。
- ・属および種の配列は、学名のアルファベット順とした。
- ・和名と学名は、主としてシダ植物を「日本の野生植物・シダ」(岩槻邦男, 1992)に、種子植物を「新日本植物誌顕花編」(大井次三郎著・北川政夫改訂, 1992)、帰化植物を「原色日本帰化植物図鑑」(長田武正, 1976)によった。一部の種類についてはその他の文献から適切と思われる学名を使用した。

地区別リスト

- ・地区別リストは海岸、鍋足山、奥久慈、鷲子山、花瓶山および八溝山の6地区にわけた。

備考

- ・茨城県 - : 茨城県版レッドデータブック (1997) 該当種
- ・環境省 - : 環境庁版レッドデータブック (2000) 該当種